



神奈川県
政策局政策部
情報公開広聴課

令和3年度

県民ニーズ調査

基本調査…………… 令和3年12月公表

県民の生活と県政についての意識調査

第1回課題調査…………… 令和4年2月公表

テーマ「食・食育」「食の安全・安心」「神奈川県の農林水産業」

「ともに生きる社会かながわ」「かながわの広報」

「神奈川県の人権」「男女共同参画社会」

「SDGs(持続可能な開発目標)」「気候変動への適応」

「電気自動車(EV)の普及」「プラスチックごみ削減に向けて」

「地域コミュニティ」「治安対策」「マスク飲食」

第2回課題調査…………… 令和4年3月公表

テーマ「スポーツ」「セーリングの普及」

「ねんりんピックかながわ 2022」「『未病改善』の取組み」

「肝炎対策」「依存症に対する意識」「がん対策」

「かながわの水源地域」「生物多様性」「地震対策の取組み」

「自転車損害賠償責任保険等の加入」

「子育てにおける体罰の意識」

「青少年を保護する条例の認知度」「地域社会との関わり」

「地域や地域の人々と多様に関わる人々(関係人口)」

「テレワーク(リモートワーク)のニーズ」

はじめに

神奈川県では、県民の意識・価値観などの変化や多様化する生活ニーズを的確に把握し、その結果を施策に反映することにより、県民参加の行政を一層推進するため、毎年度「県民ニーズ調査」を実施しています。

県民ニーズ調査は、県民の生活や県政についての意識を継続的に調査している「基本調査」と、時勢に応じたテーマについて調査する「課題調査」があります。本報告書は、令和3年7月から8月にかけて実施した「基本調査」、9月から10月にかけて14テーマについて実施した「第1回課題調査」、及び10月から11月にかけて16テーマについて実施した「第2回課題調査」の結果をまとめたものです。

この報告書が、行政担当者のみならず、県民生活の現状と将来に関心を寄せる方々に広くご活用いただければ幸いです。

おわりに、このたびの調査にご協力いただきました県民の皆様をはじめ、関係の方々に厚くお礼申し上げます。

令和4年3月

神奈川県政策局長

目次

県民ニーズ調査の概要	1
------------	---

基本調査

第Ⅰ部 調査の概要	3
-----------	---

- 1 調査の目的
- 2 調査内容
- 3 調査設計
- 4 回収結果
- 5 標本の抽出方法について
- 6 集計・分析にあたって
- 7 調査結果の誤差
- 8 回答者の属性

第Ⅱ部 調査結果の概要	11
-------------	----

第Ⅲ部 調査結果の詳細	21
-------------	----

- 第1章 暮らし全般について
 - 1 生活総合満足度
 - 2 暮らし向きの変化
 - 3 今後の暮らし向きの見通し
 - 4 地域の住みよさ
 - 5 定住意向
- 第2章 生活意識
- 第3章 暮らしの満足度
 - 1 重要度
 - 2 満足度
- 第4章 県行政への要望

第Ⅳ部 県政への自由意見	91
--------------	----

第Ⅴ部 グラフ（暮らしの満足度、県行政への要望）	95
--------------------------	----

- 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（図表A）
- 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（図表B）
- 県行政への要望－過去との比較（図表C）

第Ⅵ部 調査票と単純集計結果	121
----------------	-----

第1回課題調査

第Ⅰ部 調査の概要	135
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第Ⅱ部 調査結果の概要	143
第Ⅲ部 調査結果の詳細	155
第1章 食・食育	157
1 「食育」への関心	
2 健康的な食事内容の心がけ	
3 就寝前の食事を控えているか	
4 朝食を同居の方と食べる頻度	
5 夕食を同居の方と食べる頻度	
6 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
7 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
8 食事のマナーを正しくできていることへの意識	
9 ゆっくりよく噛んで食べているか	
10 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか	
11 歯と口の健康を保つためにかかりつけ医を決めているか	
第2章 食の安全・安心	179
1 食品を購入する際に確認している表示内容	
2 食中毒を予防する上で重要なこと	
3 食品を安全に食べるために必要な知識	
第3章 神奈川県 of 農林水産業	185
1 「地産地消」の取組みの重要度	
2 「かながわブランド」の認知度	
3 県の農業に期待する役割	
第4章 とともに生きる社会かながわ	191
1 とともに生きる社会かながわ憲章の認知度	
2 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法	
3 身近で障がい者と接する機会	

4	障がい者に配慮した行動をとる人	
5	障がい者への差別・偏見の有無	
6	希望する手話の学習方法	
7	文化芸術活動を楽しむために有効だと思う取組み	
第5章	かながわの広報	205
1	県の広報の達成度	
2	県の広報媒体の認知度	
3	県の情報の入手先	
第6章	神奈川県の人権	211
1	基本的人権が尊重されている社会か	
2	普段身近に感じている、または最近気になっている人権課題	
3	人権課題を解消するために力を入れるべき取組み	
第7章	男女共同参画社会	217
1	女性が職業をもつことに対する考え	
2	女性が活躍するために必要な取組みや支援	
3	男性が家事や育児などにかかわるために必要なこと	
4	男女共同参画社会実現のために力を入れるべき施策	
5	家庭における役割分担	
第8章	SDGs（持続可能な開発目標）	229
1	「SDGs」の認知度	
2	SDGsの取組み意向	
3	SDGs達成に向け効果的な後押し	
第9章	気候変動への適応	235
1	「気候変動への適応」への関心	
第10章	電気自動車（EV）の普及	237
1	電気自動車（EV）に対する購入ニーズ	
2	電気自動車（EV）を購入したいと思う理由	
3	電気自動車（EV）を購入したいと思わない理由	
第11章	プラスチックごみ削減に向けて	243
1	プラスチックごみの削減やリサイクルの推進に向けて心がけていること	
2	ペットボトルを飲料の容器として使用することに対する意識	
3	海洋プラスチックごみ問題解決に向けて必要だと思う県の取組み	
第12章	地域コミュニティ	249
1	親族との同居意向	
2	コミュニケーションを取る相手の年代	
3	コミュニケーションに期待しているもの	
4	「地域コミュニティ」のイメージ範囲	
第13章	治安対策	257

1	不安を感じる犯罪	
2	地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法	
3	犯罪がなく安心してくらすために最も重要だと思うもの	
4	交通事故のない社会を目指すために重要だと思うもの	
第 14 章	マスク飲食	265
1	「マスク飲食（会食）」の実践状況	
2	「マスク飲食（会食）」を実践していない理由	
3	「マスク飲食（会食）」を実践してもらうための取り組み	
第 V 部	調査票と単純集計結果	271

第 2 回課題調査

第 I 部	調査の概要	291
1	調査の目的	
2	調査内容	
3	調査設計	
4	回収結果	
5	標本の抽出方法について	
6	集計・分析にあたって	
7	調査結果の誤差	
8	回答者の属性	
第 II 部	調査結果の概要	299
第 III 部	調査結果の詳細	315
第 1 章	スポーツ	317
1	体力への自信の有無	
2	1 年間のスポーツ実施日数	
3	「3033（サンマルサンサン）運動」の認知度	
4	印象に残った東京 2020 オリンピックの県内開催競技	
5	東京 2020 オリンピック・パラリンピックを見た後の、 スポーツに関する行動の変化	
6	「かながわパラスポーツ」の認知度	
第 2 章	セーリングの普及	329
1	セーリング競技への興味・関心	
2	興味・関心を持ったきっかけ	
3	セーリング関係でやってみたい取り組み	
第 3 章	ねんりんピックかながわ	335
1	ねんりんピックかながわの開催の認知度	

2	「ねんりんピックかながわ」で参加してみたい活動	
3	「ねんりんピックかながわ」を盛り上げていくために有効な方法	
第4章	「未病改善」の取組み -----	341
1	「未病（ME－BYO）」の認知度	
2	「未病（ME－BYO）」の意味の認知度	
3	「未病改善」の取組みの実践	
4	「未病改善」の取組みに必要なだと思うもの	
第5章	肝炎対策 -----	349
1	ウイルス性肝炎の認知度	
2	「肝炎ウイルス検査」の受検状況	
3	検査結果の把握状況	
第6章	依存症に対する意識 -----	355
1	依存症についてあてはまると思うこと	
2	依存症に関する相談場所として知っているもの	
3	相談できる場所を知ったきっかけ	
4	あなたやあなたの身近な人が依存症になった場合や疑われる場合に 相談したい場所	
5	依存症の回復に必要と思うもの	
第7章	がん対策 -----	365
1	コロナ禍における「がん検診」の受診	
2	がん検診を受けようと思う場所	
3	がん検診を受ける人が少ない理由	
第8章	かながわの水源地域 -----	371
1	県内のダム湖の認知度	
2	ダム湖が観光スポットになっていることの認知度	
3	ダム湖で体験したいと思うもの	
第9章	生物多様性 -----	377
1	「生物多様性」の言葉の意味の認知度	
2	生物多様性の保全のために日頃から心がけていること、実践していること	
3	周辺地域の自然環境の変化	
第10章	地震対策の取組み -----	383
1	大きな地震に備えた対策	
2	海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動	
3	「津波」に対する知識	
4	津波に対して実施が望まれる制度	
第11章	自転車損害賠償責任保険等の加入 -----	395
1	自転車の利用状況	
2	自転車損害賠償責任保険等への加入状況	

3	自転車損害賠償責任保険等に加入することについての考え	
第12章	子育てにおける体罰の意識	401
1	体罰によらない子育てをするために必要な取組み	
2	体罰などが子どもに与える影響	
3	子どものしつけで困った時の相談先	
第13章	青少年を保護する条例の認知度	407
1	青少年保護育成条例の内容の認知度	
2	青少年喫煙飲酒防止条例の内容の認知度	
第14章	地域社会との関わり	411
1	地域社会との関わり方に関する意識	
第15章	地域や地域の人々と多様に関わる人々（関係人口）	413
1	継続的に関わりを持ちたいと思う特定の地域の有無	
2	お住まいの地域以外で、関わりを持ちたいと思うもの	
3	お住まいの地域以外で、関わりを持ちたい地域	
第16章	テレワーク（リモートワーク）のニーズ	419
1	テレワーク（リモートワーク）をしたいと考える場所	
2	自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に望むもの	
3	実施したいワーケーションの形態	
第V部	調査票と単純集計結果	425

第2回課題調査

第I部 調査の概要

1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

2 調査内容

- (1) スポーツ
- (2) セーリングの普及
- (3) ねんりんピックかながわ2022
- (4) 「未病改善」の取組み
- (5) 肝炎対策
- (6) 依存症に対する意識
- (7) がん対策
- (8) かながわの水源地域
- (9) 生物多様性
- (10) 地震対策の取組み
- (11) 自転車損害賠償責任保険等の加入
- (12) 子育てにおける体罰の意識
- (13) 青少年を保護する条例の認知度
- (14) 地域社会との関わり
- (15) 地域や地域の人々と多様に関わる人々（関係人口）
- (16) テレワーク（リモートワーク）のニーズ

3 調査設計

- | | |
|------------|--------------------------------------|
| (1) 調査地域 | 神奈川県全域 |
| (2) 調査対象 | 県内在住の満18歳以上の男女 |
| (3) 標本数 | 3,000標本 |
| (4) 標本抽出方法 | 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | ア 郵送による調査票の配布
イ 郵送回答とインターネット回答の併用 |
| (6) 調査期間 | 令和3年10月29日（金）～11月22日（月） |
| (7) 調査委託機関 | 株式会社 C C Nグループ |

4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標本数	3,000標本
有効回収数	1,409標本 〔 郵送回答 : 896件 インターネット回答 : 513件 〕
有効回収率	47.0%

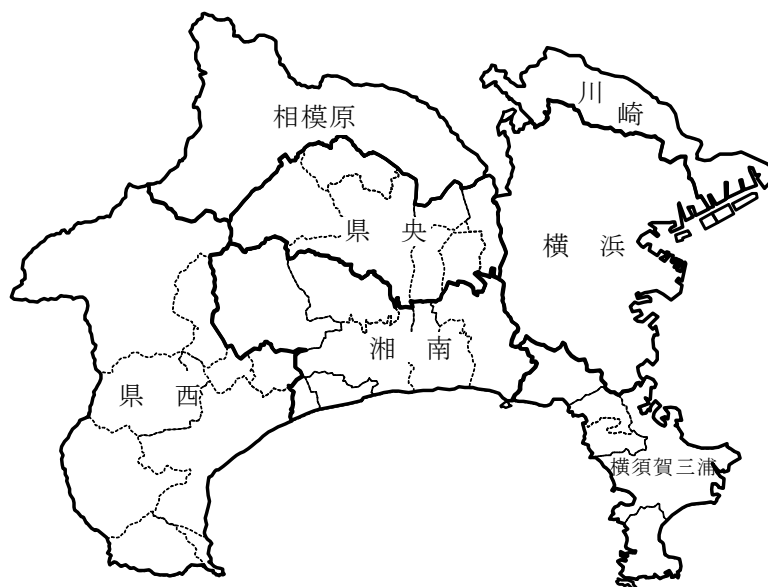
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	581	48.4%
川崎	川崎市	460	182	39.6%
相模原	相模原市	220	88	40.0%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	121	46.5%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	143	47.7%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	213	48.4%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	57	47.5%
無 回 答				
全 体		3,000	1,409	47.0

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（令和2年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,182,266人 60地点 1,200標本	-	-	3,182,266人 60地点 1,200標本
川 崎	1,270,952人 23地点 460標本	-	-	1,270,952人 23地点 460標本
相模原	614,463人 11地点 220標本	-	-	614,463人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	572,482人 12地点 240標本	26,022人 1地点 20標本	598,504人 13地点 260標本
県 央	-	685,576人 14地点 280標本	36,096人 1地点 20標本	721,672人 15地点 300標本
湘 南	-	1,015,378人 20地点 400標本	90,993人 2地点 40標本	1,106,371人 22地点 440標本
県 西	-	198,375人 4地点 80標本	92,782人 2地点 40標本	291,157人 6地点 120標本
人口計	5,067,681人	2,471,811人	245,893人	7,785,385人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（令和2年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものである。

6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している）。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 男女の18～29歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がない場合がある。
- (7) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (8) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 回答者数
 P = 回答比率

上の式により、回答者数（ n ）、および回答比率（ P ）ごとに信頼度95%のときの標本誤差（%）を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率（ P ） 回答者数（ n ）	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,409	± 2.26	± 3.01	± 3.45	± 3.69	± 3.77
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数（ n ）が 1,409 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.69%以内（真の値は、63.69%～56.31%）である」とみることができる。

8 回答者の属性

(1) 居住地域 (n=1,409) (%)

横浜	41.2
川崎	12.9
相模原	6.2
横須賀三浦	8.6
県央	10.1
湘南	15.1
県西	4.0

(無回答 1.7)

(2) 性別 (n=1,409) (%)

男性	45.6
女性	49.3

(無回答 5.1)

(3) 年齢 (n=1,409) (%)

18～29歳	4.5
30～39歳	12.8
40～49歳	20.7
50～59歳	22.0
60～69歳	19.9
70～74歳	10.8
75歳以上	6.3

(無回答 3.0)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1,409) (%)

小学校入学前	8.8
小学校在学中	11.4
中学校在学中	6.7
高校在学中	6.3
短大、専門学校等在学中	1.3
大学、大学院等在学中	6.2
学校教育終了[未婚]	20.9
学校教育終了[既婚]	23.9
その他	3.1
子どもはいない	30.7

(無回答 4.0)

(5) 家族形態 (n=1,409) (%)

一人暮らし (単身世帯)	15.8
夫婦のみ (1世代世帯)	24.9
親と子の世帯 (2世代世帯)	46.9
祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	5.0
その他の世帯	4.1

(無回答 3.3)

(6) 職業区分 (n=1,409) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	6.0
	家族従業者	1.1
勤め・内職	勤め (フルタイム)	42.8
	勤め (パートタイム)	15.4
	内職	0.1
主婦・主夫 (勤めについていない)		14.1
学生		0.6
無職		14.9
その他		0.4

(無回答 4.6)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=922) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	1.1
	商工サービス業	5.0
	自由業	3.8
勤め・内職	経営・管理職	6.8
	専門・技術職	20.2
	事務職	23.5
	教育職	3.6
	技能・労務職	11.1
	販売・サービス職	21.0

(無回答 3.9)

第 2 回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。

例：問7で「興味・関心があり、定期的に競技を行っている」と「興味・関心があり、セーリングの体験や見学、競技観戦をしたことがある」と「どちらかといえば興味・関心がある」を合わせたものを《興味・関心がある》と表現している。

また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。

- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

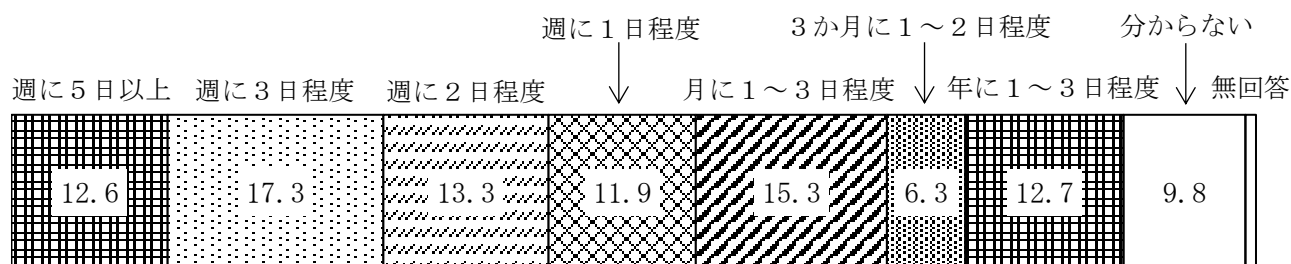
1 スポーツ（問1～問6）

県では、神奈川県スポーツ推進条例に基づき、神奈川県スポーツ推進計画「エンジョイ・スポーツ！かながわプラン」を策定し、様々なスポーツ施策に取り組んでいます。今回、1年間のスポーツ実施日数などについて調査しました。

▼1年間のスポーツ実施日数（問2）

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に3日程度」が17.3%で最も多く、次いで「月に1～3日程度」が15.3%であった。[図表1]

図表1 1年間のスポーツ実施日数（n=1,409）（%）



2 セーリングの普及（問7～問8）

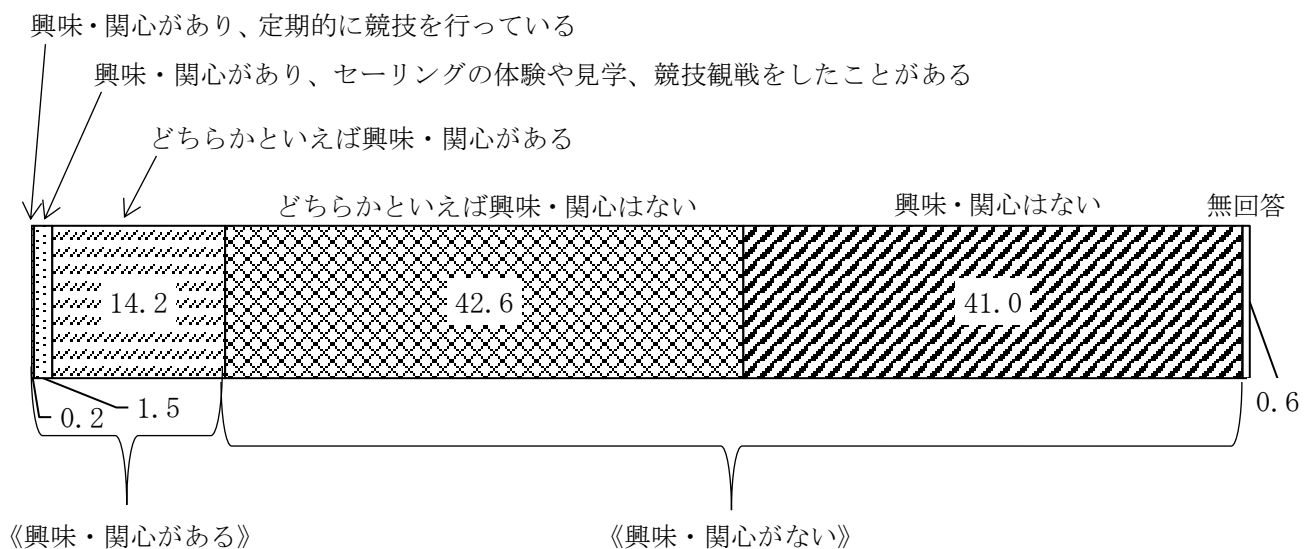
県では、東京 2020 オリンピック・セーリング競技の会場所在自治体として、セーリングの普及を推進しています。今回、東京 2020 オリンピック・セーリング競技開催後のセーリング競技への興味・関心について調査しました。

▼セーリング競技への興味・関心（問7）

セーリング競技に興味・関心があるか尋ねたところ、「興味・関心があり、定期的に競技を行っている」（0.2%）と「興味・関心があり、セーリングの体験や見学、競技観戦をしたことがある」（1.5%）、「どちらかといえば興味・関心がある」（14.2%）を合わせた《興味・関心がある》が 15.9%であった。

一方、「興味・関心はない」（41.0%）と「どちらかといえば興味・関心はない」（42.6%）を合わせた《興味・関心はない》が 83.5%であった。[図表 2]

図表 2 セーリング競技への興味・関心（n=1,409）（%）



3 ねんりんピックかながわ 2022（問 9～問 11）

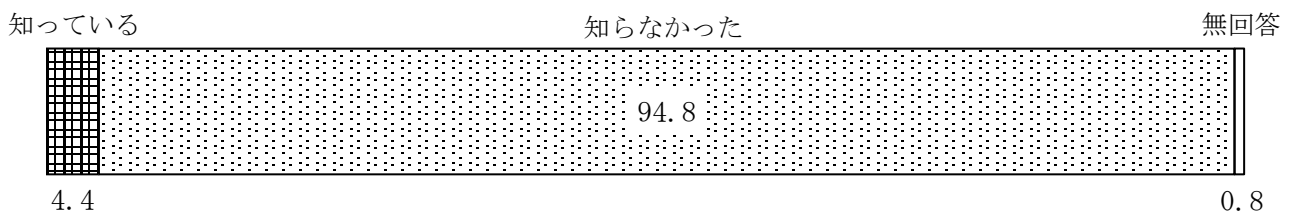
県では、未病改善で笑顔あふれる人生 100 歳時代を目指し、高齢者をはじめ、誰もがスポーツや文化活動を楽しめるねんりんピックかながわを、2022 年に神奈川県内で初めて開催するため、準備を進めています。今回、ねんりんピックかながわの開催の認知度などについて調査しました。

▼ねんりんピックかながわの開催の認知度（問 9）

ねんりんピックかながわが開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が 4.4%であった。

一方、「知らなかった」が 94.8%であった。[図表 3]

図表 3 ねんりんピックかながわの開催の認知度 (n=1,409) (%)



4 「未病改善」の取組み（問 12～問 15）

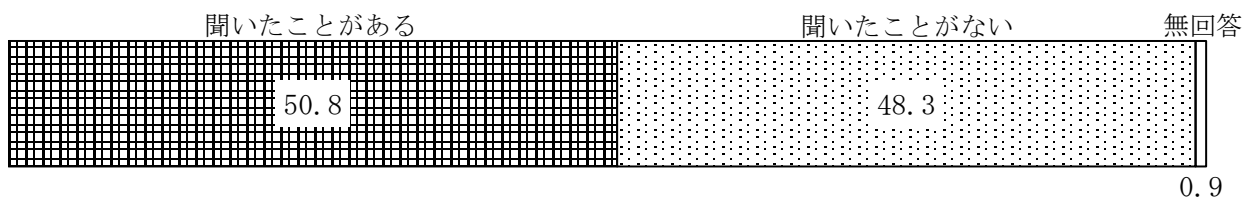
「未病」とは、健康と病気を 2 つの明確に分けられる概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、このすべての変化の過程を表す概念です。県では、「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。今回、「未病 (ME-BYO)」の認知度などについて調査しました。

▼「未病 (ME-BYO)」の認知度（問 12）

「未病 (ME-BYO)」という言葉を知ったことがあるか尋ねたところ、「聞いたことがある」が 50.8%であった。

一方、「聞いたことがない」が 48.3%であった。[図表 4]

図表 4 「未病 (ME-BYO)」の認知度 (n=1,409) (%)



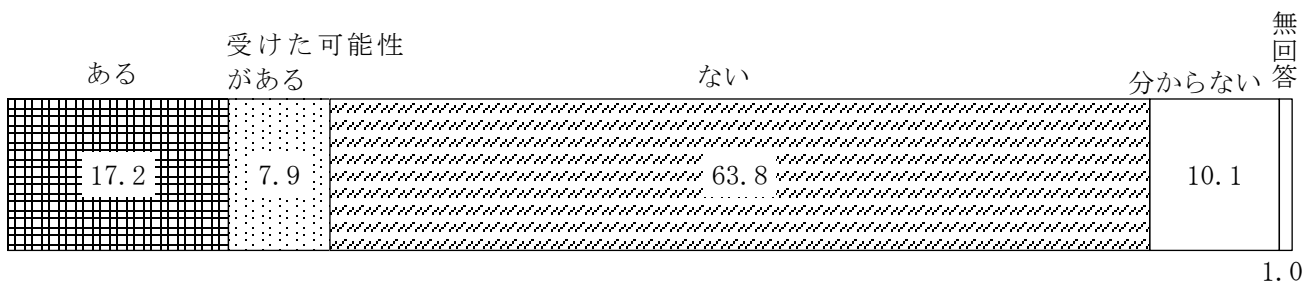
5 肝炎対策（問 16～問 17-1）

県では、神奈川県肝炎対策推進計画を策定し、肝炎治療医療費の助成など、様々な対策に取り組んでいます。今回、「肝炎ウイルス検査」の受検状況などについて調査しました。

▼「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問 17）

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が 17.2%であった。一方、「ない」が 63.8%であった。〔図表 5〕

図表 5 「肝炎ウイルス検査」の受検状況（n=1,409）（%）



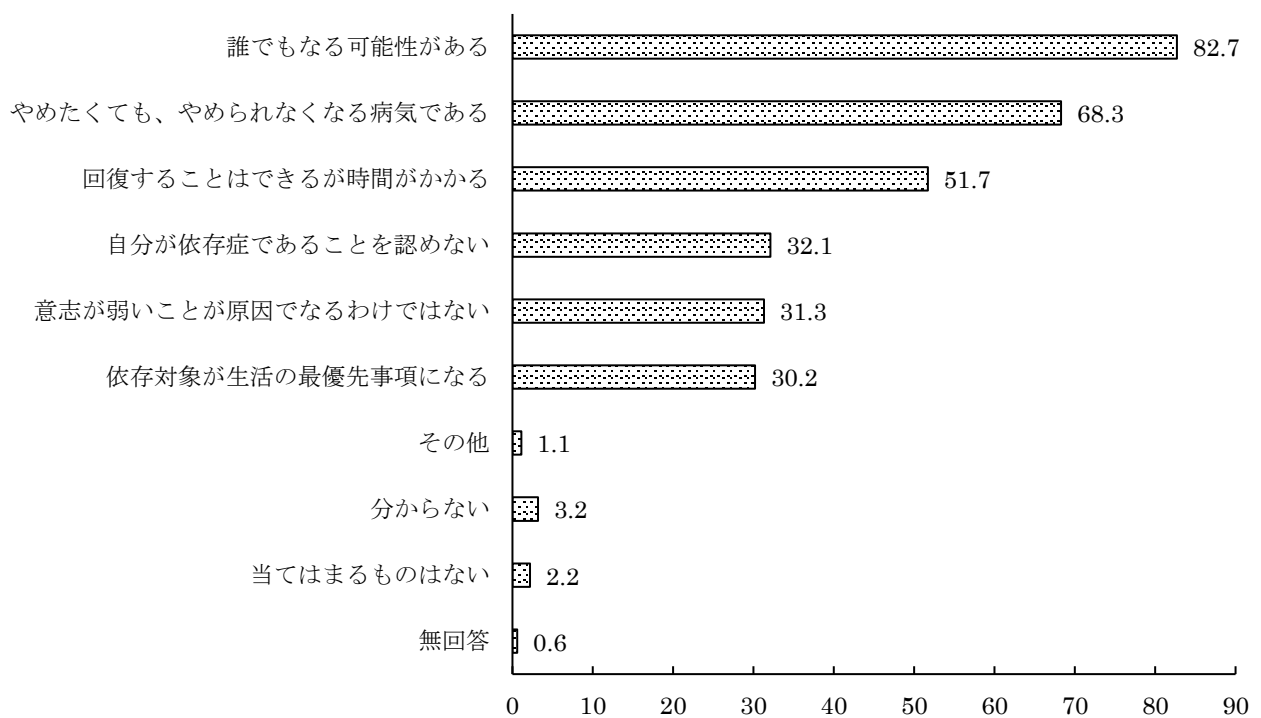
6 依存症に対する意識（問 18～問 21）

県では、アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存症治療や回復支援及び相談体制の強化、普及啓発、医療連携体制の構築を図り、依存症対策を総合的に推進しています。今回、依存症に対する意識に関する認知状況などについて調査しました。

▼依存症に対する意識に関する認知状況（問 18）

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が 82.7%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が 68.3%であった。[図表 6]

図表 6 依存症に対する意識に関する認知状況（複数回答）（n=1,409）（%）



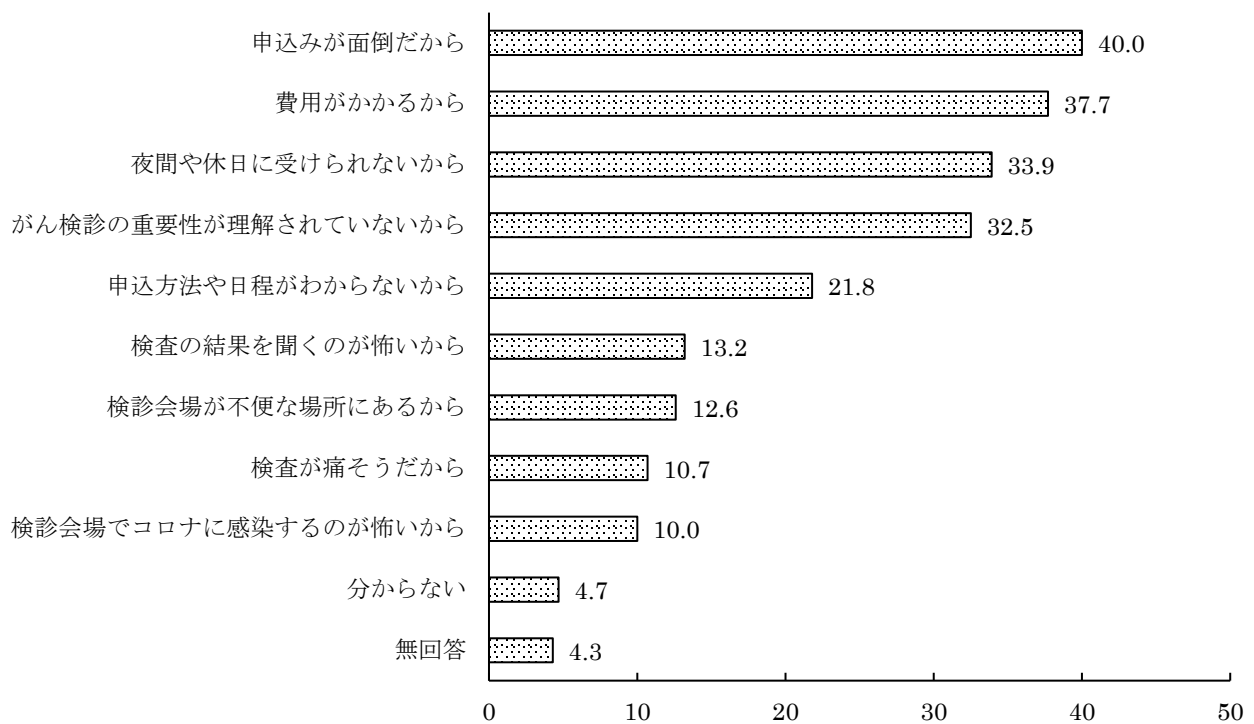
7 がん対策（問 22～問 23）

県では、昭和 53 年から死因の第 1 位になっている「がん」で亡くなる人を減らすために、がんの早期発見、早期治療につながるがん検診の受診率向上に取り組んでいます。今回、「がん検診受診」への意識について調査しました。

▼「がん検診受診」への意識（問 23）

がん検診を受ける人が少ない理由について複数回答（3 つまで選択可）で尋ねたところ、「申込みが面倒だから」が 40.0%で最も多く、次いで「費用がかかるから」が 37.7%であった。[図表 7]

図表 7 「がん検診受診」への意識（複数回答）（n=1,409）（%）



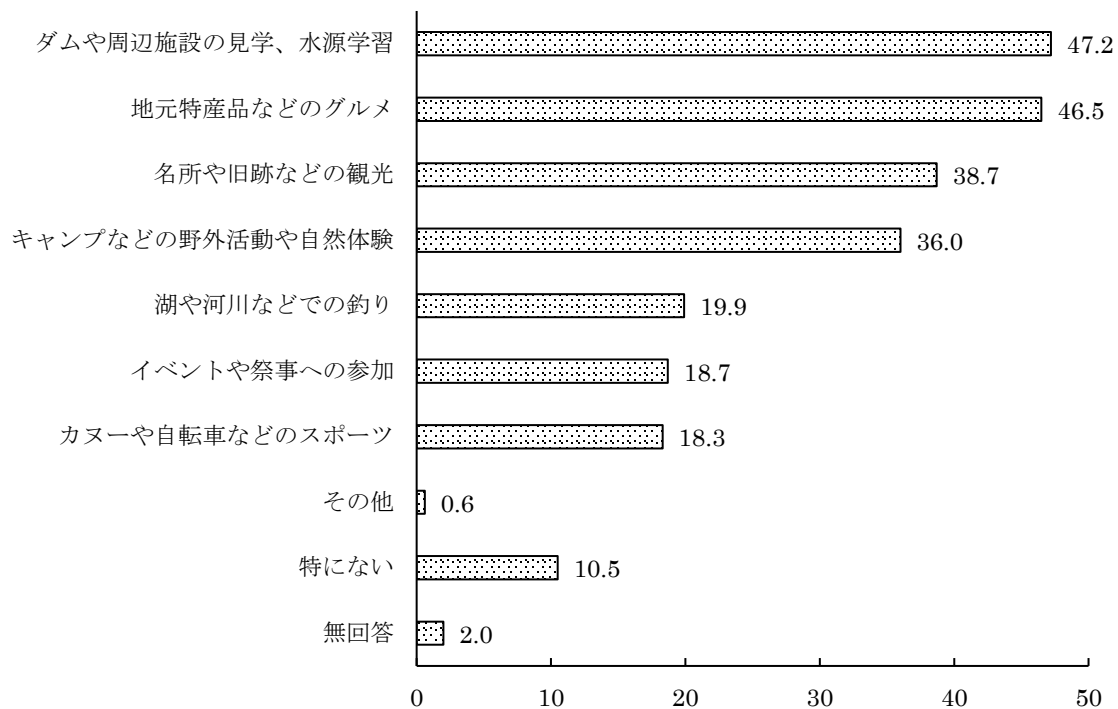
8 かながわの水源地域（問 24～問 26）

県では、豊かな水を育む水源地域を取り巻く環境を良好な状態で維持していくため、交流を通じた水源地域の活性化に取り組んでいます。今回、水源地域にあるダム湖（ダム）に行く場合、体験したいと思うものなどについて調査しました。

▼水源地域にあるダム湖（ダム）に行く場合、体験したいと思うもの（問 26）

県にあるダム湖（ダム）に行く場合、体験したいと思うものを複数回答で尋ねたところ、「ダムや周辺施設の見学、水源学習」が47.2%で最も多く、次いで「地元特産品などのグルメ」が46.5%であった。[図表 8]

図表 8 水源地域にあるダム湖（ダム）に行く場合、体験したいと思うもの（複数回答）（n=1,409）（%）



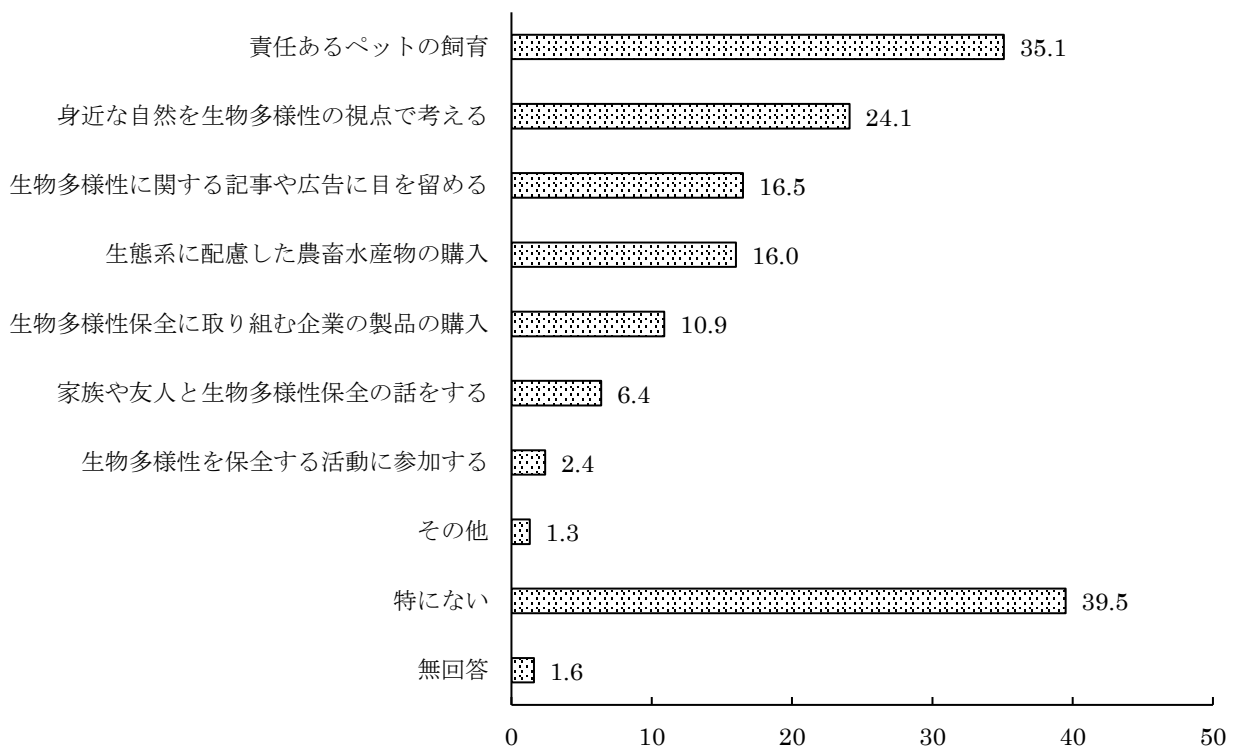
9 生物多様性（問 27～問 29）

県では、生物多様性の保全に取り組んでいます。今回、生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることなどについて調査しました。

▼生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること（問 28）

生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることを複数回答で尋ねたところ、「責任あるペットの飼育」が 35.1%で最も多く、次いで「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が 24.1%であった。[図表 9]

図表 9 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していること
(複数回答) (n=1,409) (%)



10 地震対策の取組み（問 30～問 33）

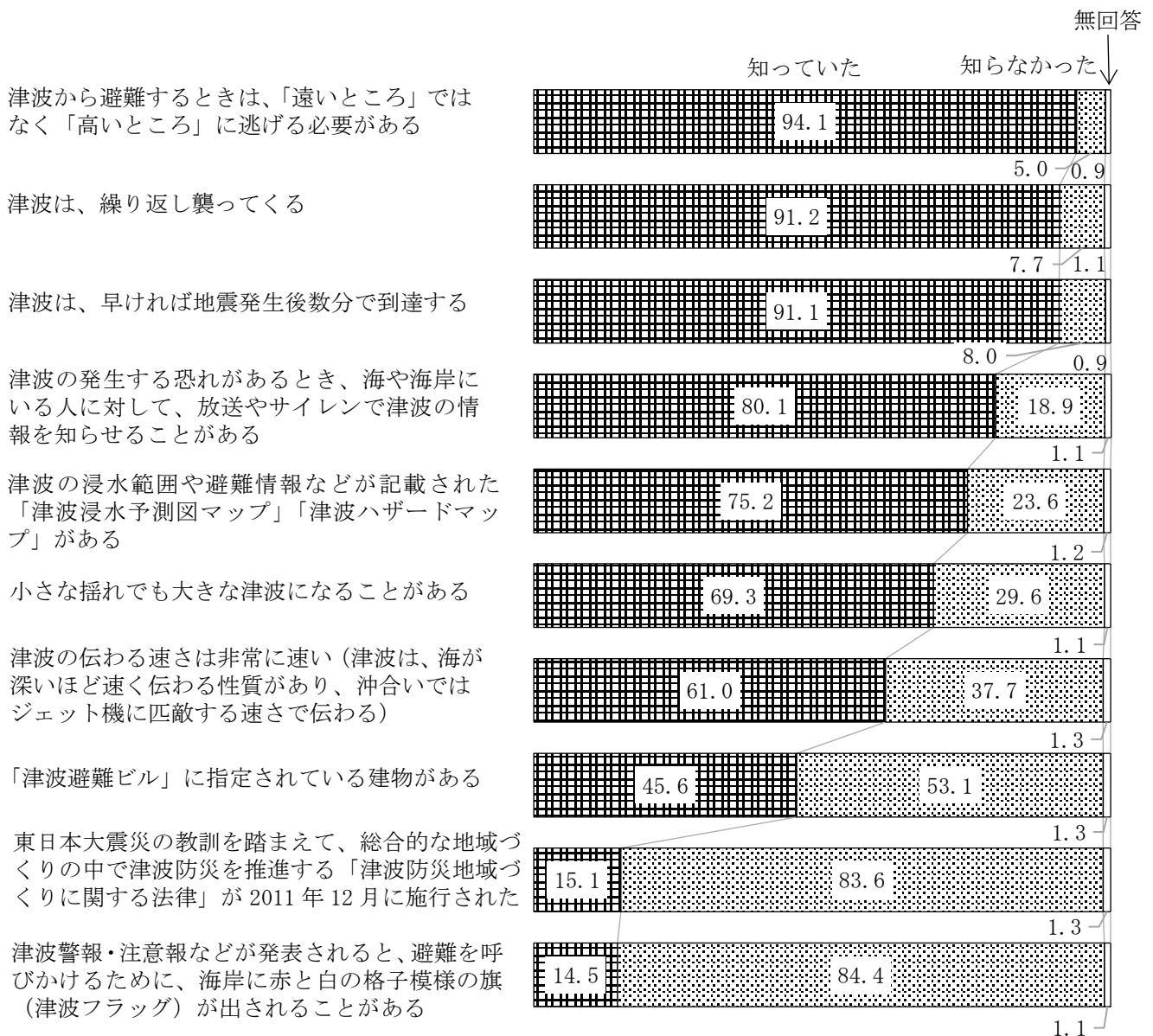
県では、「県民のいのちを守る」ことを最優先としたアクションプランである地震防災戦略を策定するなど、防災・減災対策の取組みを推進しています。今回、「津波」に対する知識や理解などについて調査しました。

▼「津波」に対する知識（問 32）

津波に関する 10 項目を提示して、それぞれ知っていたかどうか尋ねたところ、「知っていた」では、「津波から避難するときは、『遠いところ』ではなく『高いところ』に逃げる必要がある」が 94.1%で最も多かった。

一方、「知らなかった」では、「津波警報・注意報などが発表されると、避難を呼びかけるために、海岸に赤と白の格子模様の旗（津波フラッグ）が出されることがある」が 84.4%で最も多かった。〔図表 10〕

図表 10 「津波」に対する知識（n=1,409）（%）



11 自転車損害賠償責任保険等の加入（問 34～問 35）

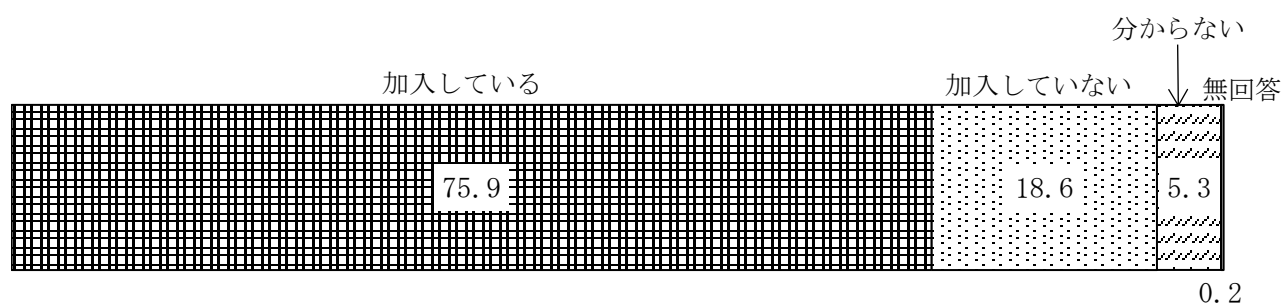
県では、自転車利用者が加害者となる重大事故の発生や全国的に自転車が関係する交通事故で高額な賠償が命じられる判決が出ている状況から、自転車の安全で適正な利用の促進と自転車損害賠償責任保険等の加入義務化を柱とした「神奈川県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を平成31年4月に施行しました。今回、自転車損害賠償責任保険等の加入状況などについて調査しました。

▼自転車損害賠償責任保険等の加入状況（問 34-1）

自転車の利用状況（問 34）で「利用している」と回答した457人に、自転車損害賠償責任保険等に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が75.9%であった。

一方、「加入していない」が18.6%であった。[図表 11]

図表 11 自転車損害賠償責任保険等の加入状況（n=457）（%）



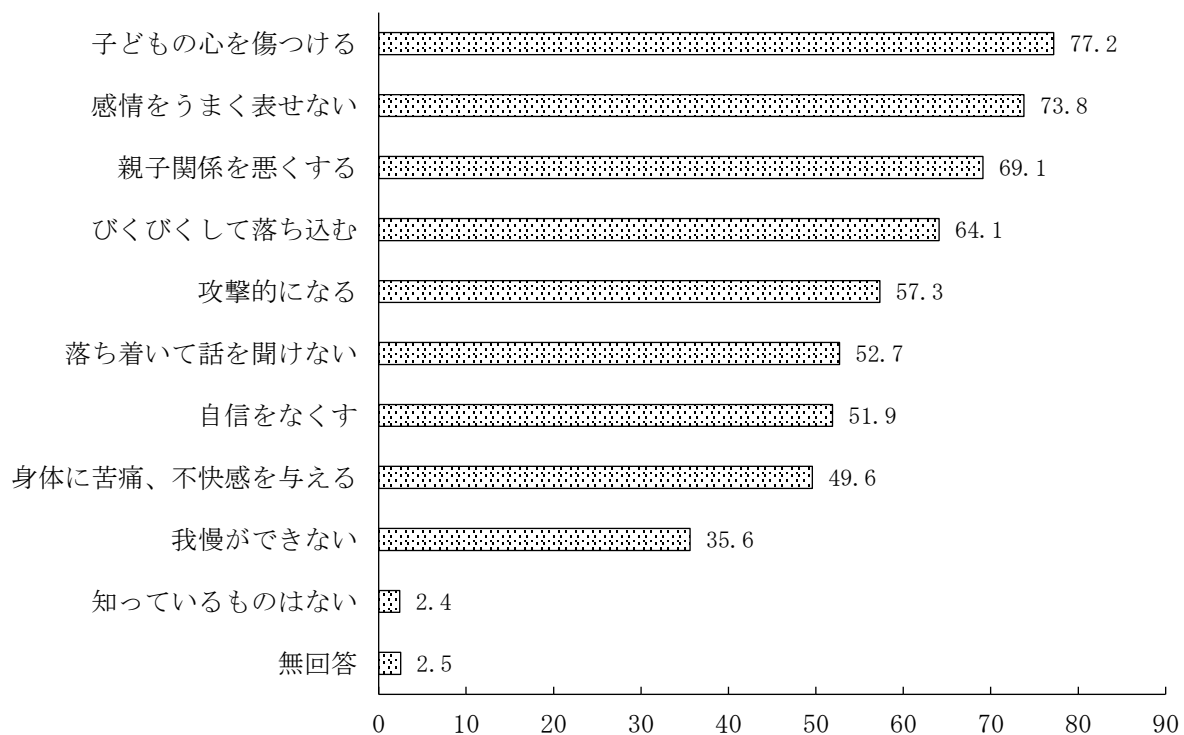
12 子育てにおける体罰の意識（問 36～問 38）

県では、令和元年6月に改正された児童虐待防止法等に盛り込まれた体罰禁止について、様々な方法により普及啓発を行い、子どもから大人まで幅広くこの認識を広げることで、虐待の未然防止に取り組んでいます。今回、体罰などが子どもに与える影響などについて調査しました。

▼体罰などが子どもに与える影響（問 37）

体罰などが子どもに与える影響について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「子どもの心を傷つける」が77.2%で最も多く、次いで「感情をうまく表せない」が73.8%であった。[図表 12]

図表 12 体罰などが子どもに与える影響（複数回答）（n=1,409）（%）



13 青少年を保護する条例の認知度（問 39～問 40）

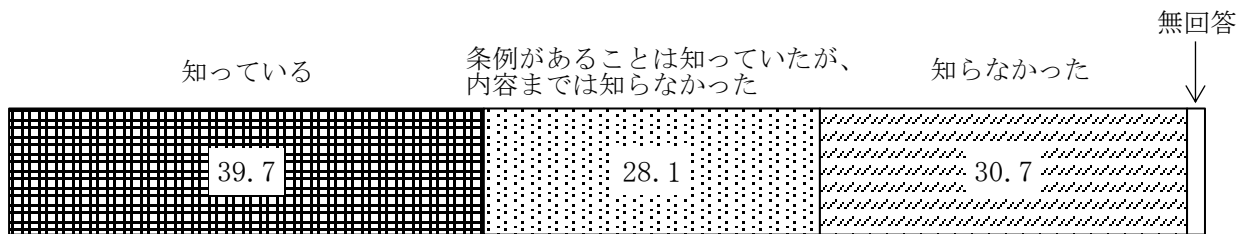
県では、青少年の喫煙及び飲酒を防止する社会環境の整備に向けて「神奈川県青少年喫煙飲酒防止条例」を制定し、青少年（20歳未満の者）の喫煙及び飲酒に関し、県、保護者、事業者及び県民の責務を明らかにするとともに、青少年の喫煙及び飲酒を防止するための社会環境の整備に取り組んでいます。今回、「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度について調査しました。

▼「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度（問 40）

「青少年喫煙飲酒防止条例」の内容を知っているか尋ねたところ、「知っている」が39.7%であった。また、「条例があることは知っていたが、内容までは知らなかった」が28.1%であった。

一方、「知らなかった」が30.7%であった。[図表 13]

図表 13 「青少年喫煙飲酒防止条例」の認知度（n=1,409）（%）



1.5

14 地域社会との関わり（問 41）

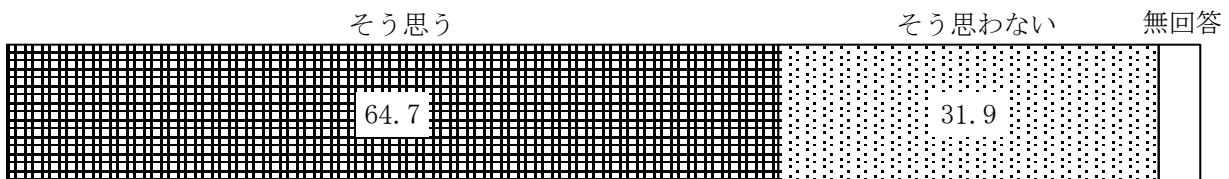
県ではコミュニティ再生・活性化に向けた取組みを進めています。今回、地域社会との関わり方に関する意識などについて調査しました。

▼地域社会との関わり方に関する意識（問 41）

長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が64.7%であった。

一方、「そう思わない」が31.9%であった。[図表 14]

図表 14 地域社会との関わり方に関する意識（n=1,409）（%）



3.5

15 地域や地域の人々と多様に関わる人々（関係人口）（問 42～問 42-2）

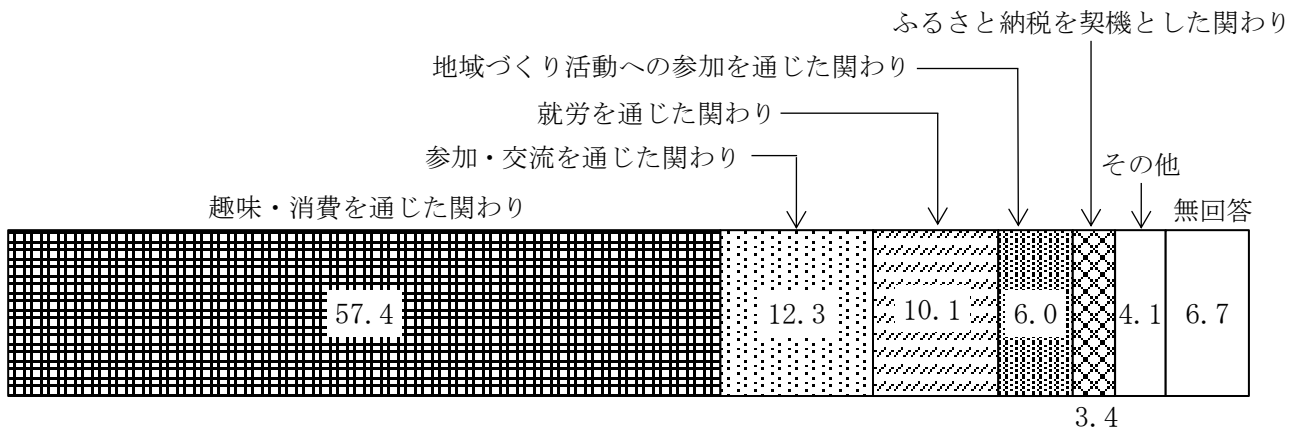
県では、地域や地域の人々と多様にかかわる関係人口※に着目し、将来の移住につなげるため、都心に近く繰り返し訪れやすいという本県の強みを生かし、地域イベントへの参加や地域の人々との交流などを通じた多様な交流機会の創出に取り組んでいます。今回、お住まいの地域以外で、関わりを持ちたいと思うものなどについて調査しました。

※移住した定住人口でもなく、観光に来た交流人口でもない、その中間の、地域や地域の人々と多様に関わる人々

▼お住まいの地域以外で、関わりを持ちたいと思うもの（問 42-1）

継続的に関わりを持ちたいと思う特定の地域の有無（問 42）で「ある」と回答した 465 人に、それはどのような関わりか尋ねたところ、「趣味・消費を通じた関わり」が 57.4%で最も多く、次いで「参加・交流を通じた関わり」が 12.3%であった。[図表 15]

図表 15 お住まいの地域以外で、関わりを持ちたいと思うもの（n=465）（%）



16 テレワーク（リモートワーク）のニーズ（問 43～問 45）

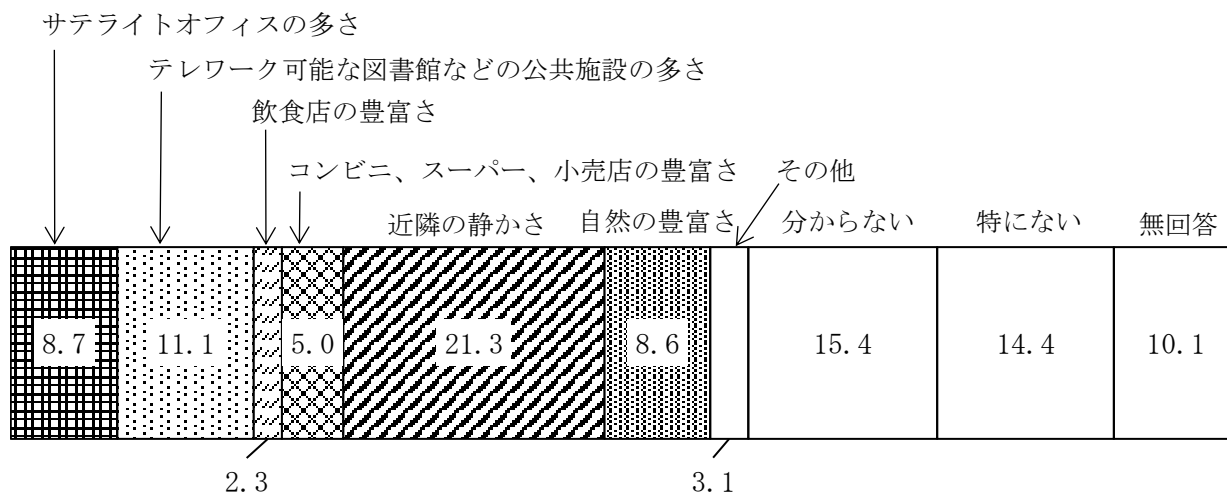
県では、コロナ禍を機にテレワークといった新たな働き方の普及を踏まえ、都心へのアクセスの良さと自然豊かな環境を併せ持つ本県の強みを生かし、テレワークをしながら余暇活動や地域交流を楽しむワーケーションを通じるなどした関係人口の創出、ひいては、移住定住の促進に取り組んでいます。今回、自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に何を望むかなどについて調査しました。

▼自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に望むもの（問 44）

自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に何を望むか尋ねたところ、「近隣の静かさ」（21.3%）が最も多く、次いで「テレワーク可能な図書館などの公共施設の多さ」（11.1%）となった。[図表 16]

図表 16 自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に望むもの

(n=1,409) (%)



第Ⅲ部 調査結果の詳細

【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 男女の18～29歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がない場合がある。
- (注7) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

第1章 スポーツ【問1～問6】

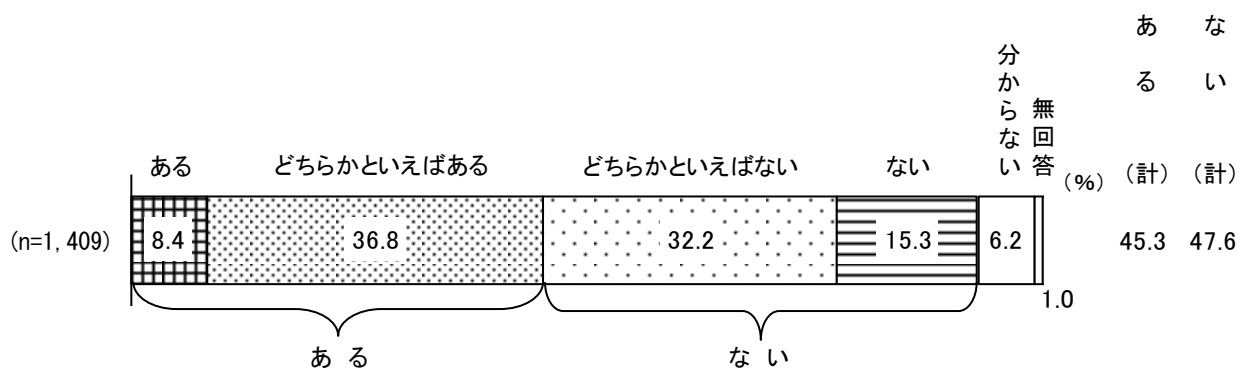
1 体力への自信の有無【問1】

【全体の状況】

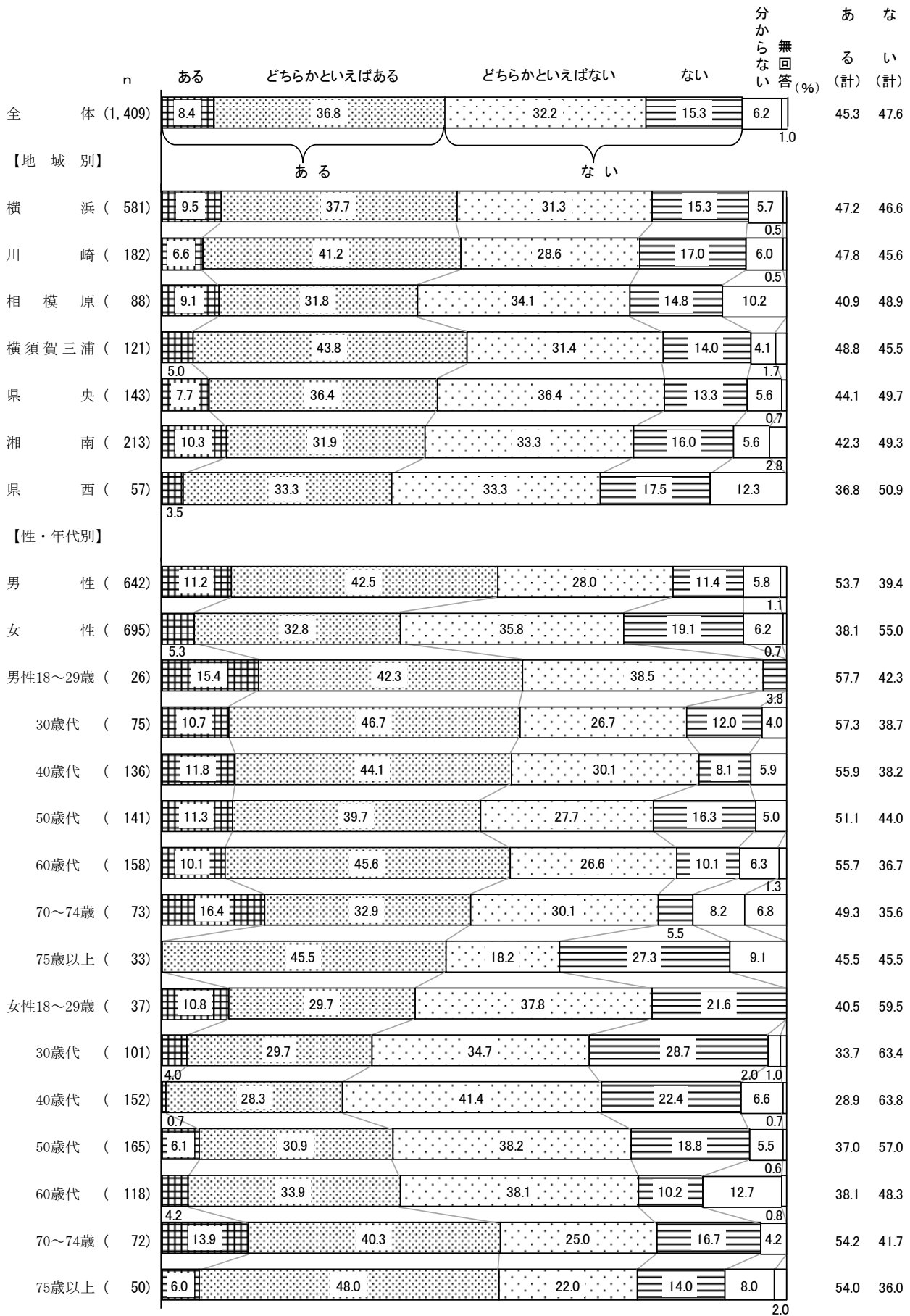
自身の体力に自信があるか尋ねたところ、「ある」(8.4%)と「どちらかといえばある」(36.8%)を合わせた《ある》は45.3%であった。

一方、「ない」(15.3%)と「どちらかといえばない」(32.2%)を合わせた《ない》は47.6%であった。(図表1-1-1)

図表1-1-1 体力への自信の有無



図表1-1-2 体力への自信の有無—地域別、性・年代別

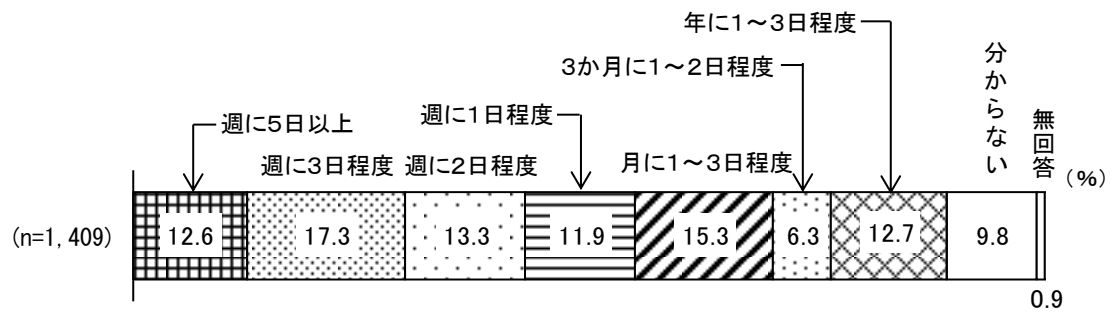


2 1年間のスポーツ実施日数【問2】

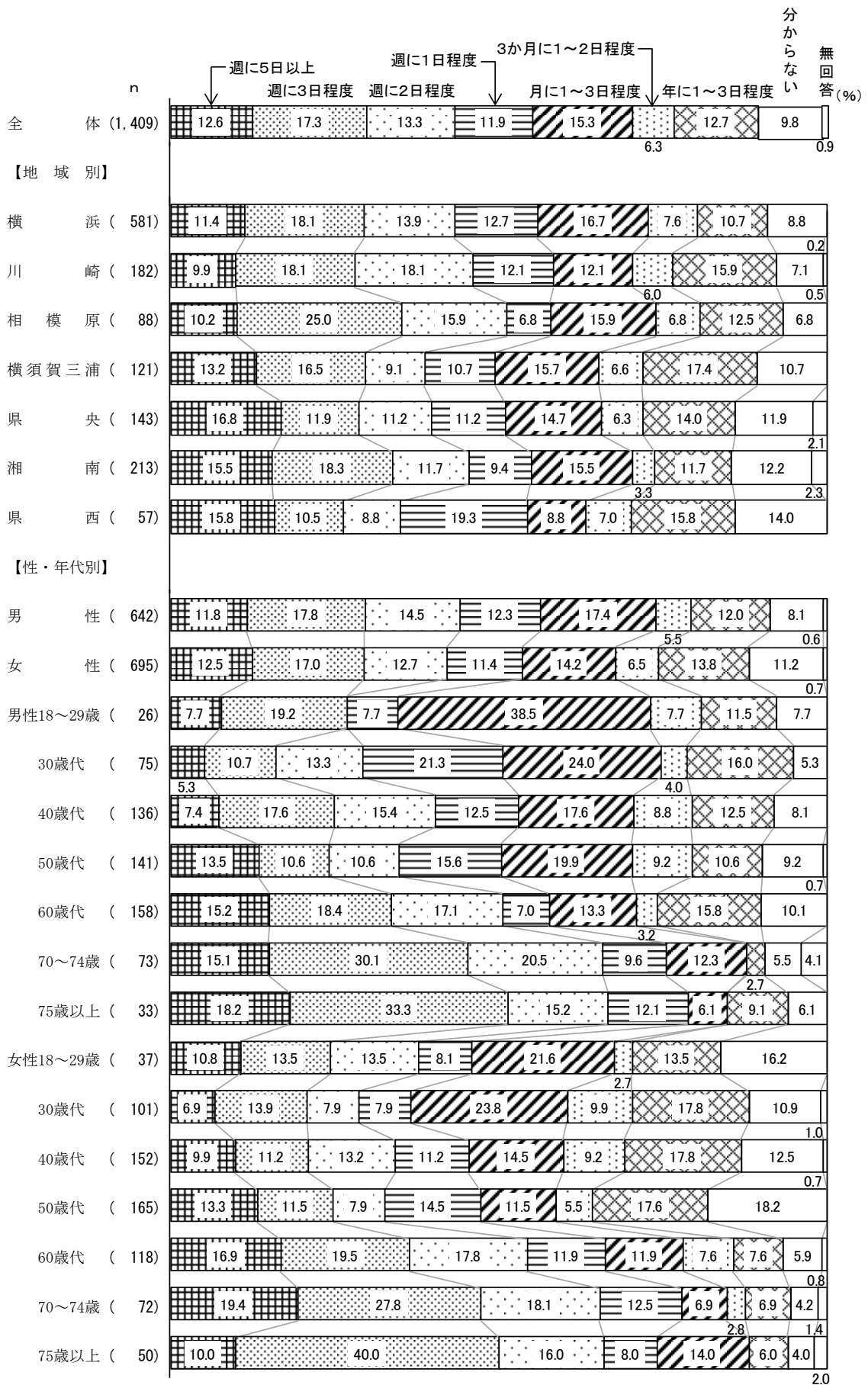
【全体の状況】

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「週に3日程度」が17.3%で最も多く、次いで「月に1～3日程度」が15.3%であった。（図表1-2-1）

図表1-2-1 1年間のスポーツ実施日数



図表1-2-2 1年間のスポーツ実施日数—地域別、性・年代別

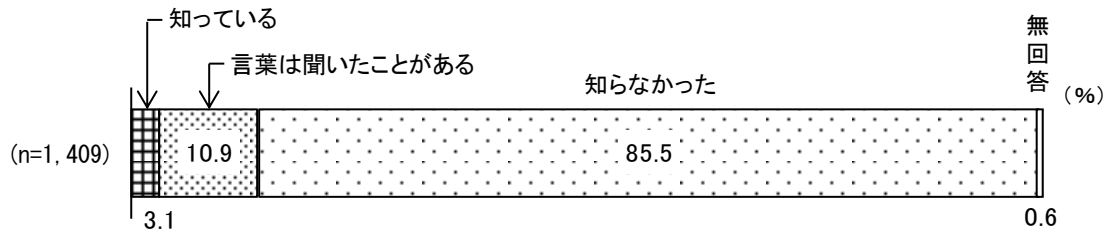


3 「3033（サンマルサンサン）運動」の認知度【問3】

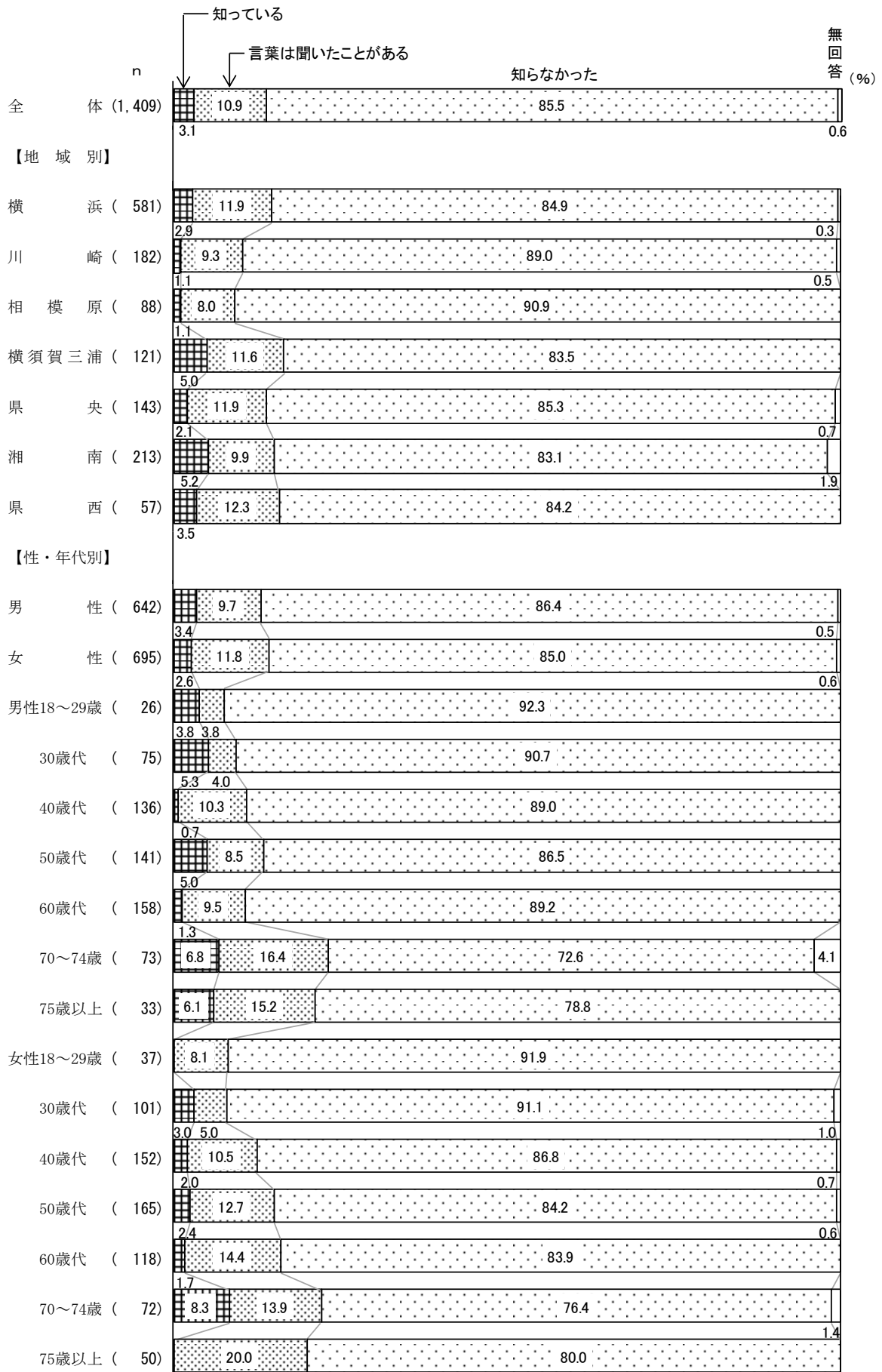
【全体の状況】

「3033（サンマルサンサン）運動」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が3.1%であった。一方、「知らなかった」が85.5%であった。（図表1-3-1）

図表1-3-1 「3033（サンマルサンサン）運動」の認知度



図表1-3-2 「3033（サンマルサンサン）運動」の認知度—地域別、性・年代別



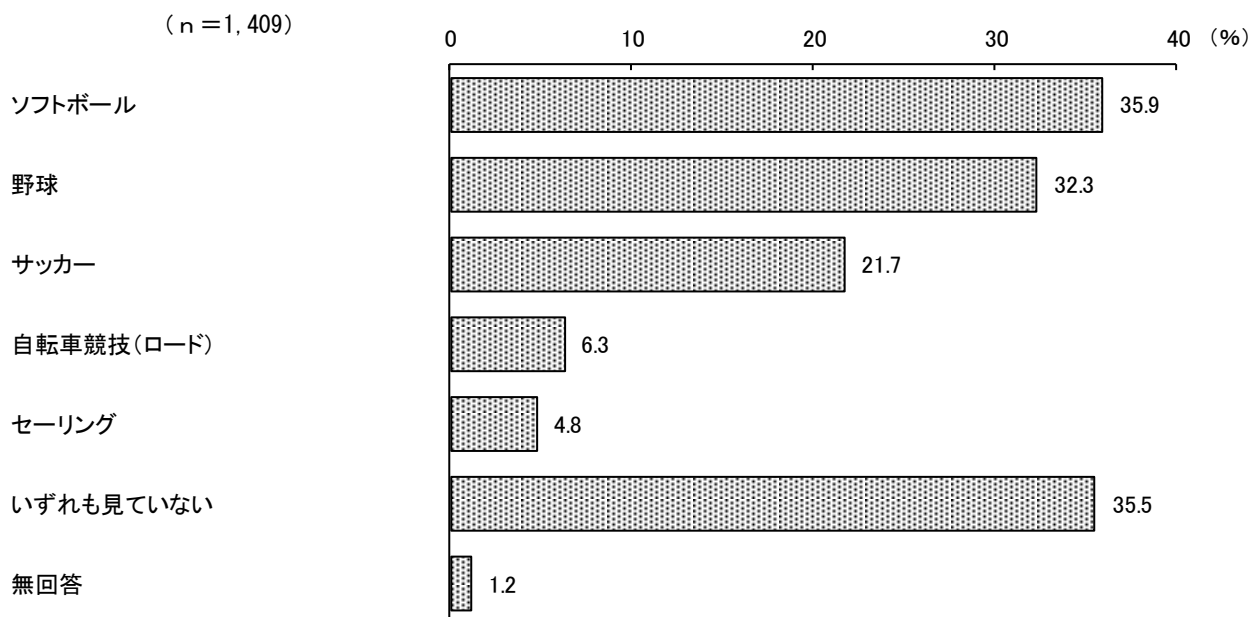
4 印象に残った東京2020オリンピックの県内開催競技【問4】

【全体の状況】

印象に残った東京2020オリンピックの県内開催競技を複数回答で尋ねたところ、「ソフトボール」が35.9%で最も高く、次いで「野球」が32.3%であった。

一方、「いずれも見えていない」は35.5%であった。(図表1-4-1)

図表1-4-1 印象に残った東京2020オリンピックの県内開催競技（複数回答）



図表1-4-2 印象に残った東京2020オリンピックの県内開催競技—地域別、性・年代別

		(%)						
	n	ソフトボール	野球	サッカー	自転車競技(ロード)	セーリング	いずれも見ていない	無回答
全体	1,409	35.9	32.3	21.7	6.3	4.8	35.5	1.2
【地域別】								
横浜	581	38.9	35.5	23.8	5.9	4.0	33.4	0.7
川崎	182	33.5	31.3	24.7	4.4	2.7	39.0	1.6
相模原	88	31.8	31.8	19.3	23.9	2.3	33.0	-
横須賀三浦	121	31.4	30.6	14.0	0.8	7.4	40.5	-
県央	143	39.9	26.6	18.2	4.9	3.5	36.4	2.1
湘南	213	33.8	28.6	23.0	6.1	9.9	33.3	2.3
県西	57	29.8	33.3	19.3	7.0	3.5	42.1	-
【性・年代別】								
男性	642	33.3	41.0	22.9	5.8	3.7	32.2	1.6
女性	695	38.1	24.0	20.4	6.9	5.3	39.0	0.6
男性18~29歳	26	23.1	23.1	34.6	-	3.8	46.2	-
30歳代	75	24.0	41.3	22.7	5.3	2.7	37.3	-
40歳代	136	27.9	36.0	22.8	5.1	3.7	34.6	0.7
50歳代	141	34.0	39.7	18.4	5.0	5.0	35.5	-
60歳代	158	38.6	44.9	22.2	8.9	5.1	29.1	0.6
70~74歳	73	38.4	42.5	27.4	4.1	1.4	24.7	6.8
75歳以上	33	45.5	57.6	27.3	6.1	-	18.2	9.1
女性18~29歳	37	27.0	16.2	8.1	10.8	2.7	54.1	-
30歳代	101	23.8	17.8	23.8	5.9	2.0	53.5	1.0
40歳代	152	29.6	22.4	22.4	5.3	5.9	40.1	0.7
50歳代	165	39.4	23.0	15.2	7.3	4.8	38.8	0.6
60歳代	118	46.6	22.0	17.8	6.8	7.6	37.3	-
70~74歳	72	50.0	38.9	29.2	8.3	4.2	25.0	1.4
75歳以上	50	60.0	34.0	28.0	8.0	10.0	20.0	-

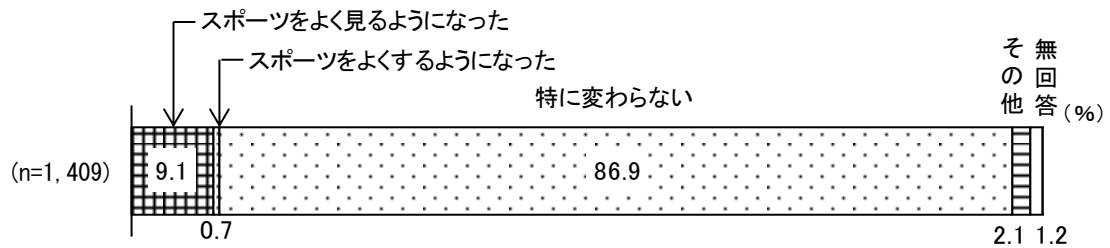
5 東京2020オリンピック・パラリンピックを見た後の、スポーツに関する行動の変化【問5】

【全体の状況】

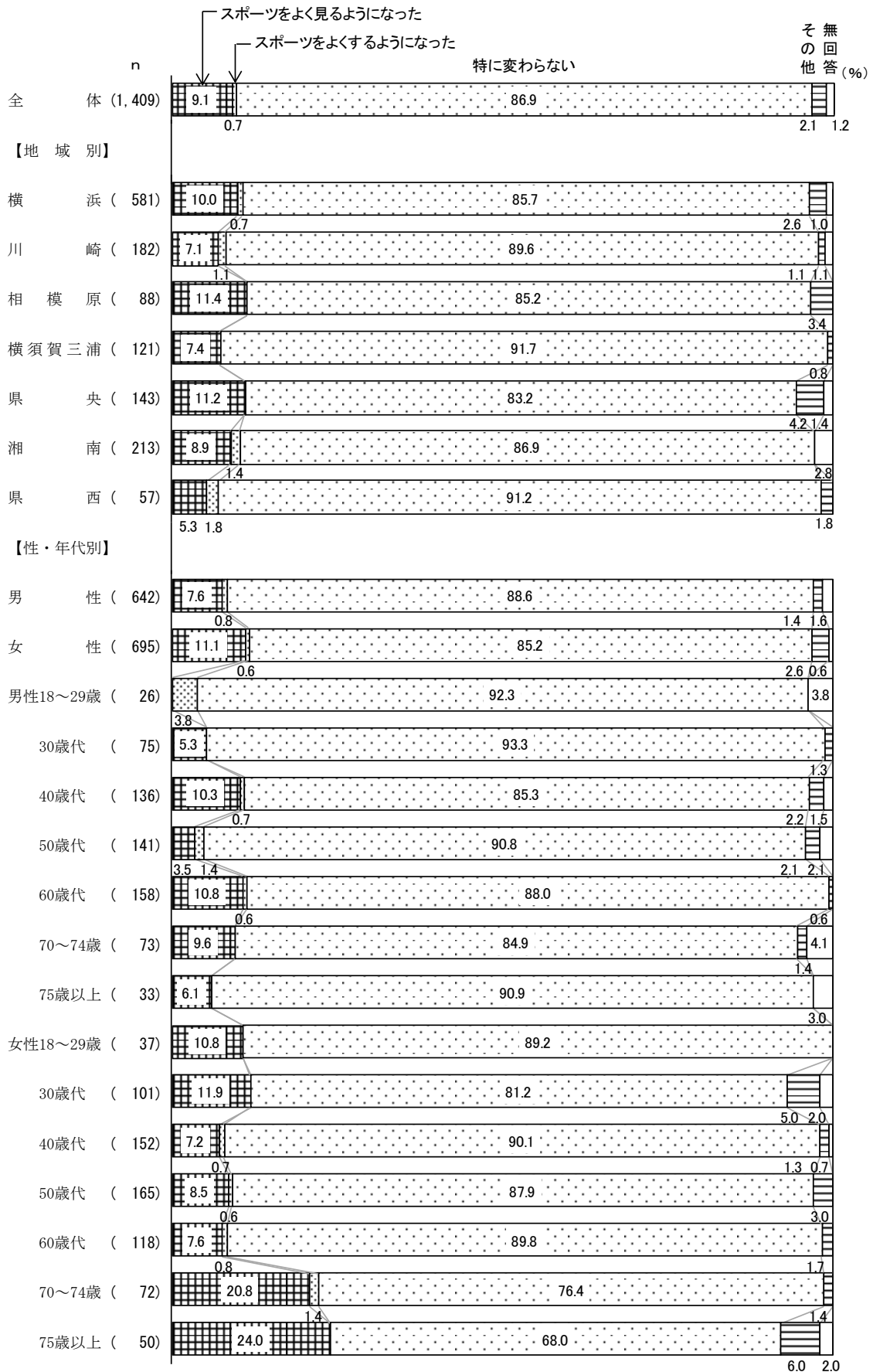
東京2020オリンピック・パラリンピックを見てスポーツに関する行動の変化があったかどうかを尋ねたところ、「スポーツをよく見るようになった」が9.1%、「スポーツをよくするようになった」が0.7%であった。

一方、「特に変わらない」が86.9%であった。(図表1-5-1)

図表1-5-1 東京2020オリンピック・パラリンピックを見た後の、スポーツに関する行動の変化



図表1-5-2 東京2020オリンピック・パラリンピックを見た後の、スポーツに関する行動の変化
 —地域別、性・年代別

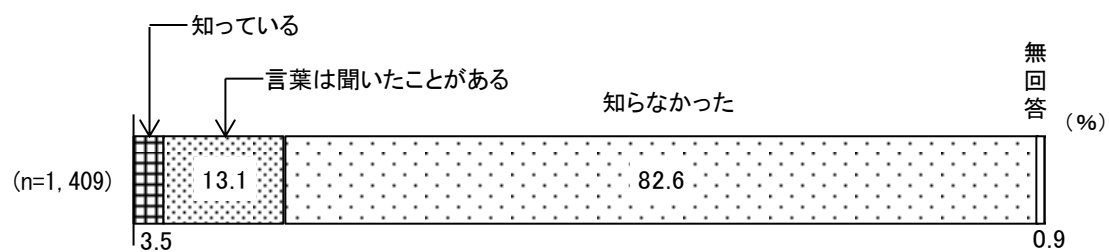


6 「かながわパラスポーツ」の認知度【問6】

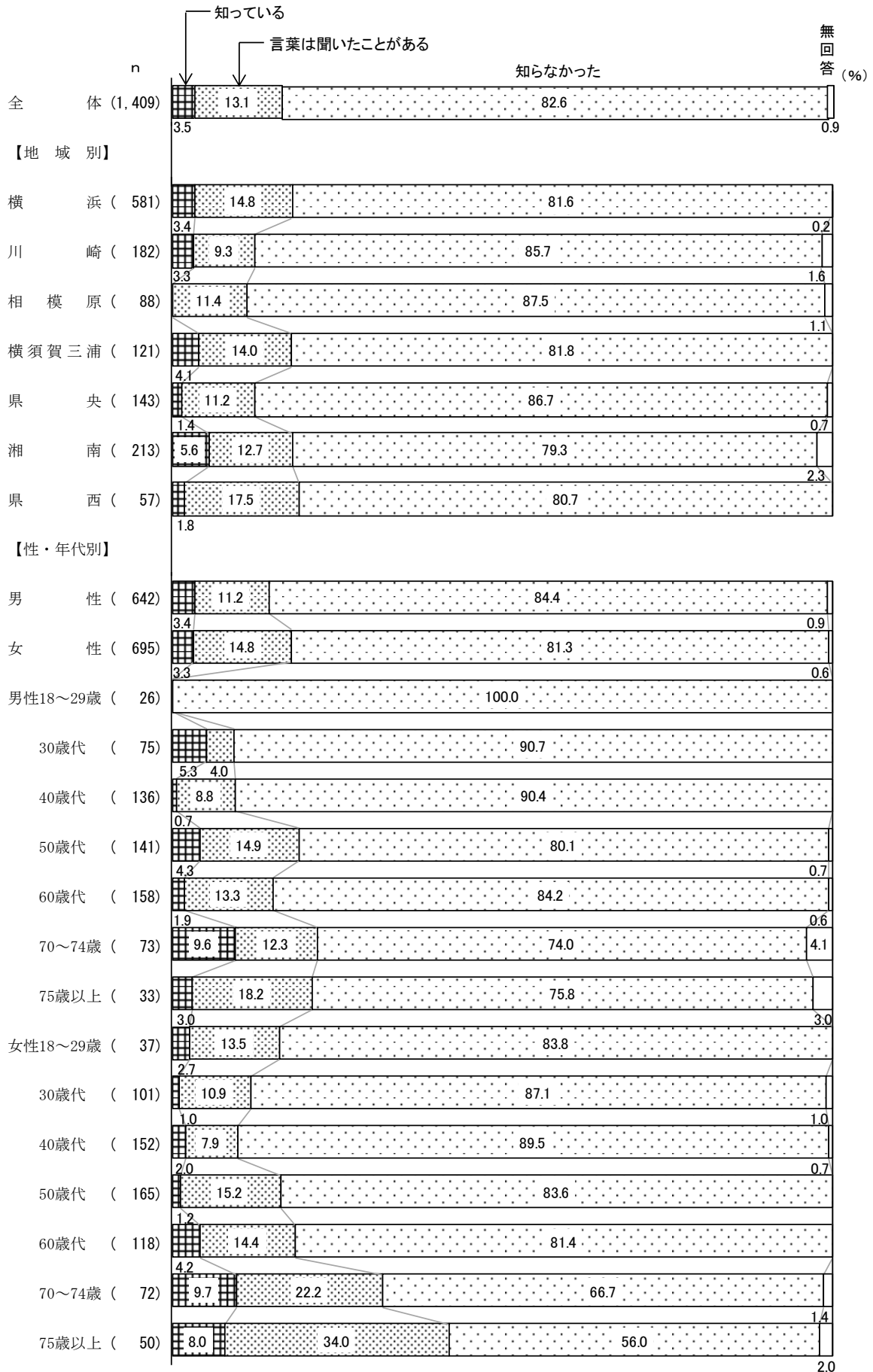
【全体の状況】

「かながわパラスポーツ」の認知度を尋ねたところ、「知っている」が3.5%であった。一方、「知らなかった」が82.6%であった。（図表1-6-1）

図表1-6-1 「かながわパラスポーツ」の認知度



図表1-6-2 「かながわパラスポーツ」の認知度—地域別、性・年代別



第2章 セーリングの普及【問7～問8】

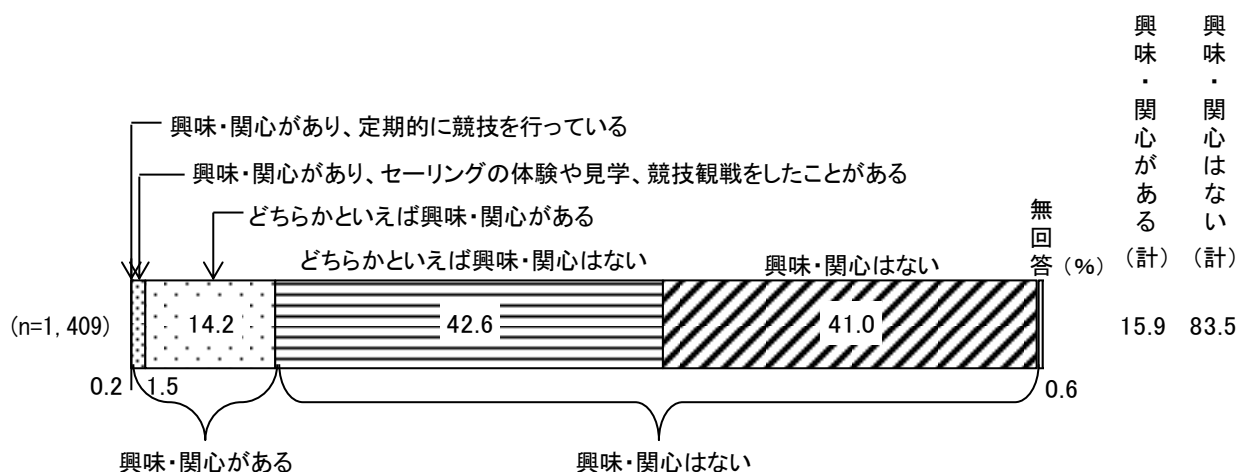
1 セーリング競技への興味・関心【問7】

【全体の状況】

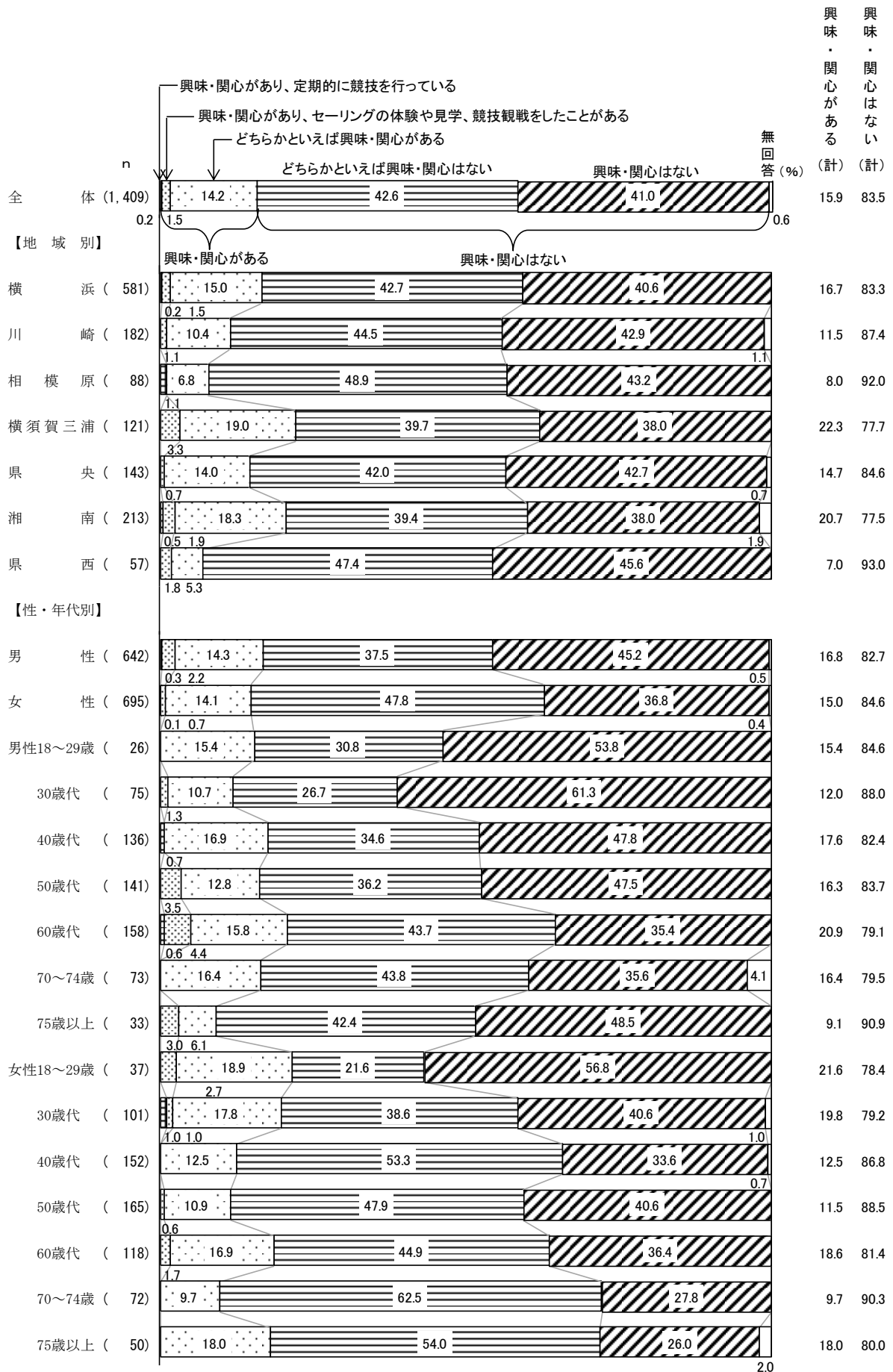
江の島で開催された東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技に興味・関心があるか尋ねたところ、「興味・関心があり、定期的に競技を行っている」(0.2%)と「興味・関心があり、セーリングの体験や見学、競技観戦をしたことがある」(1.5%)、「どちらかといえば興味・関心がある」(14.2%)を合わせた《興味・関心がある》は15.9%であった。

一方、「興味・関心はない」(41.0%)と「どちらかといえば興味・関心はない」(42.6%)を合わせた《興味・関心はない》は83.5%であった。(図表2-1-1)

図表2-1-1 セーリング競技への興味・関心



図表2-1-2 セーリング競技への興味・関心—地域別、性・年代別

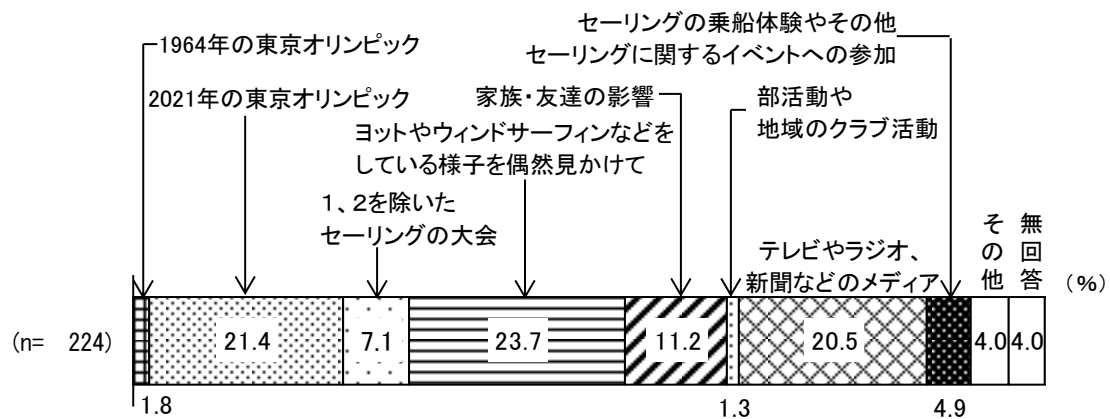


2 興味・関心を持ったきっかけ【問7-1】

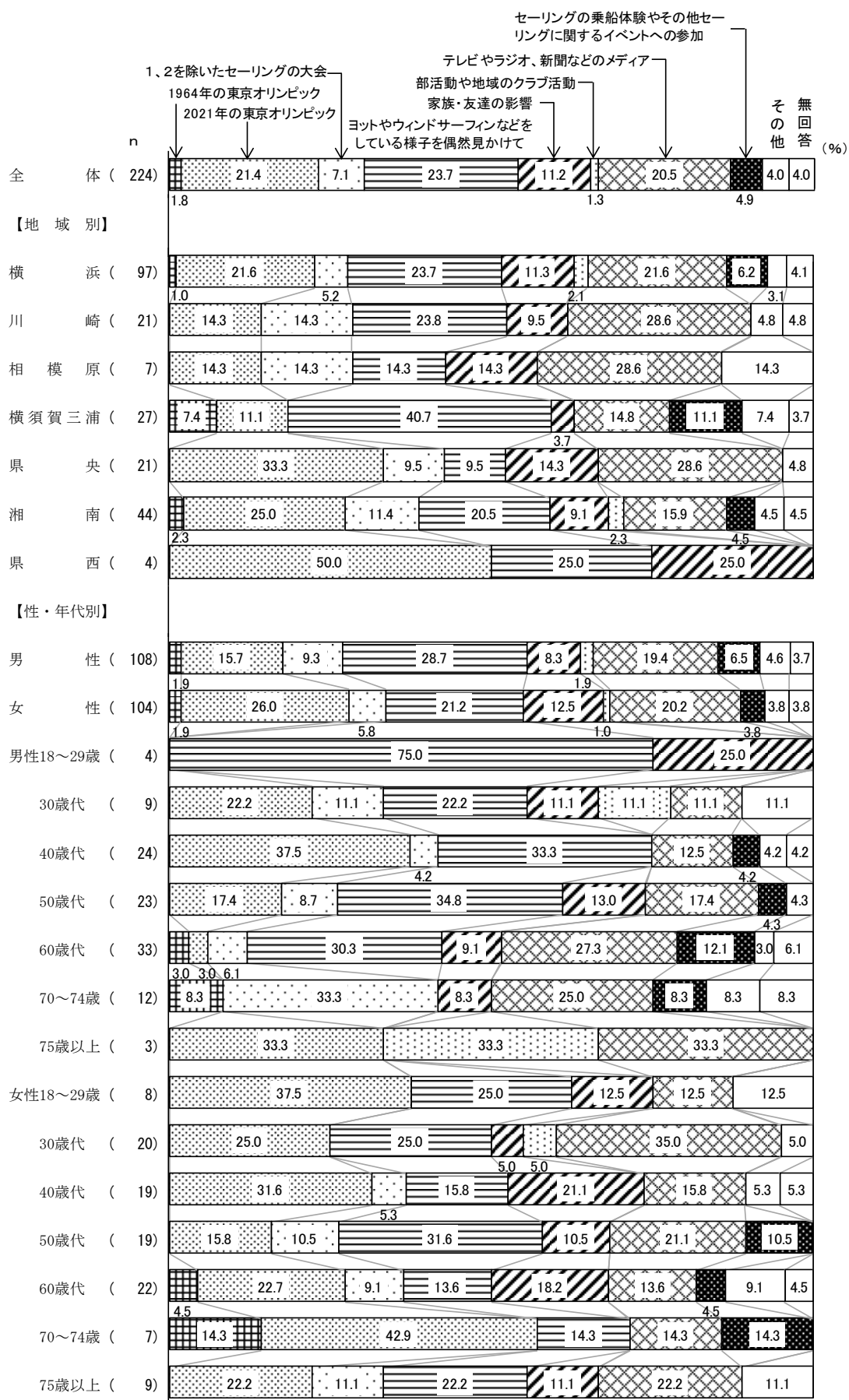
【全体の状況】

セーリング競技への興味・関心（問7）で、「興味・関心がある」と回答した224人に、興味・関心を持ったきっかけを尋ねたところ、「ヨットやウィンドサーフィンなどを行っている様子を偶然見かけて」が23.7%で最も多く、次いで「2021年の東京オリンピック」が21.4%であった。（図表2-2-1）

図表2-2-1 興味・関心を持ったきっかけ



図表2-2-2 興味・関心を持ったきっかけ—地域別、性・年代別

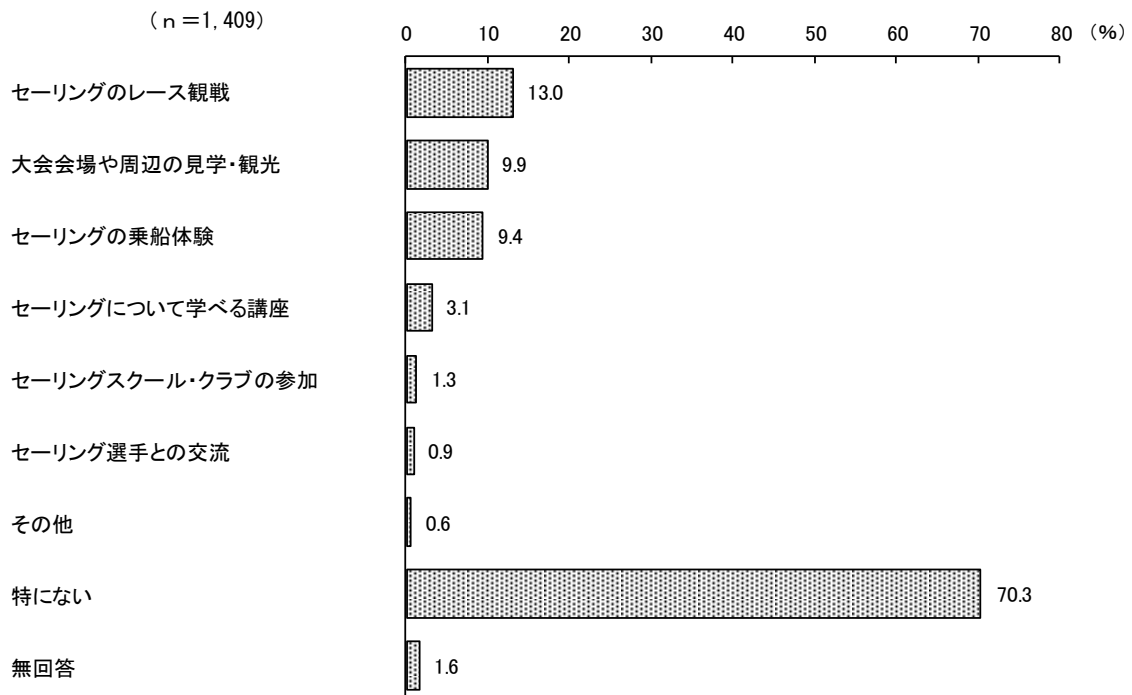


3 セーリング関係でやってみたい取組み【問8】

【全体の状況】

セーリング関係でやってみたい取組みについて複数回答で尋ねたところ、「セーリングのレース観戦」が13.0%で最も多く、次いで「大会会場や周辺の見学・観光」が9.9%であった。（図表2-3-1）

図表2-3-1 セーリング関係でやってみたい取組み（複数回答）



図表2-3-2 セーリング関係でやってみたい取組み—地域別、性・年代別

(%)

	n	セーリングのレース観戦	大会会場や周辺の見学・観光	セーリングの乗船体験	セーリングについて学べる講座	加セーリングスクール・クラブの参	セーリング選手との交流	その他	特 に な い	無 回 答
全 体	1,409	13.0	9.9	9.4	3.1	1.3	0.9	0.6	70.3	1.6
【地 域 別】										
横 浜	581	14.3	9.6	9.8	2.2	1.2	0.5	0.9	68.7	1.2
川 崎	182	16.5	14.8	8.8	3.3	1.1	1.1	0.5	68.1	0.5
相 模 原	88	14.8	10.2	4.5	3.4	1.1	2.3	-	71.6	1.1
横 須 賀 三 浦	121	11.6	5.0	9.9	4.1	4.1	-	0.8	71.9	2.5
県 央	143	14.0	11.9	11.9	2.1	-	0.7	0.7	66.4	2.1
湘 南	213	8.5	8.9	8.9	4.7	1.4	1.4	-	75.1	2.3
県 西	57	5.3	7.0	10.5	3.5	-	1.8	-	77.2	3.5
【性・年代別】										
男 性	642	11.5	9.2	8.9	3.6	2.0	0.6	0.8	72.6	1.2
女 性	695	14.5	10.5	10.6	2.7	0.7	1.2	0.4	67.6	1.7
男性18～29歳	26	11.5	15.4	30.8	7.7	3.8	3.8	-	57.7	-
30歳代	75	10.7	6.7	5.3	1.3	-	-	1.3	80.0	-
40歳代	136	13.2	9.6	13.2	3.7	2.9	0.7	0.7	64.7	1.5
50歳代	141	13.5	12.1	9.9	3.5	3.5	1.4	1.4	68.1	0.7
60歳代	158	10.8	7.0	6.3	5.1	1.3	-	0.6	75.9	1.3
70～74歳	73	8.2	11.0	2.7	2.7	1.4	-	-	79.5	4.1
75歳以上	33	9.1	3.0	3.0	-	-	-	-	87.9	-
女性18～29歳	37	18.9	2.7	18.9	2.7	-	-	-	67.6	-
30歳代	101	16.8	12.9	21.8	2.0	2.0	3.0	-	57.4	1.0
40歳代	152	16.4	8.6	13.8	3.3	1.3	2.6	-	63.2	1.3
50歳代	165	12.7	9.1	5.5	1.8	0.6	0.6	-	74.5	1.2
60歳代	118	18.6	11.9	10.2	4.2	-	-	1.7	65.3	0.8
70～74歳	72	5.6	9.7	1.4	4.2	-	-	1.4	79.2	2.8
75歳以上	50	10.0	20.0	4.0	-	-	-	-	68.0	8.0

第3章 ねんりんピックかながわ【問9～問11】

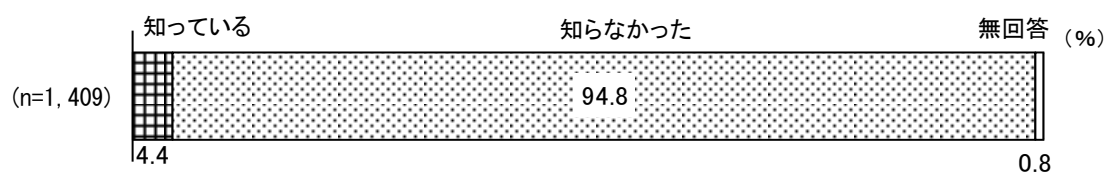
1 ねんりんピックかながわの開催の認知度【問9】

【全体の状況】

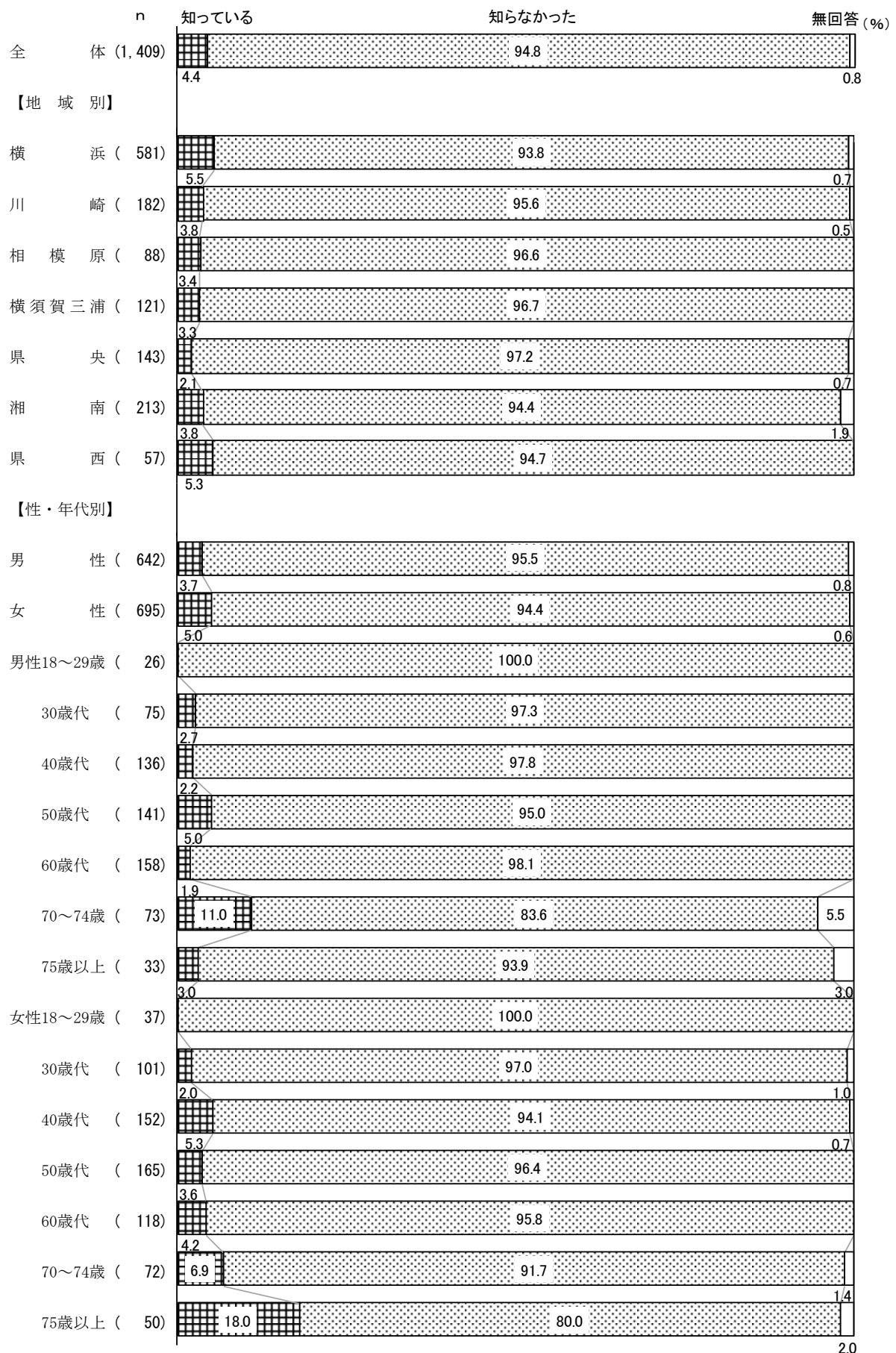
ねんりんピックが2022年に神奈川県内で初めて開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が4.4%であった。

一方、「知らなかった」が94.8%であった。(図表3-1-1)

図表3-1-1 ねんりんピックかながわの開催の認知度



図表3-1-2 ねんりんピックかながわの開催の認知度—地域別、性・年代別

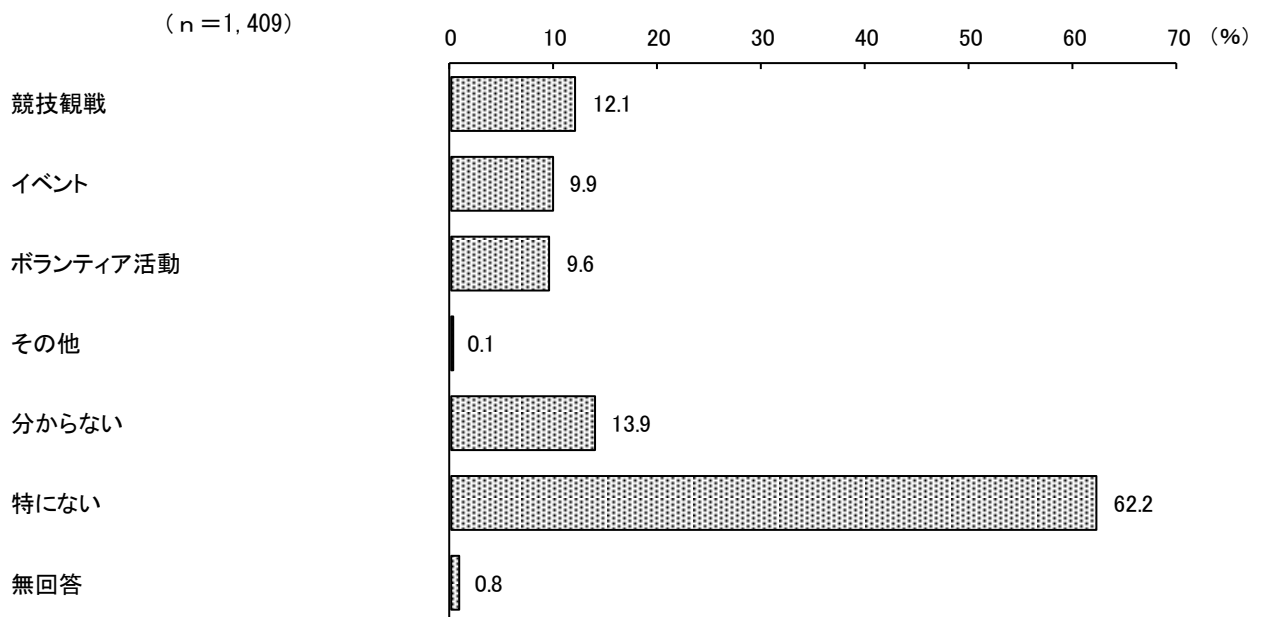


2 「ねんりんピックかながわ」で参加してみたい活動【問10】

【全体の状況】

「ねんりんピックかながわ」で参加してみたい活動を複数回答で尋ねたところ、「競技観戦」が12.1%で最も多く、次いで「イベント」が9.9%であった。(図表3-2-1)

図表3-2-1 「ねんりんピックかながわ」で参加してみたい活動（複数回答）



図表3-2-2 「ねんりんピックかながわ」で参加してみたい活動－地域別、性・年代別

(%)

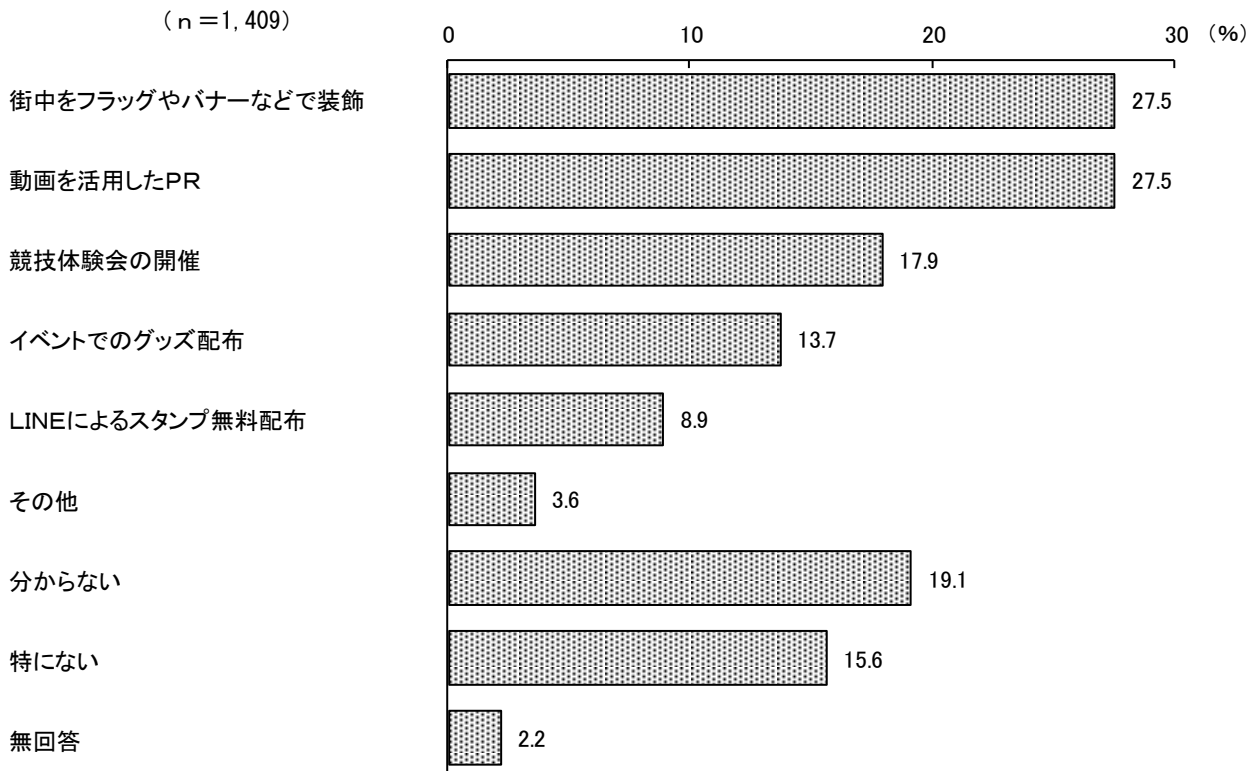
	n	競技観戦	イベント	ボランティア活動	その他	分からない	特にない	無回答
全 体	1,409	12.1	9.9	9.6	0.1	13.9	62.2	0.8
【地 域 別】								
横 浜	581	13.3	11.0	10.3	-	14.6	59.2	1.0
川 崎	182	11.0	8.2	7.7	-	15.9	64.3	1.1
相 模 原	88	13.6	9.1	6.8	-	18.2	59.1	1.1
横 須 賀 三 浦	121	9.9	11.6	9.9	-	9.1	67.8	0.8
県 央	143	11.9	10.5	16.1	-	13.3	58.0	-
湘 南	213	12.2	8.9	7.5	0.5	10.8	66.7	0.5
県 西	57	5.3	7.0	3.5	-	15.8	70.2	-
【性・年代別】								
男 性	642	12.0	9.0	7.5	0.2	12.5	66.2	0.9
女 性	695	12.2	11.2	11.5	-	15.0	58.4	0.7
男性18～29歳	26	19.2	15.4	15.4	-	3.8	57.7	-
30歳代	75	10.7	8.0	9.3	-	10.7	70.7	-
40歳代	136	8.8	8.1	10.3	-	12.5	69.9	-
50歳代	141	12.8	9.9	8.5	-	13.5	62.4	1.4
60歳代	158	11.4	9.5	3.2	-	15.2	65.8	0.6
70～74歳	73	13.7	9.6	8.2	1.4	11.0	63.0	2.7
75歳以上	33	18.2	3.0	-	-	9.1	72.7	3.0
女性18～29歳	37	13.5	18.9	8.1	-	13.5	59.5	-
30歳代	101	9.9	11.9	7.9	-	12.9	64.4	-
40歳代	152	7.9	13.2	16.4	-	14.5	57.9	0.7
50歳代	165	7.9	12.7	12.7	-	14.5	60.6	-
60歳代	118	16.1	6.8	11.9	-	17.8	54.2	1.7
70～74歳	72	19.4	11.1	9.7	-	19.4	48.6	-
75歳以上	50	24.0	4.0	4.0	-	10.0	64.0	4.0

3 「ねんりんピックかながわ」を盛り上げていくために有効な方法【問11】

【全体の状況】

「ねんりんピックかながわ」を盛り上げていくためにどのような方法が有効だと思うか複数回答（2つまで選択可）で尋ねたところ、「街中をフラッグやバナーなどで装飾」、「動画を活用したPR」がそれぞれ27.5%で最も多く、次いで「競技体験会の開催」が17.9%であった。（図表3-3-1）

図表3-3-1 「ねんりんピックかながわ」を盛り上げていくために有効な方法（複数回答）



図表3-3-2 「ねんりんピックかながわ」を盛り上げていくために有効な方法（複数回答）
—地域別、性・年代別

(%)										
	n	飾街中をフラッグやバナーなどで装	動画を活用したPR	競技体験会の開催	イベントでのグッズ配布	LINEによるスタンプ無料配布	その他	分からない	特にない	無回答
全 体	1,409	27.5	27.5	17.9	13.7	8.9	3.6	19.1	15.6	2.2
【地 域 別】										
横 浜	581	29.6	29.3	16.7	15.1	9.8	3.1	17.4	15.0	1.9
川 崎	182	22.0	26.4	20.3	13.2	8.8	4.9	23.6	14.3	2.7
相 模 原	88	31.8	22.7	22.7	12.5	10.2	5.7	18.2	11.4	3.4
横 須 賀 三 浦	121	28.9	30.6	11.6	9.1	8.3	4.1	23.1	15.7	1.7
県 央	143	28.0	30.1	16.8	12.6	8.4	3.5	14.7	17.5	3.5
湘 南	213	25.4	25.4	20.7	14.1	6.1	3.8	20.7	16.4	1.9
県 西	57	22.8	24.6	21.1	15.8	8.8	1.8	17.5	17.5	1.8
【性・年代別】										
男 性	642	25.7	28.5	15.7	13.2	7.2	3.3	18.7	20.4	1.7
女 性	695	29.6	28.1	20.6	14.1	10.2	4.2	18.3	10.5	2.9
男性18～29歳	26	38.5	38.5	34.6	11.5	7.7	7.7	7.7	11.5	-
30歳代	75	26.7	28.0	17.3	13.3	6.7	1.3	8.0	29.3	4.0
40歳代	136	33.1	30.1	19.1	16.2	11.0	5.1	12.5	16.2	-
50歳代	141	34.8	28.4	12.1	14.9	9.2	5.7	18.4	15.6	2.1
60歳代	158	17.1	32.9	15.8	8.9	3.2	1.3	25.3	17.7	1.3
70～74歳	73	15.1	20.5	11.0	16.4	8.2	1.4	23.3	28.8	2.7
75歳以上	33	9.1	12.1	9.1	9.1	-	-	36.4	39.4	3.0
女性18～29歳	37	27.0	29.7	27.0	27.0	-	5.4	13.5	13.5	-
30歳代	101	42.6	20.8	23.8	13.9	12.9	8.9	13.9	8.9	2.0
40歳代	152	34.9	29.6	21.7	14.5	13.8	5.3	15.1	7.9	2.0
50歳代	165	33.3	31.5	21.2	13.3	16.4	3.0	13.9	8.5	1.2
60歳代	118	20.3	34.7	16.1	14.4	6.8	3.4	18.6	12.7	3.4
70～74歳	72	18.1	25.0	18.1	11.1	2.8	1.4	31.9	15.3	6.9
75歳以上	50	16.0	14.0	18.0	10.0	-	-	34.0	14.0	8.0

第4章 「未病改善」の取組み【問12～問15】

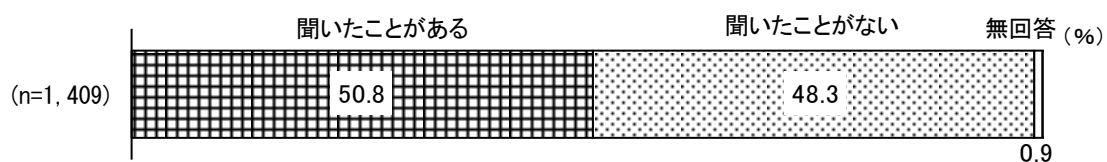
1 「未病（ME-BYO）」の認知度【問12】

【全体の状況】

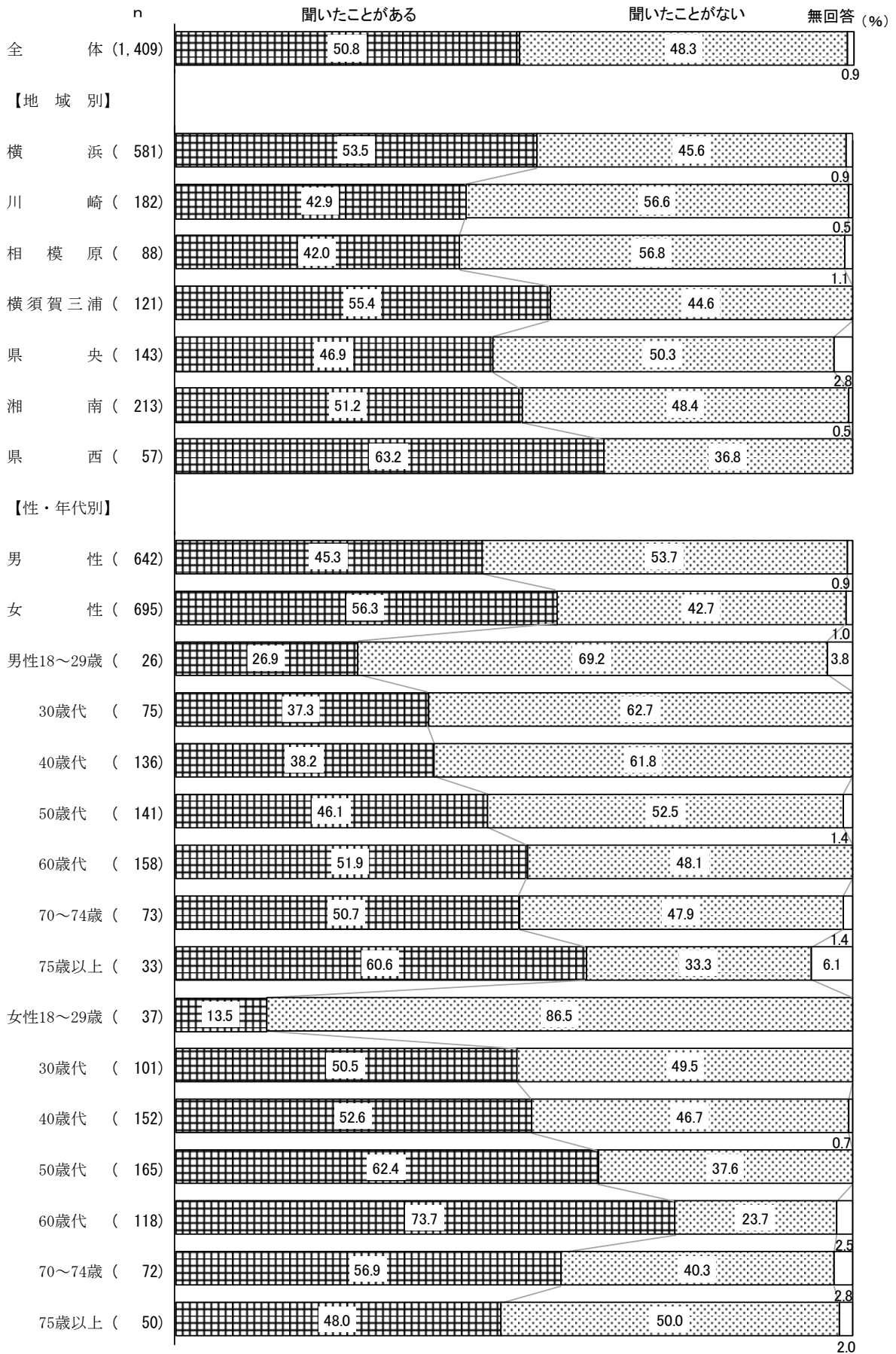
「未病（ME-BYO）」という言葉を知ったことがあるか尋ねたところ、「聞いたことがある」が50.8%であった。

一方、「聞いたことがない」が48.3%であった。（図表4-1-1）

図表4-1-1 「未病（ME-BYO）」の認知度



図表4-1-2 「未病（ME-BYO）」の認知度—地域別、性・年代別



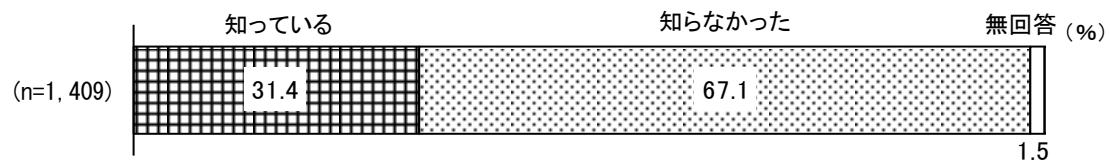
2 「未病（ME－BYO）」の意味の認知度【問13】

【全体の状況】

「未病（ME－BYO）」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」は31.4%であった。

一方、「知らなかった」が67.1%であった。（図表4-2-1）

図表4-2-1 「未病（ME－BYO）」の意味の認知度

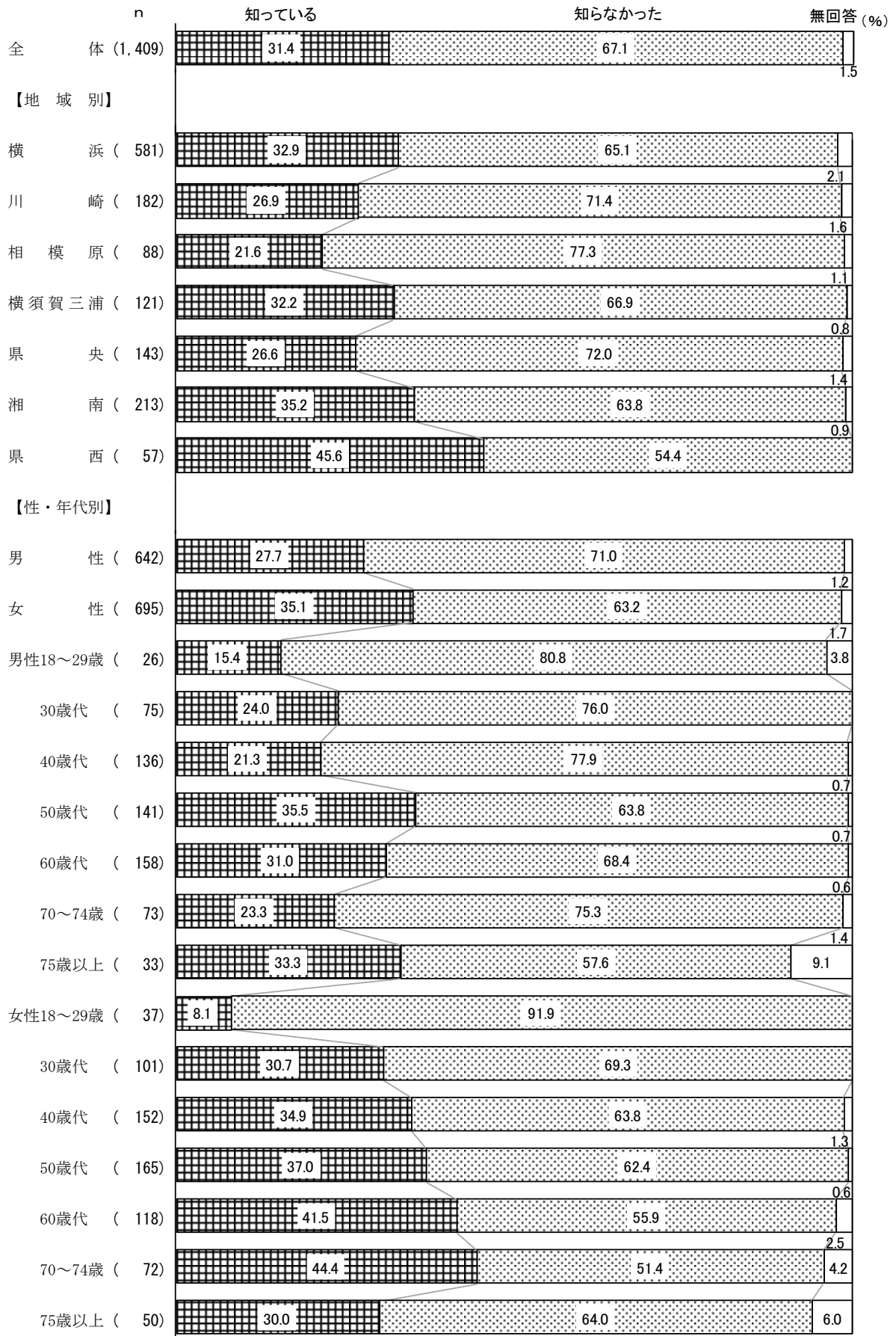


問12で『未病（ME－BYO）』という言葉を知ったことがありますか』との設問にて、選択肢1「聞いたことがある」と回答した716名の間13における回答状況は以下のとおりです。

（参考）716名分の調査結果

1 知っている	59.9% (429名)
2 知らなかった	39.0% (279名)
無回答	1.1% (8名)

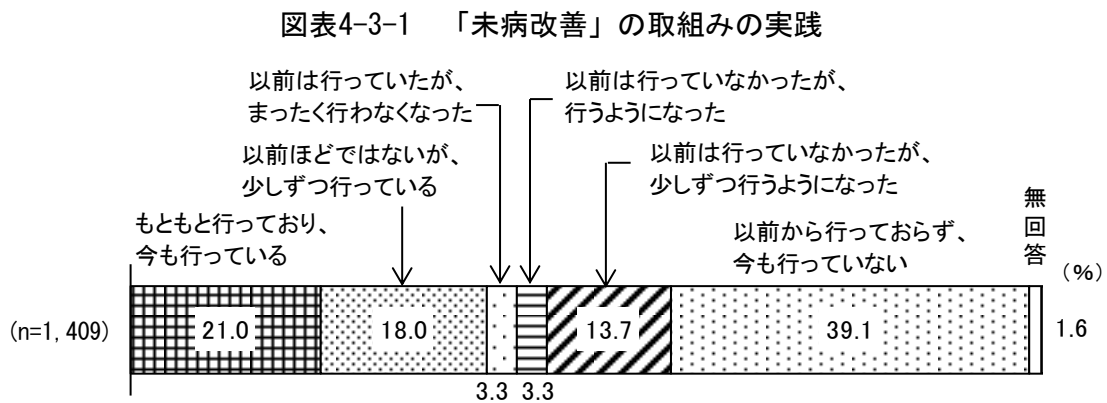
図表4-2-2 「未病（ME-BYO）」の意味の認知度—地域別、性・年代別



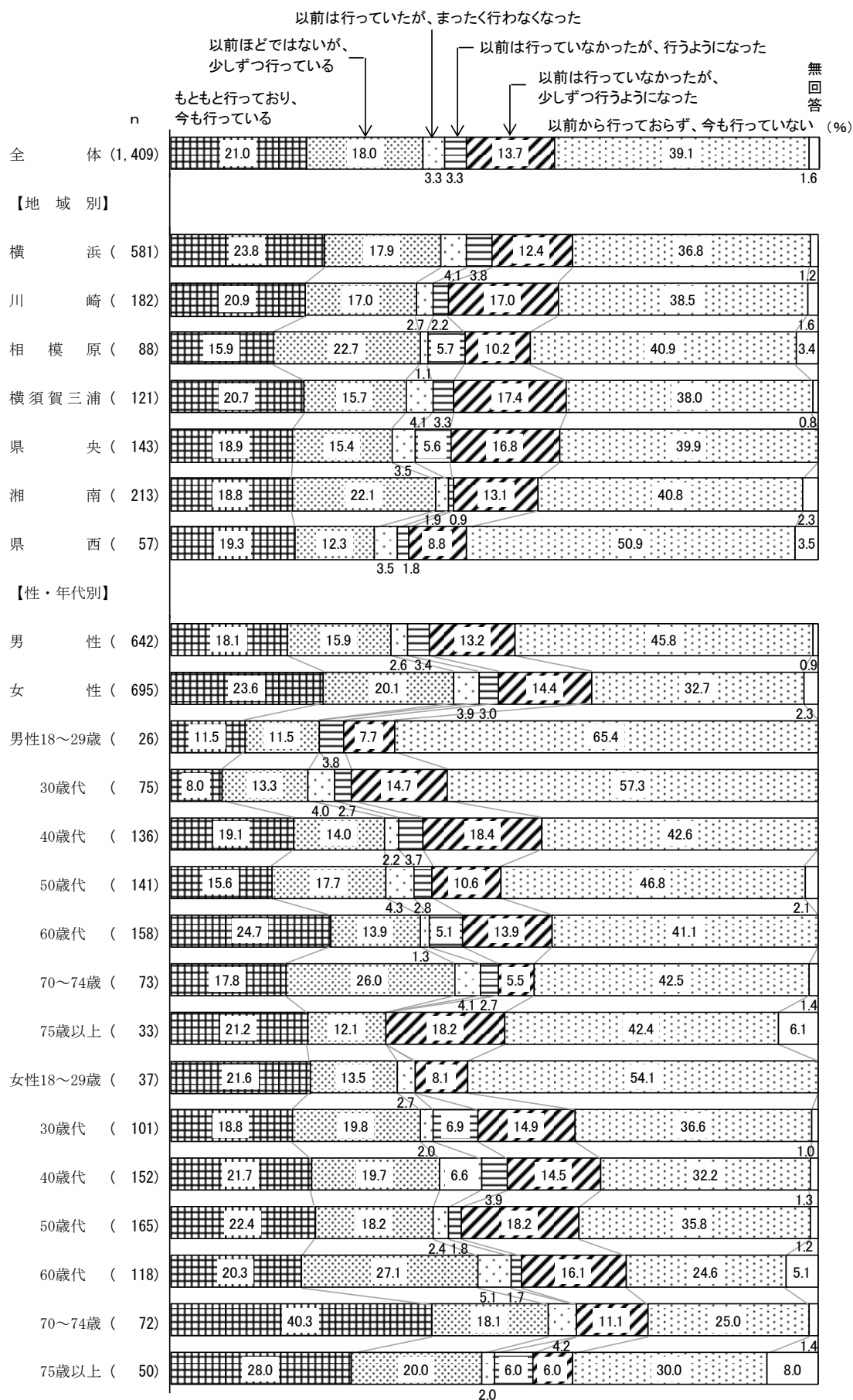
3 「未病改善」の取組みの実践【問14】

【全体の状況】

過去の1年間で「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）を以前と比べて行うようになったと思うか尋ねたところ、「以前から行っておらず、今も行っていない」が39.1%で最も多く、次いで「もともと行っており、今も行っている」が21.0%であった。（図表4-3-1）



図表4-3-2 「未病改善」の取組みの実践—地域別、性・年代別

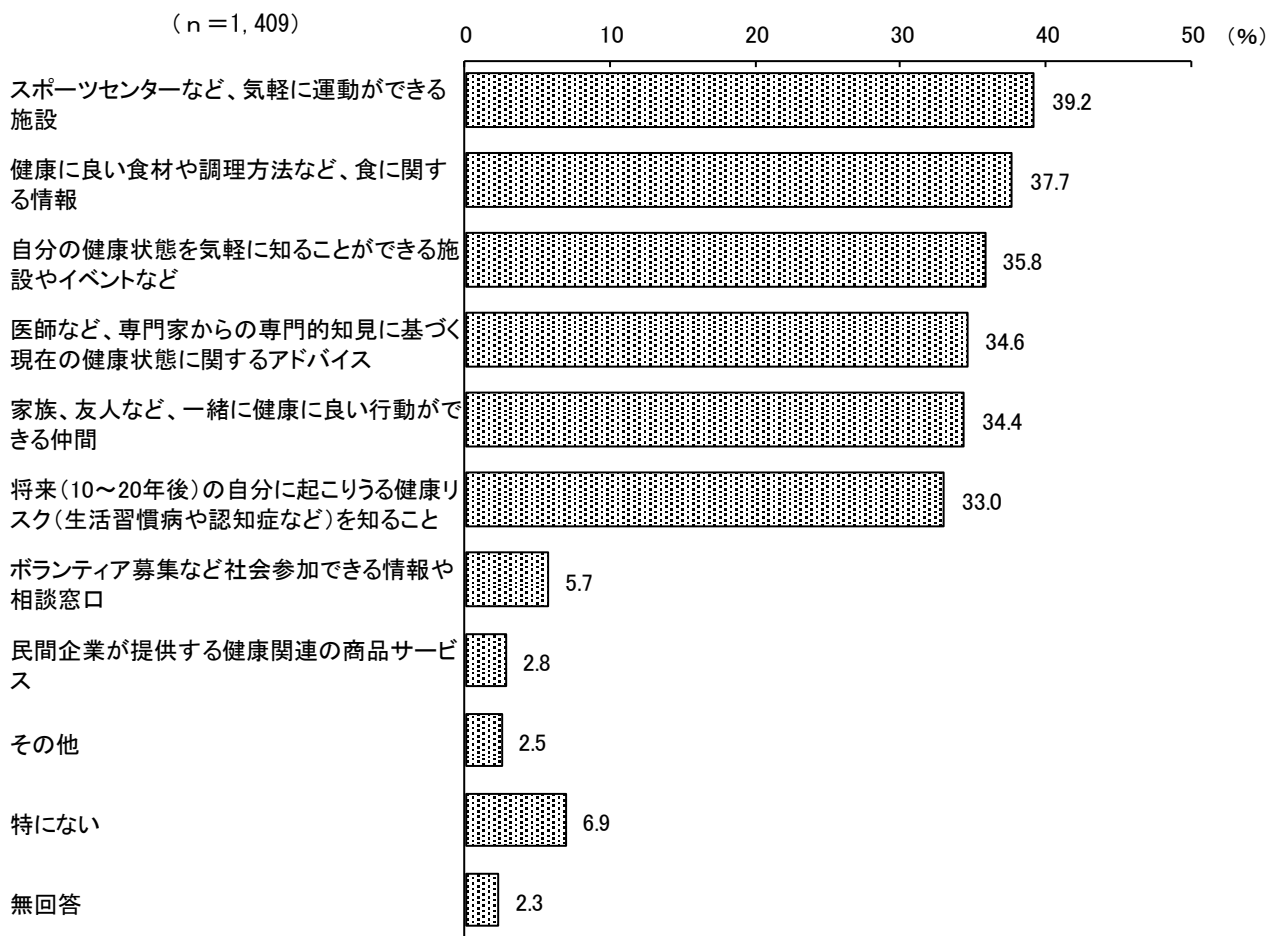


4 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの【問15】

【全体の状況】

「未病改善」の取組み（バランスの良い食事、運動、人との交流など）をするにあたって必要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設」が39.2%で最も多く、次いで「健康に良い食材や調理方法など、食に関する情報」が37.7%であった。（図表4-4-1）

図表4-4-1 「未病改善」の取組みに必要なと思うもの（複数回答）



図表4-4-2 「未病改善」の取組みに必要だと思うもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設	健康に良い食材や調理方法など、食に関する情報	自分の健康状態を気軽に知ることができる施設やイベントなど	医師など、専門家からの専門的知識に基づく現在の健康状態に関するアドバイス	家族、友人など、一緒に健康に良い行動ができる仲間	将来（10～20年後）の自分に起こりうる健康リスク（生活習慣病や認知症など）を知ること	ボランティア募集など社会参加できる情報や相談窓口	民間企業が提供する健康関連の商品サービス	その他	特にない	無回答
全体	1,409	39.2	37.7	35.8	34.6	34.4	33.0	5.7	2.8	2.5	6.9	2.3
【地域別】												
横浜	581	39.4	36.3	36.3	37.5	34.6	34.9	5.7	3.3	2.9	5.9	2.6
川崎	182	46.7	41.8	30.2	39.0	36.8	27.5	6.0	2.7	2.2	3.8	2.2
相模原	88	45.5	30.7	40.9	31.8	33.0	35.2	5.7	-	2.3	4.5	1.1
横須賀三浦	121	43.8	38.0	33.1	38.0	31.4	33.1	1.7	5.0	1.7	4.1	1.7
県央	143	30.8	44.8	41.3	30.1	42.0	30.1	6.3	2.1	1.4	7.0	1.4
湘南	213	37.1	34.7	33.3	26.8	31.9	32.4	8.0	1.9	3.3	11.7	2.3
県西	57	29.8	38.6	47.4	29.8	29.8	35.1	1.8	3.5	1.8	12.3	-
【性・年代別】												
男性	642	40.2	35.0	33.5	33.6	30.1	28.5	5.0	2.6	3.4	10.0	2.0
女性	695	39.6	39.9	38.4	35.7	39.1	37.0	6.0	3.2	1.6	3.2	2.7
男性18～29歳	26	50.0	53.8	38.5	26.9	57.7	42.3	3.8	-	-	-	-
30歳代	75	44.0	34.7	25.3	26.7	33.3	18.7	4.0	4.0	2.7	13.3	2.7
40歳代	136	50.7	44.1	34.6	31.6	32.4	30.1	5.1	0.7	6.6	5.1	0.7
50歳代	141	36.9	31.2	35.5	29.8	28.4	27.7	5.7	6.4	3.5	12.8	1.4
60歳代	158	37.3	29.7	38.0	44.9	25.3	32.3	4.4	1.9	1.3	8.9	1.9
70～74歳	73	32.9	32.9	31.5	28.8	26.0	26.0	8.2	1.4	4.1	11.0	4.1
75歳以上	33	24.2	30.3	18.2	36.4	30.3	24.2	-	-	3.0	21.2	6.1
女性18～29歳	37	48.6	51.4	29.7	24.3	45.9	35.1	2.7	2.7	2.7	2.7	-
30歳代	101	52.5	42.6	44.6	31.7	40.6	30.7	2.0	5.0	-	5.9	2.0
40歳代	152	39.5	36.2	41.4	36.8	43.4	41.4	7.2	2.6	3.3	0.7	1.3
50歳代	165	38.2	34.5	39.4	37.0	40.6	39.4	9.1	4.2	1.2	3.6	1.8
60歳代	118	39.8	40.7	34.7	37.3	28.8	38.1	6.8	3.4	1.7	2.5	5.1
70～74歳	72	36.1	43.1	40.3	31.9	43.1	34.7	5.6	-	-	2.8	4.2
75歳以上	50	16.0	48.0	26.0	46.0	32.0	30.0	2.0	2.0	2.0	6.0	6.0

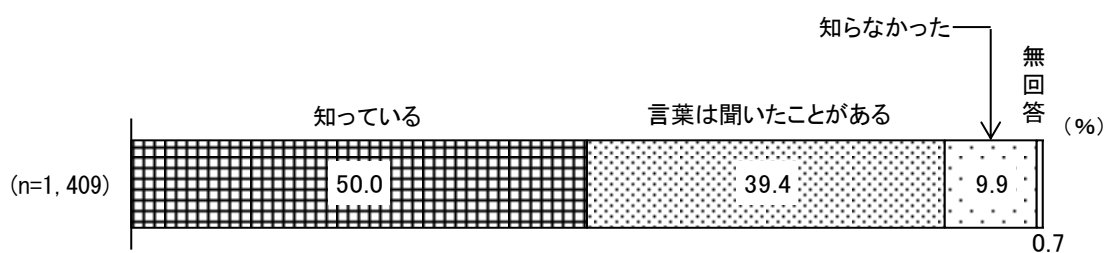
第5章 肝炎対策【問16～問17-1】

1 ウイルス性肝炎の認知度【問16】

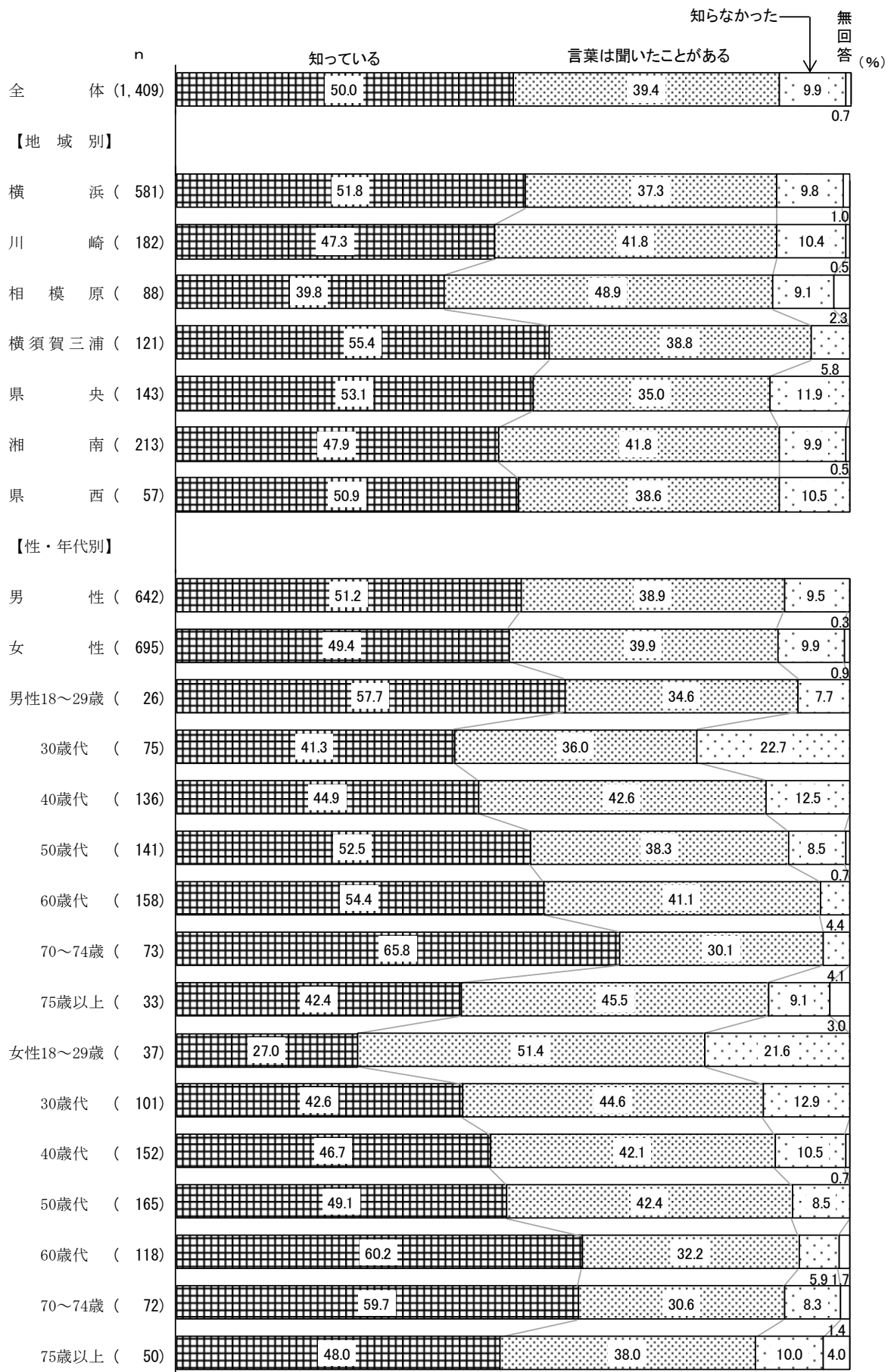
【全体の状況】

ウイルス性肝炎という病気を知っているか尋ねたところ、「知っている」が50.0%であった。一方、「知らなかった」は、9.9%であった。(図表5-1-1)

図表5-1-1 ウイルス性肝炎の認知度



図表5-1-2 ウイルス性肝炎の認知度—地域別、性・年代別



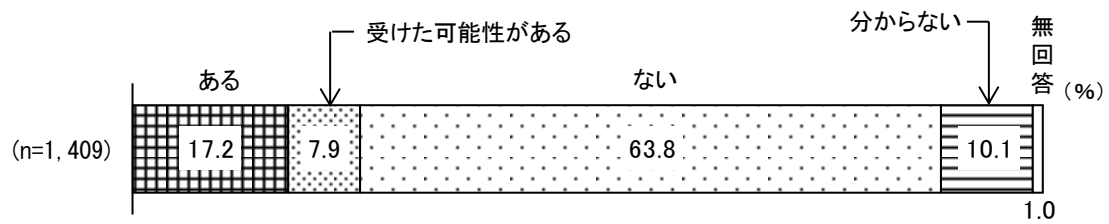
2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況【問17】

【全体の状況】

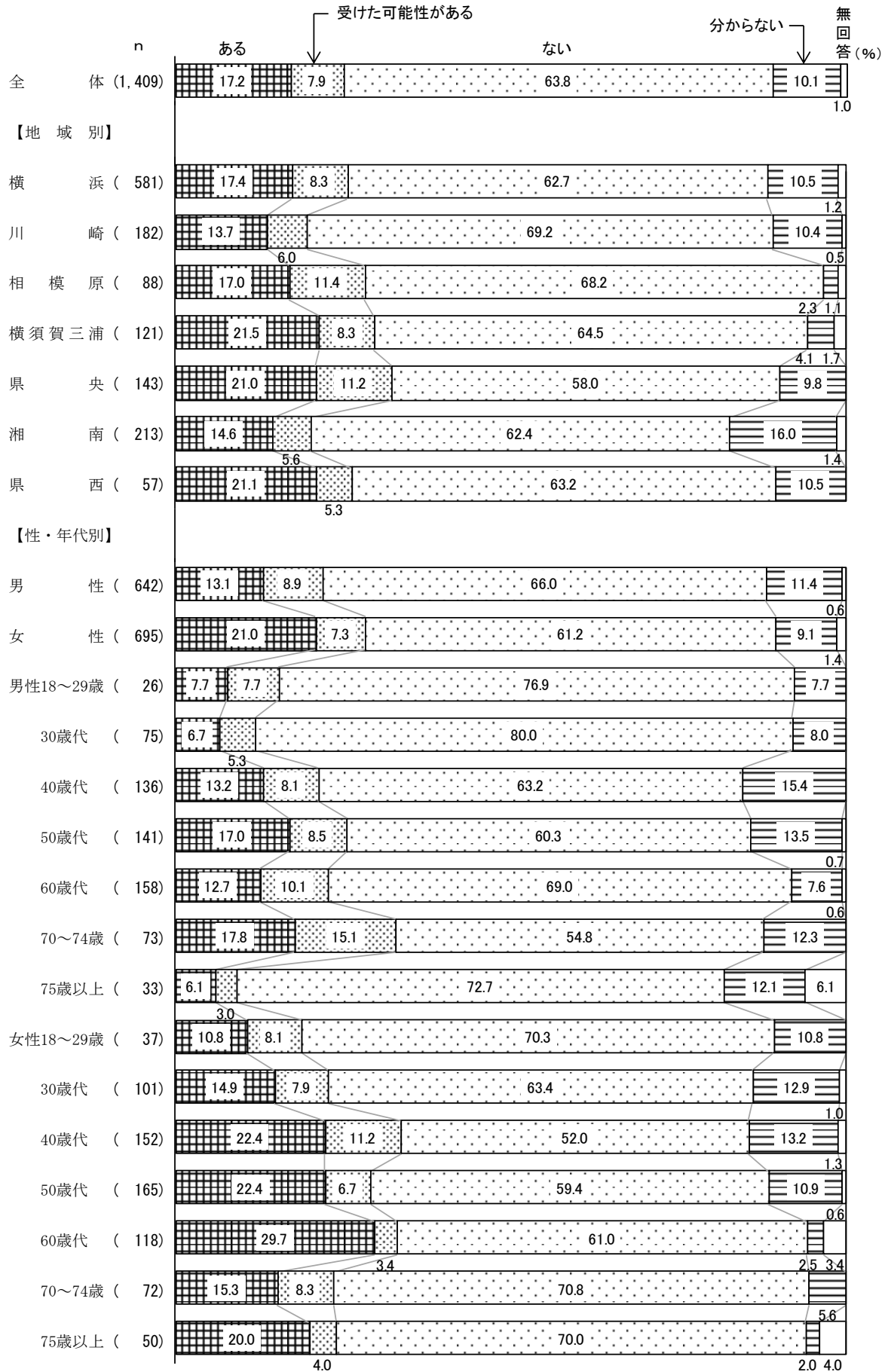
これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が17.2%であった。

一方、「ない」が63.8%であった。(図表 5-2-1)

図表5-2-1 「肝炎ウイルス検査」の受検状況



図表5-2-2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況—地域別、性・年代別

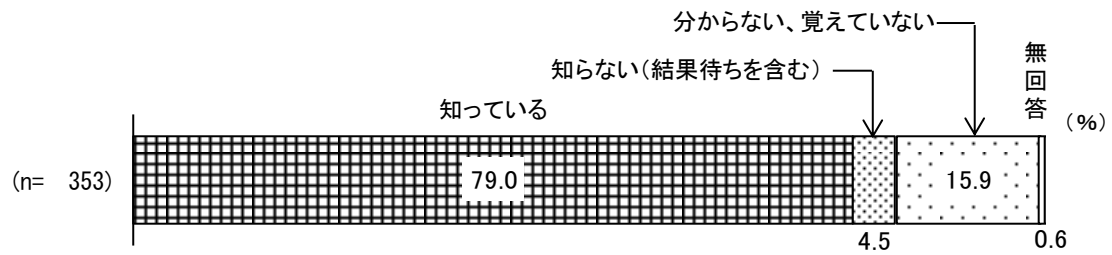


3 検査結果の把握状況【問17-1】

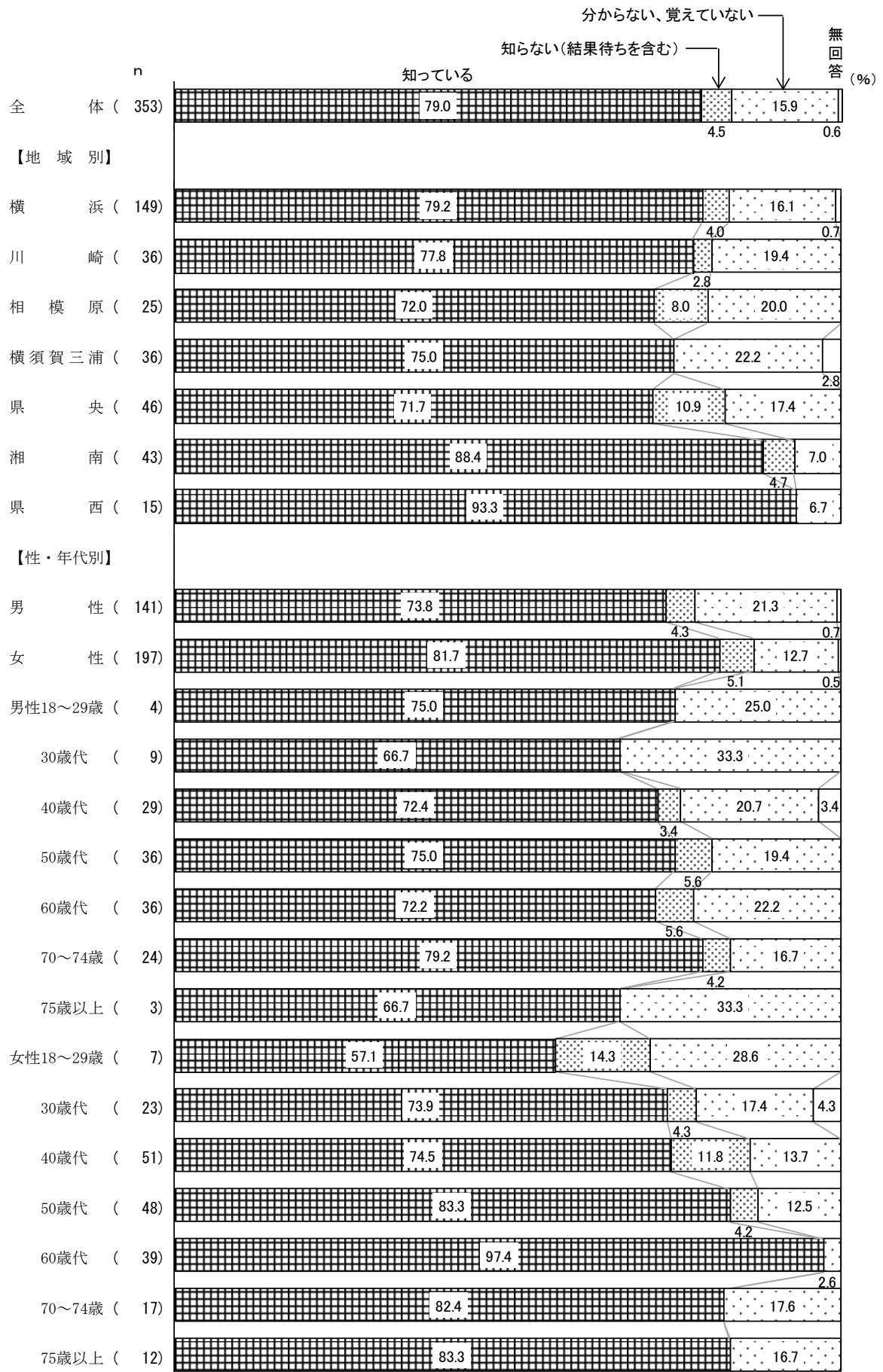
【全体の状況】

「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問17）で、「ある」または「受けた可能性がある」と回答した353人に、検査の結果を知っているか尋ねたところ、「知っている」が79.0%で最も多く、次いで「分からない、覚えていない」が15.9%であった。（図表5-3-1）

図表5-3-1 検査結果の把握状況



図表5-3-2 検査結果の把握状況—地域別、性・年代別



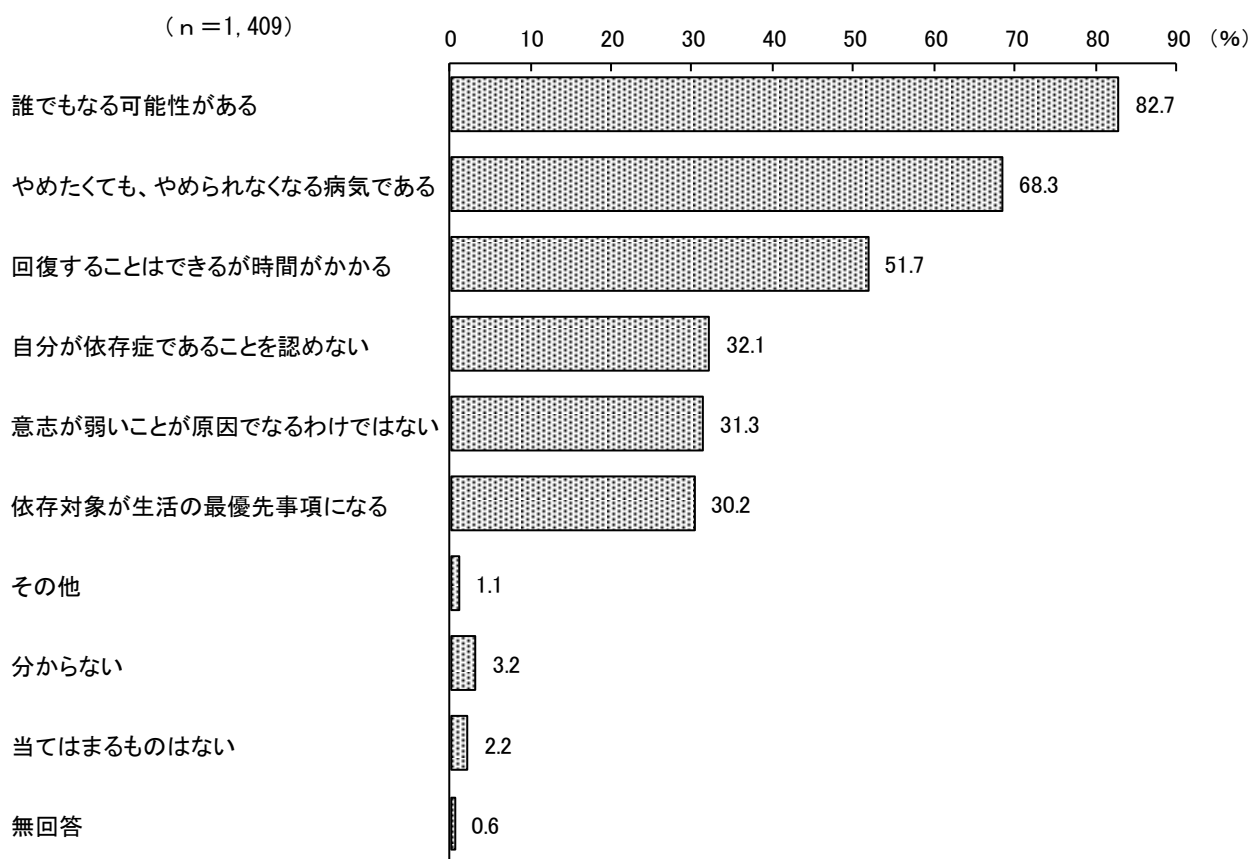
第6章 依存症に対する意識【問18～問21】

1 依存症についてあてはまると思うこと【問18】

【全体の状況】

依存症について、あてはまると思うことを複数回答で尋ねたところ、「誰でもなる可能性がある」が82.7%で最も多く、次いで「やめたくても、やめられなくなる病気である」が68.3%であった。(図表6-1-1)

図表6-1-1 依存症についてあてはまると思うこと（複数回答）



図表6-1-2 依存症についてあてはまると思うこと（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

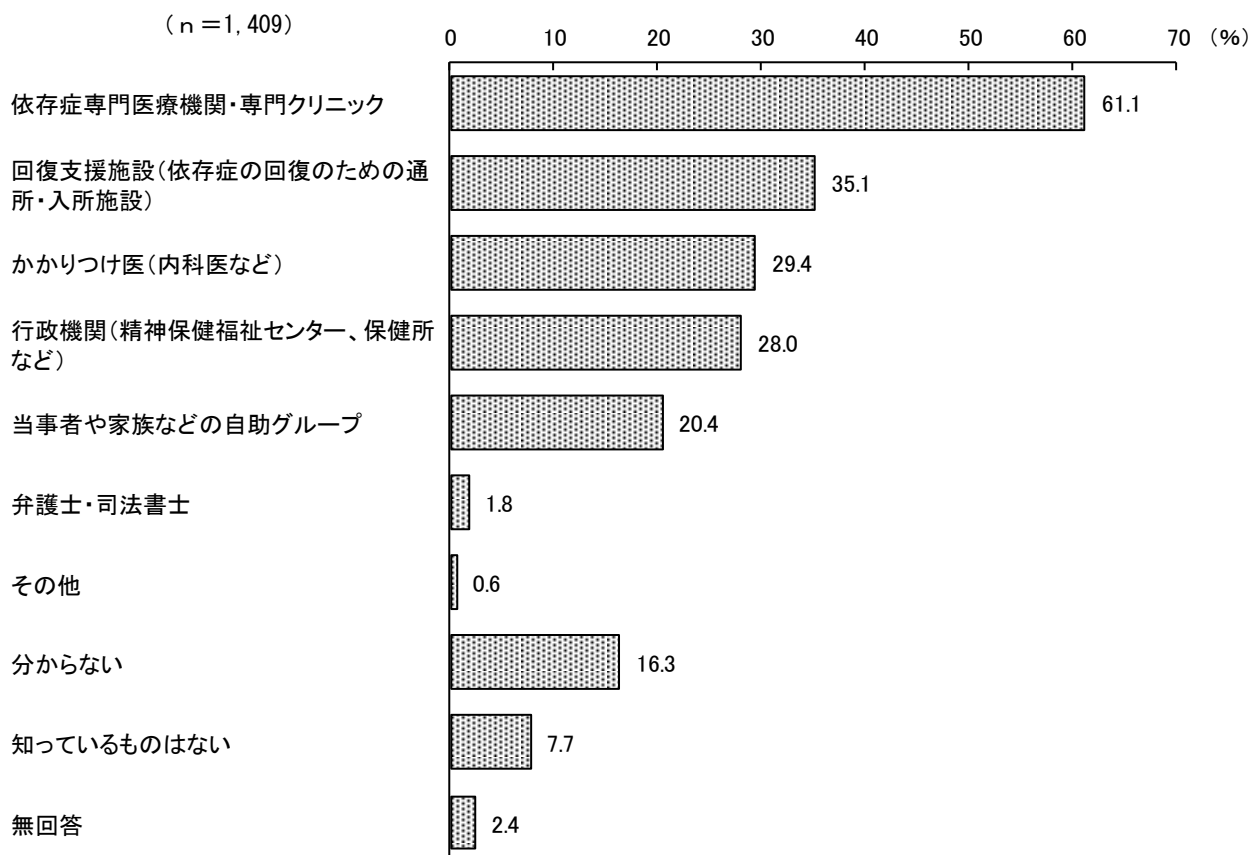
	n	誰でもなる可能性がある	やめたくても、やめられなくなる病気である	回復することはできるが時間がかかる	自分が依存症であることを認めない	意志が弱いことが原因でなるわけではない	依存対象が生活の最優先事項になる	その他	分からない	当てはまるものはない	無回答
全体	1,409	82.7	68.3	51.7	32.1	31.3	30.2	1.1	3.2	2.2	0.6
【地域別】											
横浜	581	82.8	68.3	53.2	31.0	31.3	31.7	1.9	2.2	2.4	0.5
川崎	182	84.1	73.1	50.5	36.3	30.8	31.9	-	2.2	2.7	0.5
相模原	88	92.0	80.7	58.0	39.8	39.8	34.1	1.1	-	-	1.1
横須賀三浦	121	85.1	62.8	47.1	28.1	36.4	29.8	-	2.5	1.7	-
県央	143	81.1	65.7	48.3	27.3	28.0	30.1	1.4	2.8	1.4	0.7
湘南	213	78.4	65.3	50.7	31.5	27.7	25.8	0.9	8.0	2.8	0.5
県西	57	80.7	66.7	49.1	36.8	29.8	26.3	-	3.5	3.5	1.8
【性・年代別】											
男性	642	83.0	64.6	47.0	29.6	30.8	26.5	0.9	3.9	2.2	0.6
女性	695	83.2	72.5	57.3	33.8	33.2	34.2	1.3	1.7	1.9	0.7
男性18～29歳	26	100.0	76.9	69.2	46.2	46.2	50.0	3.8	-	-	-
30歳代	75	82.7	64.0	38.7	30.7	36.0	28.0	-	2.7	2.7	-
40歳代	136	87.5	65.4	47.8	27.2	30.9	31.6	1.5	1.5	0.7	-
50歳代	141	83.7	67.4	48.2	32.6	34.8	29.1	0.7	4.3	1.4	2.1
60歳代	158	84.2	63.3	50.6	32.3	29.7	21.5	0.6	3.8	1.9	-
70～74歳	73	75.3	60.3	42.5	23.3	21.9	17.8	1.4	8.2	2.7	-
75歳以上	33	60.6	57.6	33.3	12.1	15.2	15.2	-	9.1	12.1	3.0
女性18～29歳	37	86.5	75.7	56.8	27.0	43.2	35.1	2.7	2.7	-	-
30歳代	101	95.0	79.2	66.3	37.6	41.6	46.5	-	-	-	-
40歳代	152	84.2	73.0	49.3	38.2	37.5	38.2	1.3	0.7	-	0.7
50歳代	165	84.8	76.4	57.6	33.3	33.9	33.3	1.8	1.8	0.6	-
60歳代	118	85.6	70.3	61.9	35.6	30.5	39.0	0.8	0.8	4.2	1.7
70～74歳	72	65.3	68.1	54.2	27.8	19.4	20.8	1.4	5.6	5.6	-
75歳以上	50	68.0	54.0	56.0	24.0	20.0	8.0	2.0	4.0	6.0	4.0

2 依存症に関する相談場所として知っているもの【問19】

【全体の状況】

依存症について相談できる場所として知っているものを複数回答で尋ねたところ、「依存症専門医療機関・専門クリニック」が61.1%で最も多く、次いで「回復支援施設（依存症の回復のための通所・入所施設）」が35.1%であった。（図表6-2-1）

図表6-2-1 依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）



図表6-2-2 依存症に関する相談場所として知っているもの（複数回答）－地域別、性・年代別

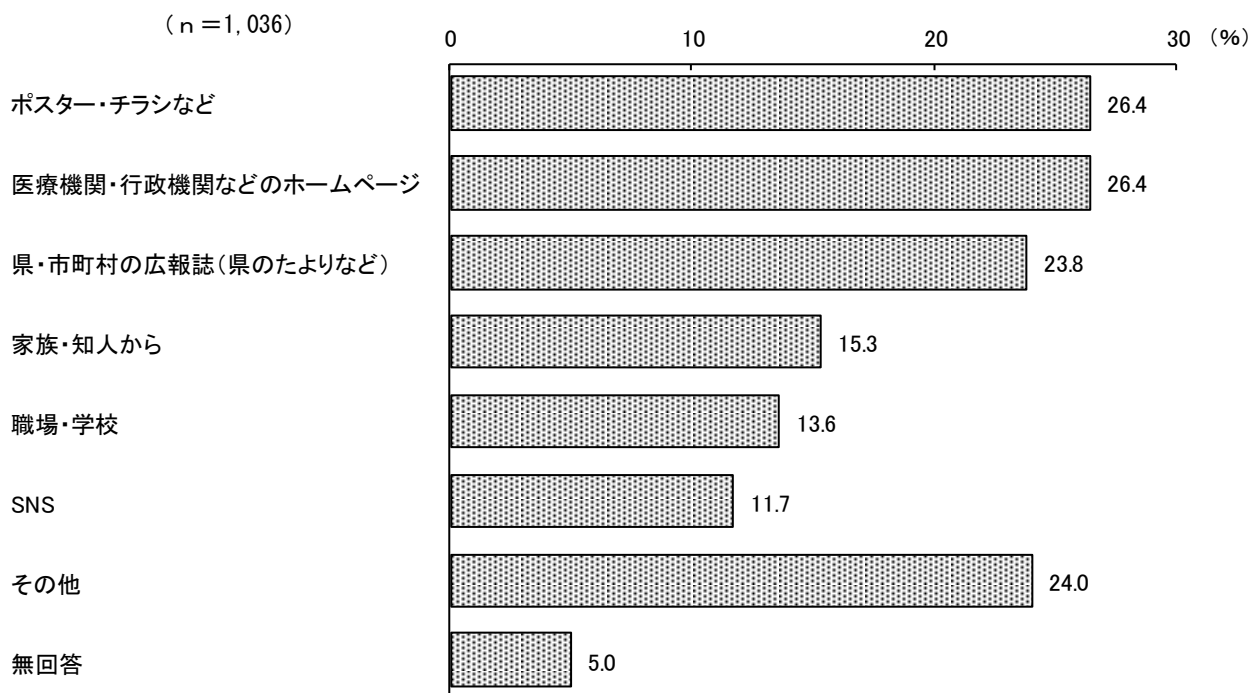
(%)											
	n	依存症専門医療機関・専門クリニック	回復支援施設（依存症の回復のための通所・入所施設）	かかりつけ医（内科医など）	行政機関（精神保健福祉センター、保健所など）	当事者や家族などの自助グループ	弁護士・司法書士	その他	分からない	知っているものはない	無回答
全体	1,409	61.1	35.1	29.4	28.0	20.4	1.8	0.6	16.3	7.7	2.4
【地域別】											
横浜	581	62.5	38.4	29.3	30.8	22.9	2.2	0.7	15.1	7.2	2.1
川崎	182	58.2	34.6	33.0	22.0	19.8	1.6	1.1	19.2	7.1	1.1
相模原	88	58.0	26.1	30.7	35.2	19.3	1.1	1.1	17.0	8.0	2.3
横須賀三浦	121	71.1	34.7	29.8	34.7	21.5	1.7	-	13.2	2.5	1.7
県央	143	56.6	33.6	23.8	20.3	16.1	3.5	-	18.9	11.9	4.2
湘南	213	58.7	32.4	29.6	25.4	19.2	0.5	0.5	16.4	8.9	1.9
県西	57	63.2	33.3	33.3	28.1	15.8	-	-	15.8	8.8	5.3
【性・年代別】											
男性	642	56.1	29.8	29.8	26.0	14.8	1.9	0.6	17.4	9.2	1.7
女性	695	66.9	40.7	29.5	30.2	26.5	1.7	0.3	15.4	6.0	2.4
男性18～29歳	26	61.5	26.9	34.6	38.5	19.2	-	-	7.7	11.5	-
30歳代	75	60.0	21.3	29.3	28.0	17.3	5.3	2.7	14.7	10.7	2.7
40歳代	136	58.1	33.8	34.6	27.2	15.4	2.2	-	19.1	5.9	-
50歳代	141	59.6	36.9	27.7	24.1	20.6	2.1	-	18.4	7.8	2.8
60歳代	158	58.9	31.0	29.1	26.6	12.0	0.6	0.6	13.9	10.1	1.3
70～74歳	73	45.2	21.9	24.7	24.7	8.2	1.4	1.4	19.2	13.7	4.1
75歳以上	33	30.3	15.2	30.3	15.2	6.1	-	-	33.3	9.1	-
女性18～29歳	37	67.6	29.7	32.4	35.1	29.7	-	-	10.8	5.4	-
30歳代	101	76.2	46.5	41.6	39.6	36.6	4.0	1.0	11.9	5.0	1.0
40歳代	152	69.1	41.4	27.6	30.9	27.0	1.3	0.7	17.8	4.6	1.3
50歳代	165	69.7	39.4	26.1	25.5	25.5	1.8	-	14.5	5.5	1.2
60歳代	118	72.9	49.2	28.0	31.4	28.0	0.8	-	11.0	5.9	3.4
70～74歳	72	54.2	38.9	27.8	23.6	20.8	2.8	-	23.6	6.9	2.8
75歳以上	50	36.0	22.0	26.0	28.0	10.0	-	-	20.0	14.0	12.0

3 相談できる場所を知ったきっかけ【問19-1】

【全体の状況】

依存症について相談できる場所（問19）で、知っているとは回答した1,036人に、相談できる場所を知ったきっかけについて複数回答で尋ねたところ、「ポスター・チラシなど」、「医療機関・行政機関などのホームページ」がそれぞれ26.4%で最も多く、次いで「県・市町村の広報誌（県のたよりなど）」が23.8%であった。（図表6-3-1）

図表6-3-1 相談できる場所を知ったきっかけ（複数回答）



図表6-3-2 相談できる場所を知ったきっかけ（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	ポスター・チラシなど	医療機関・行政機関などのホームページ	県・市町村の広報誌（県のたよりなど）	家族・知人から	職場・学校	SNS	その他	無回答
全 体	1,036	26.4	26.4	23.8	15.3	13.6	11.7	24.0	5.0
【地 域 別】									
横 浜	439	24.8	28.0	22.8	15.7	12.3	10.5	22.8	4.8
川 崎	132	22.0	28.8	15.9	15.9	16.7	12.9	26.5	6.8
相 模 原	64	29.7	25.0	37.5	15.6	14.1	9.4	21.9	7.8
横 須 賀 三 浦	100	29.0	15.0	23.0	19.0	18.0	13.0	23.0	6.0
県 央	93	32.3	20.4	23.7	5.4	14.0	12.9	26.9	2.2
湘 南	155	27.1	32.9	27.1	15.5	12.3	12.9	25.8	1.9
県 西	40	30.0	22.5	35.0	20.0	7.5	17.5	20.0	7.5
【性・年代別】									
男 性	460	29.6	28.7	23.9	15.9	15.0	13.0	17.4	4.8
女 性	529	24.2	24.2	23.8	14.7	13.0	11.2	29.7	4.9
男性18～29歳	21	38.1	19.0	4.8	19.0	38.1	14.3	14.3	4.8
30歳代	54	33.3	29.6	16.7	9.3	16.7	16.7	11.1	5.6
40歳代	102	34.3	24.5	17.6	16.7	19.6	14.7	22.5	2.0
50歳代	100	27.0	28.0	14.0	18.0	12.0	21.0	25.0	3.0
60歳代	118	29.7	35.6	35.6	16.9	11.9	8.5	11.9	5.9
70～74歳	46	23.9	26.1	41.3	15.2	8.7	4.3	13.0	6.5
75歳以上	19	10.5	26.3	36.8	10.5	10.5	-	15.8	15.8
女性18～29歳	31	25.8	35.5	9.7	9.7	35.5	22.6	16.1	-
30歳代	83	25.3	18.1	18.1	16.9	21.7	22.9	26.5	1.2
40歳代	116	26.7	28.4	13.8	14.7	18.1	12.9	27.6	1.7
50歳代	130	19.2	23.8	23.1	12.3	6.2	8.5	38.5	3.8
60歳代	94	24.5	22.3	38.3	12.8	10.6	5.3	31.9	8.5
70～74歳	48	20.8	22.9	27.1	20.8	2.1	4.2	33.3	12.5
75歳以上	27	37.0	22.2	48.1	22.2	-	-	7.4	14.8

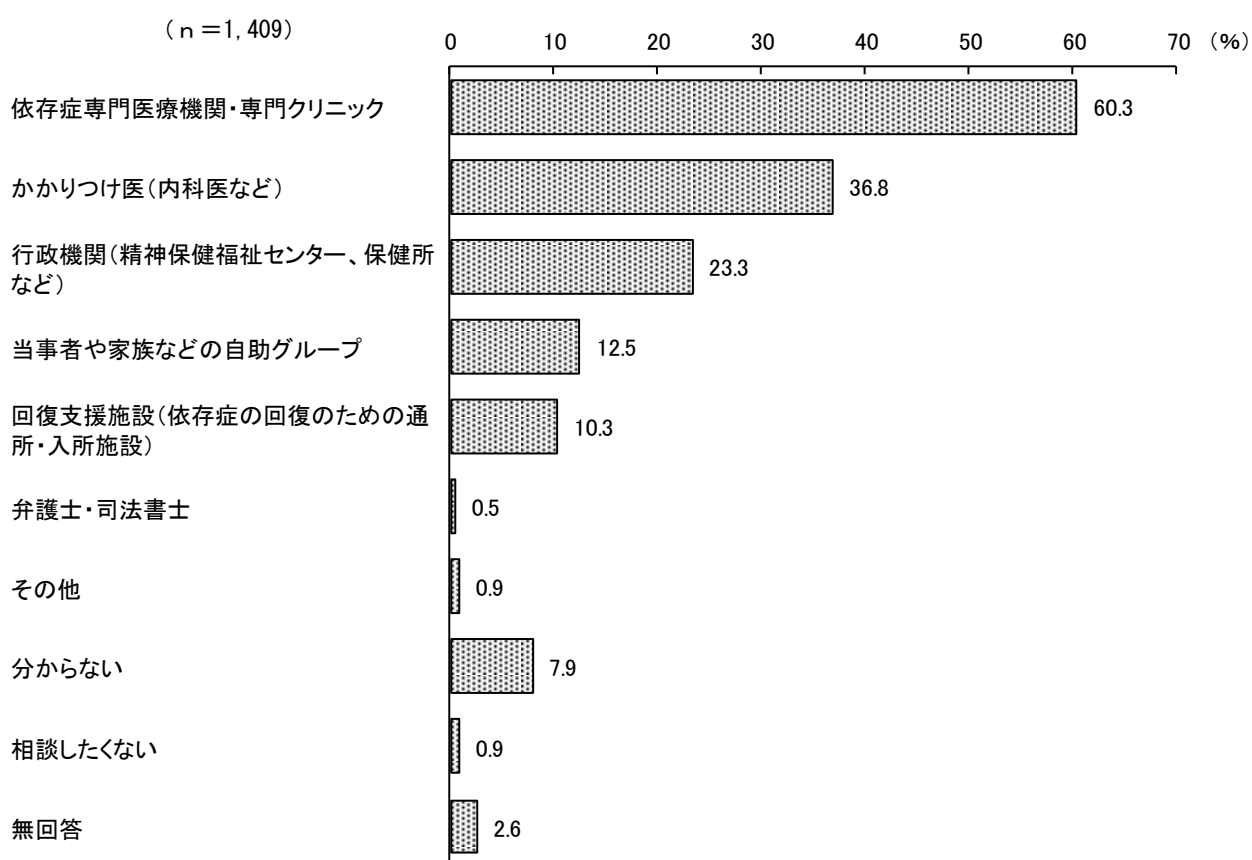
4 あなたやあなたの身近な人が依存症になった場合や疑われる場合に相談したい場所【問20】

【全体の状況】

あなたやあなたの身近な人が依存症になった場合や疑われる場合に相談したい場所を複数回答で尋ねたところ、「依存症専門医療機関・専門クリニック」が60.3%で最も多く、次いで「かかりつけ医（内科医など）」が36.8%であった。

(図表6-4-1)

図表6-4-1 あなたやあなたの身近な人が依存症になった場合や疑われる場合に相談したい場所
(複数回答)



図表6-4-2 あなたやあなたの身近な人が依存症になった場合や疑われる場合に相談したい場所
(複数回答) - 地域別、性・年代別

(%)

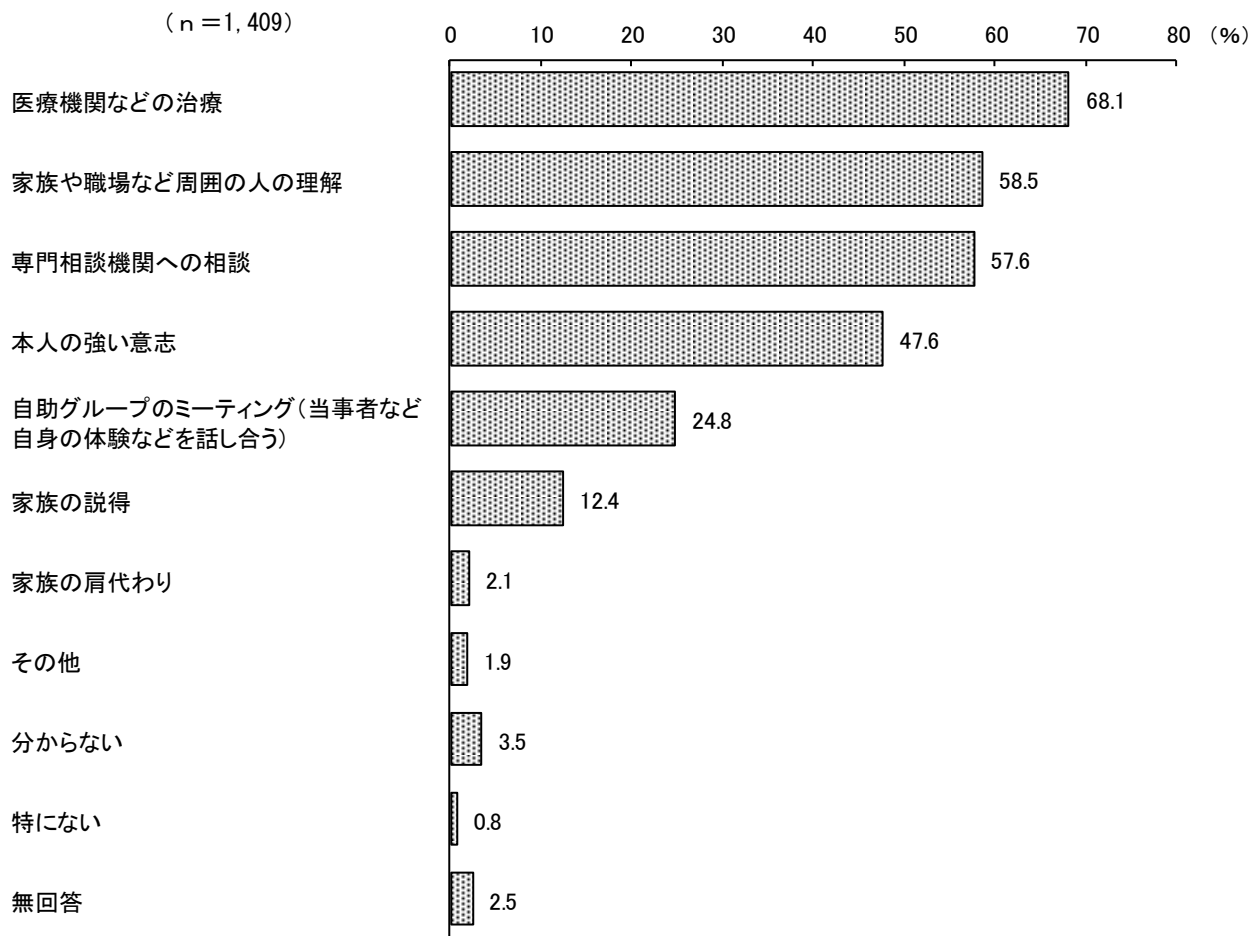
	n	依存症専門医療機関・専門クリニック	かかりつけ医（内科医など）	行政機関（精神保健福祉センター、保健所など）	当事者や家族などの自助グループ	回復支援施設（依存症の回復のための通所・入所施設）	弁護士・司法書士	その他	分からない	相談したくない	無回答
全 体	1,409	60.3	36.8	23.3	12.5	10.3	0.5	0.9	7.9	0.9	2.6
【地 域 別】											
横 浜	581	61.4	35.6	24.3	11.4	10.8	0.5	0.9	6.9	0.5	2.1
川 崎	182	58.8	38.5	19.8	16.5	8.2	-	1.1	10.4	1.6	0.5
相 模 原	88	63.6	31.8	30.7	19.3	9.1	-	-	6.8	1.1	1.1
横 須 賀 三 浦	121	60.3	38.0	23.1	9.9	10.7	0.8	3.3	5.8	-	3.3
県 央	143	58.0	34.3	21.0	12.6	10.5	1.4	-	7.7	1.4	4.2
湘 南	213	60.1	41.3	23.5	9.9	10.3	0.5	0.5	10.8	0.9	3.3
県 西	57	59.6	38.6	22.8	15.8	10.5	-	-	5.3	3.5	3.5
【性・年代別】											
男 性	642	58.3	38.8	21.5	11.5	10.1	0.6	0.8	8.7	1.1	2.0
女 性	695	62.7	34.8	25.6	13.8	10.6	0.4	0.9	6.8	0.9	2.3
男性18～29歳	26	50.0	30.8	11.5	23.1	3.8	-	-	3.8	3.8	-
30歳代	75	61.3	24.0	12.0	13.3	8.0	1.3	1.3	8.0	2.7	2.7
40歳代	136	60.3	37.5	20.6	11.0	9.6	-	0.7	8.1	1.5	0.7
50歳代	141	54.6	39.0	17.0	13.5	9.9	-	0.7	12.1	0.7	2.1
60歳代	158	64.6	39.9	25.3	10.1	11.4	0.6	-	7.6	0.6	1.9
70～74歳	73	50.7	47.9	32.9	5.5	9.6	2.7	2.7	6.8	-	5.5
75歳以上	33	51.5	57.6	30.3	12.1	18.2	-	-	12.1	-	-
女性18～29歳	37	73.0	32.4	8.1	24.3	-	2.7	2.7	2.7	5.4	-
30歳代	101	67.3	26.7	25.7	15.8	11.9	-	-	5.9	-	2.0
40歳代	152	68.4	33.6	25.0	10.5	6.6	0.7	1.3	3.9	0.7	1.3
50歳代	165	61.8	37.0	21.8	11.5	12.1	-	-	7.9	1.2	1.2
60歳代	118	65.3	33.1	30.5	13.6	11.9	0.8	0.8	6.8	0.8	5.1
70～74歳	72	48.6	43.1	30.6	16.7	12.5	-	2.8	11.1	-	1.4
75歳以上	50	46.0	42.0	34.0	16.0	18.0	-	-	10.0	-	6.0

5 依存症の回復に必要と思うもの【問21】

【全体の状況】

依存症の回復に必要と思うものについて複数回答で尋ねたところ、「医療機関などの治療」が68.1%で最も多く、次いで「家族や職場など周囲の人の理解」が58.5%であった。(図表6-5-1)

図表6-5-1 依存症の回復に必要と思うもの（複数回答）



図表6-5-2 依存症の回復に必要と思うもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)												
	n	医療機関などの治療	家族や職場など周囲の人の理解	専門相談機関への相談	本人の強い意志	自助グループのミーティング（当事者など自身の体験などを話し合う）	家族の説得	家族の肩代わり	その他	分からない	特にない	無回答
全体	1,409	68.1	58.5	57.6	47.6	24.8	12.4	2.1	1.9	3.5	0.8	2.5
【地域別】												
横浜	581	69.0	59.9	59.4	49.4	28.4	13.6	2.1	2.4	2.4	0.7	1.7
川崎	182	70.9	62.1	59.9	46.7	23.1	12.1	1.1	1.6	3.3	-	0.5
相模原	88	75.0	63.6	61.4	47.7	21.6	15.9	4.5	3.4	1.1	-	2.3
横須賀三浦	121	66.1	59.5	57.0	43.8	25.6	16.5	0.8	1.7	1.7	-	1.7
県央	143	66.4	60.8	52.4	48.3	21.7	9.8	3.5	2.8	3.5	1.4	4.2
湘南	213	63.8	53.5	56.8	44.6	20.2	8.5	1.9	0.5	7.5	1.4	3.8
県西	57	68.4	47.4	49.1	54.4	24.6	10.5	-	-	5.3	3.5	3.5
【性・年代別】												
男性	642	65.1	51.9	53.9	46.0	18.5	12.8	2.2	2.0	3.9	1.2	1.9
女性	695	72.1	67.1	62.9	50.1	31.4	12.5	2.0	1.9	2.6	0.4	2.2
男性18～29歳	26	84.6	57.7	53.8	53.8	11.5	7.7	-	-	-	-	-
30歳代	75	66.7	52.0	41.3	46.7	16.0	14.7	2.7	1.3	4.0	2.7	2.7
40歳代	136	71.3	62.5	52.9	50.0	18.4	13.2	2.2	4.4	1.5	-	-
50歳代	141	63.8	54.6	56.7	39.7	21.3	13.5	2.1	2.8	5.0	2.8	2.1
60歳代	158	65.8	50.0	53.8	45.6	20.3	10.8	2.5	0.6	4.4	1.3	1.9
70～74歳	73	54.8	39.7	58.9	52.1	17.8	13.7	1.4	1.4	2.7	-	4.1
75歳以上	33	45.5	27.3	63.6	36.4	12.1	15.2	3.0	-	12.1	-	3.0
女性18～29歳	37	81.1	81.1	64.9	67.6	29.7	10.8	-	5.4	-	-	-
30歳代	101	89.1	79.2	72.3	57.4	35.6	16.8	1.0	2.0	-	-	1.0
40歳代	152	84.2	78.3	65.8	46.1	28.9	9.2	2.0	2.6	0.7	-	1.3
50歳代	165	69.1	64.8	62.4	50.9	32.7	8.5	1.2	1.8	2.4	1.2	1.2
60歳代	118	66.9	58.5	63.6	44.1	31.4	19.5	2.5	1.7	3.4	-	4.2
70～74歳	72	51.4	54.2	52.8	50.0	26.4	16.7	4.2	-	5.6	-	1.4
75歳以上	50	46.0	44.0	48.0	46.0	34.0	6.0	4.0	-	10.0	2.0	8.0

第7章 がん対策【問22～問23】

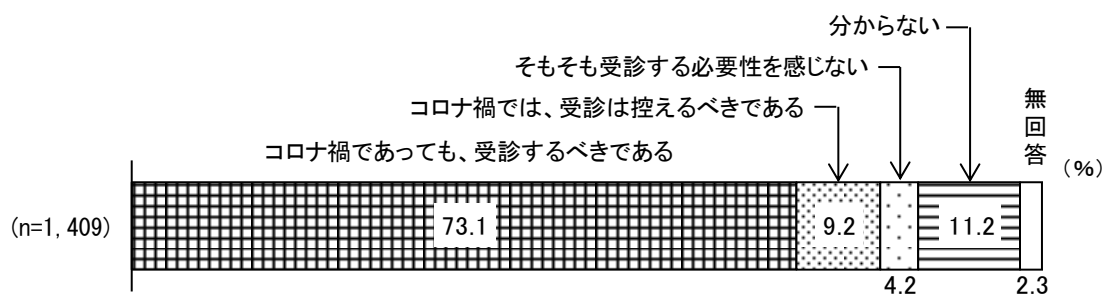
1 コロナ禍における「がん検診」の受診【問22】

【全体の状況】

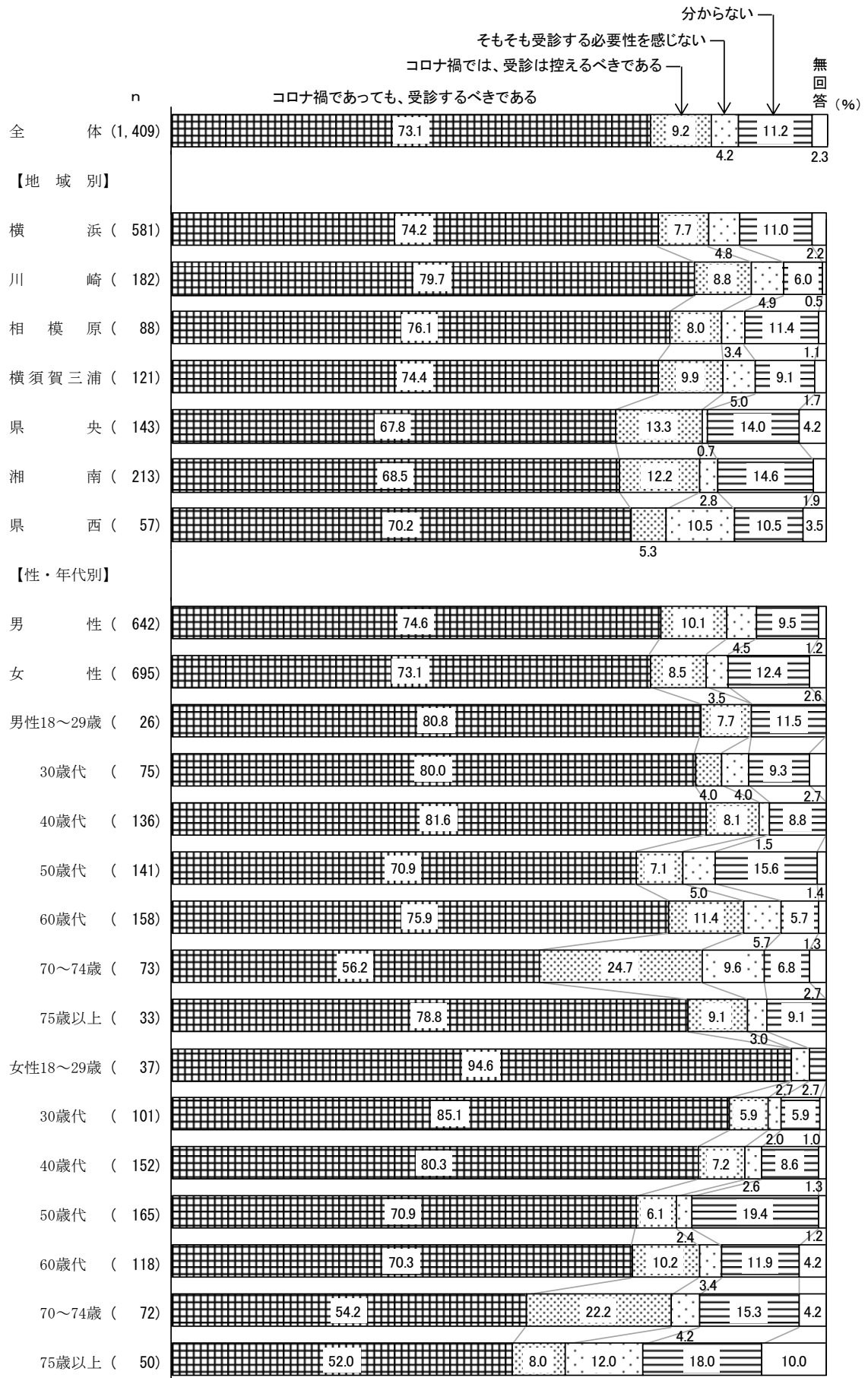
コロナ禍における「がん検診」の受診についてどう思うか尋ねたところ、「コロナ禍であっても、受診すべきである」が73.1%であった。

一方、「コロナ禍では、受診は控えるべきである」は、9.2%であった。(図表7-1-1)

図表7-1-1 コロナ禍における「がん検診」の受診



図表7-1-2 コロナ禍における「がん検診」の受診—地域別、性・年代別

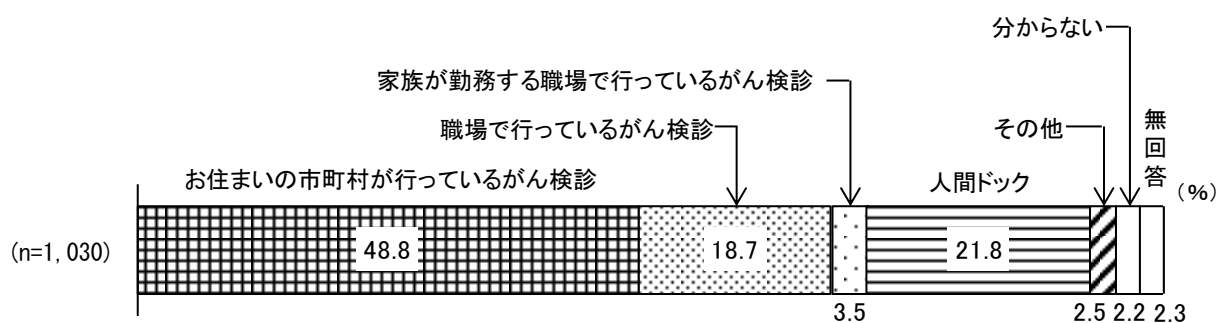


2 がん検診を受けようと思う場所【問22-1】

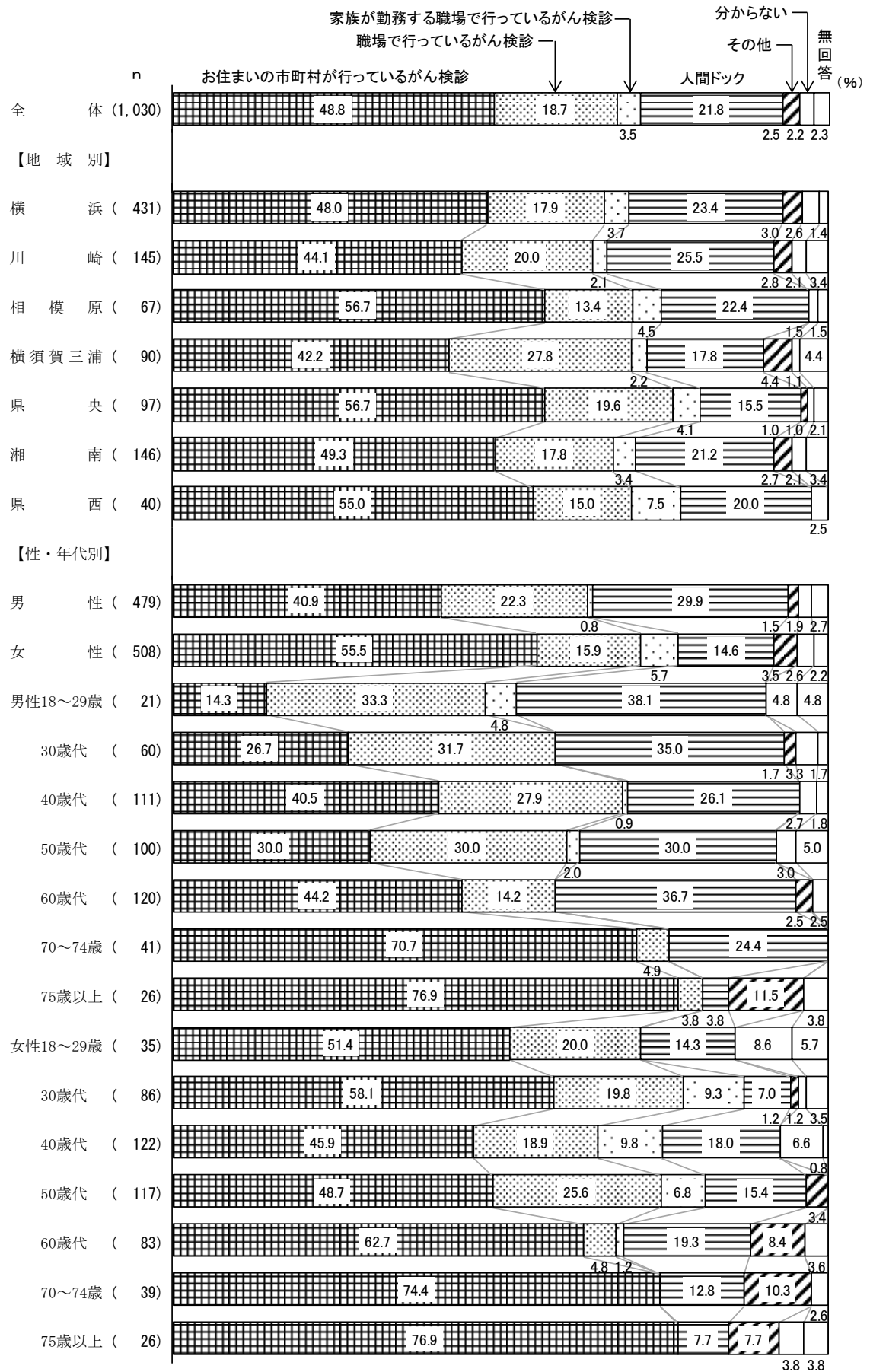
【全体の状況】

コロナ禍における「がん検診」の受診について（問22）で、「コロナ禍であっても、受診すべきである」と回答した1,030人に、どこで受診しようと思うか尋ねたところ、「お住まいの市町村が行っているがん検診」が48.8%で最も多く、次いで「人間ドック」が21.8%であった。（図表7-2-1）

図表7-2-1 がん検診を受けようと思う場所



図表7-2-2 がん検診を受けようと思う場所—地域別、性・年代別

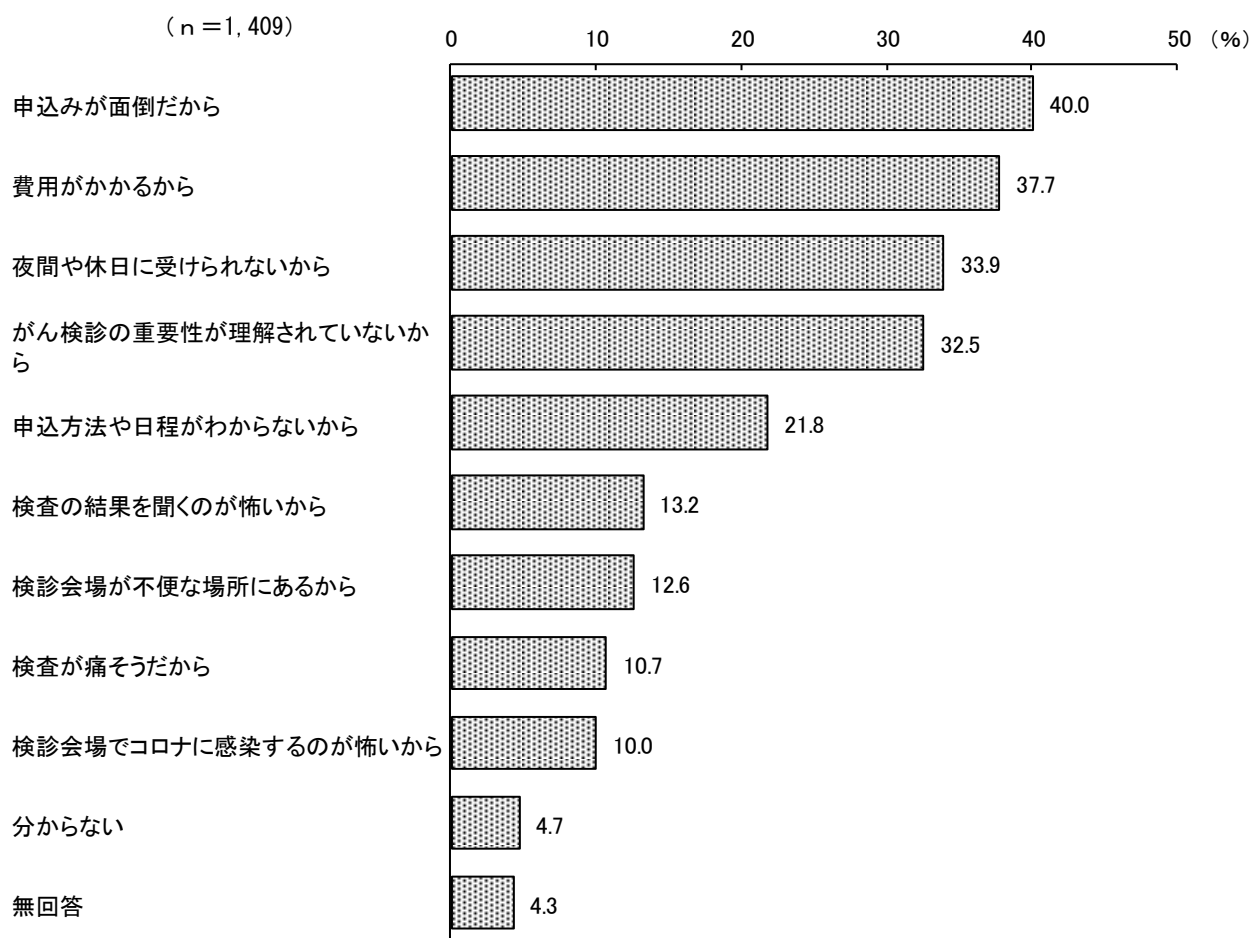


3 がん検診を受ける人が少ない理由【問23】

【全体の状況】

がん検診を受ける人が少ない理由を複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「申込みが面倒だから」が40.0%で最も多く、次いで「費用がかかるから」が37.7%であった。（図表7-3-1）

図表7-3-1 がん検診を受ける人が少ない理由（複数回答）



図表7-3-2 がん検診を受ける人が少ない理由（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	申込みが面倒だから	費用がかかるから	夜間や休日に受けられないから	がん検診の重要性が理解されていないから	申込方法や日程がわからないから	検査の結果を聞くのが怖いから	検診会場が不便な場所にあるから	検査が痛そうだから	検診会場でコロナに感染するのが怖いから	分からない	無回答
全 体	1,409	40.0	37.7	33.9	32.5	21.8	13.2	12.6	10.7	10.0	4.7	4.3
【地域別】												
横 浜	581	43.5	37.0	31.0	31.5	23.2	11.4	12.2	10.0	10.3	5.3	4.8
川 崎	182	44.0	40.7	41.2	33.5	22.0	12.6	9.3	12.6	9.3	3.8	1.6
相 模 原	88	43.2	35.2	39.8	36.4	17.0	13.6	11.4	8.0	12.5	3.4	4.5
横 須 賀 三 浦	121	40.5	41.3	35.5	26.4	24.0	13.2	14.9	11.6	6.6	5.0	4.1
県 央	143	37.1	34.3	37.1	30.1	19.6	16.1	15.4	13.3	10.5	2.1	4.9
湘 南	213	31.5	40.8	30.5	39.0	21.6	14.6	12.2	10.8	10.3	4.7	2.8
県 西	57	33.3	36.8	36.8	31.6	17.5	15.8	21.1	7.0	8.8	5.3	5.3
【性・年代別】												
男 性	642	39.4	39.4	33.3	36.4	26.2	14.3	10.6	5.3	7.2	5.6	3.4
女 性	695	40.9	36.4	36.0	29.9	17.7	12.2	14.4	15.8	12.7	3.6	4.3
男性 18～29歳	26	53.8	57.7	42.3	42.3	61.5	3.8	3.8	11.5	-	-	-
30 歳 代	75	40.0	37.3	38.7	41.3	33.3	10.7	4.0	8.0	-	5.3	5.3
40 歳 代	136	51.5	43.4	51.5	33.8	27.9	11.0	11.0	3.7	8.1	2.9	-
50 歳 代	141	34.8	36.9	41.1	34.8	26.2	14.2	14.9	3.5	5.0	6.4	2.8
60 歳 代	158	38.6	43.0	22.8	36.7	22.8	14.6	9.5	6.3	8.9	5.7	5.1
70～74歳	73	30.1	28.8	11.0	31.5	15.1	27.4	13.7	4.1	17.8	8.2	5.5
75歳以上	33	21.2	30.3	6.1	48.5	15.2	15.2	9.1	6.1	3.0	12.1	6.1
女性 18～29歳	37	43.2	51.4	45.9	35.1	40.5	5.4	10.8	24.3	5.4	2.7	2.7
30 歳 代	101	47.5	59.4	44.6	30.7	28.7	5.9	17.8	23.8	2.0	2.0	1.0
40 歳 代	152	45.4	36.2	47.4	28.9	16.4	11.8	18.4	15.8	13.2	2.0	2.0
50 歳 代	165	43.6	37.0	43.0	27.3	12.1	13.3	14.5	15.8	15.2	4.8	1.8
60 歳 代	118	43.2	28.0	22.9	24.6	14.4	11.9	12.7	15.3	15.3	3.4	9.3
70～74歳	72	19.4	19.4	12.5	38.9	13.9	22.2	11.1	11.1	18.1	2.8	6.9
75歳以上	50	28.0	22.0	18.0	36.0	14.0	14.0	6.0	2.0	16.0	10.0	12.0

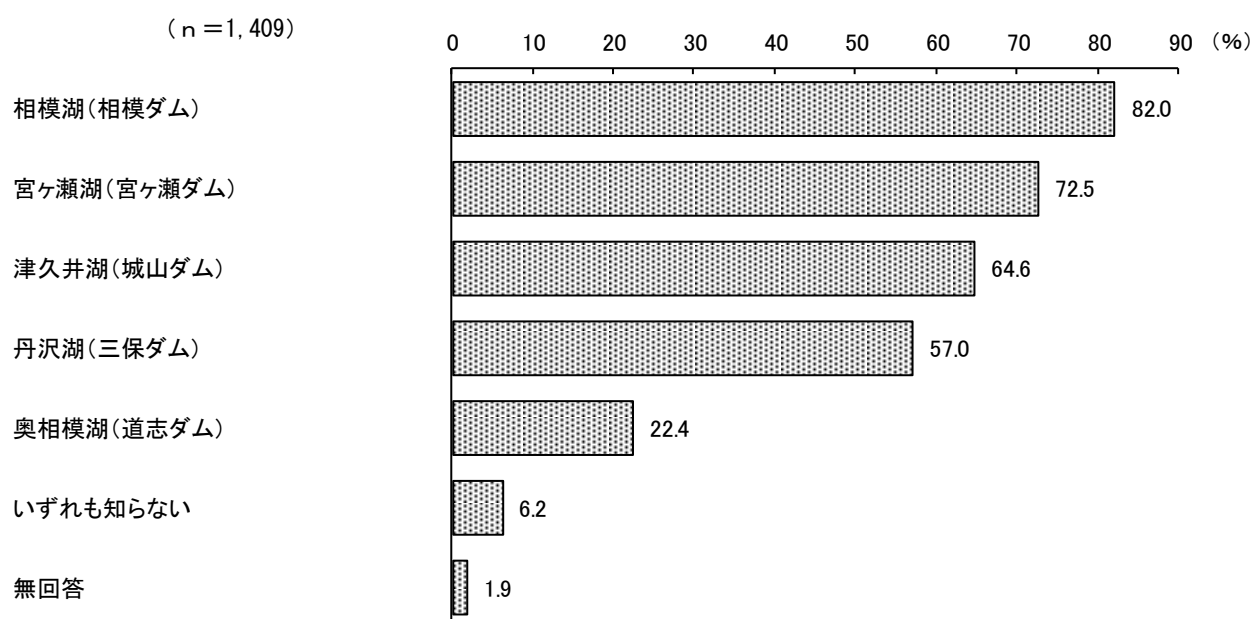
第8章 かながわの水源地域【問24～問26】

1 県内のダム湖の認知度【問24】

【全体の状況】

県内のダム湖の認知度について複数回答で尋ねたところ、「相模湖（相模ダム）」が82.0%で最も多く、次いで「宮ヶ瀬湖（宮ヶ瀬ダム）」が72.5%であった。（図表8-1-1）

図表8-1-1 県内のダム湖の認知度（複数回答）



図表8-1-2 県内のダム湖の認知度（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	相模湖 （相模ダム）	宮ヶ瀬湖 （宮ヶ瀬ダム）	津久井湖 （城山ダム）	丹沢湖 （三保ダム）	奥相模湖 （道志ダム）	いずれも知らない	無回答
全 体	1,409	82.0	72.5	64.6	57.0	22.4	6.2	1.9
【地 域 別】								
横 浜	581	82.8	68.2	61.8	55.8	24.3	6.7	1.4
川 崎	182	75.8	52.2	53.3	47.8	17.0	12.6	1.1
相 模 原	88	92.0	92.0	88.6	53.4	29.5	1.1	1.1
横須賀三浦	121	80.2	70.2	62.8	56.2	20.7	10.7	1.7
県 央	143	81.1	90.2	75.5	50.3	22.4	2.8	3.5
湘 南	213	85.0	87.3	67.6	70.4	22.1	1.4	1.9
県 西	57	77.2	64.9	57.9	80.7	12.3	5.3	3.5
【性・年代別】								
男 性	642	84.1	73.7	69.9	61.1	27.6	6.5	1.2
女 性	695	80.3	71.1	59.9	54.4	17.7	6.5	1.9
男性18～29歳	26	84.6	50.0	26.9	46.2	11.5	11.5	-
30歳代	75	72.0	52.0	42.7	41.3	16.0	18.7	2.7
40歳代	136	83.1	72.8	66.9	64.0	25.7	5.9	-
50歳代	141	84.4	84.4	80.1	73.8	35.5	5.0	2.1
60歳代	158	87.3	77.2	77.2	65.2	31.6	4.4	1.3
70～74歳	73	90.4	76.7	79.5	53.4	26.0	1.4	1.4
75歳以上	33	84.8	75.8	78.8	48.5	24.2	6.1	-
女性18～29歳	37	64.9	56.8	27.0	35.1	8.1	27.0	-
30歳代	101	79.2	62.4	43.6	48.5	14.9	12.9	1.0
40歳代	152	77.6	71.1	53.9	53.9	12.5	7.2	0.7
50歳代	165	85.5	75.2	71.5	57.6	21.2	1.2	1.2
60歳代	118	82.2	78.8	70.3	63.6	19.5	2.5	4.2
70～74歳	72	80.6	69.4	63.9	55.6	26.4	4.2	1.4
75歳以上	50	80.0	70.0	66.0	48.0	18.0	6.0	6.0

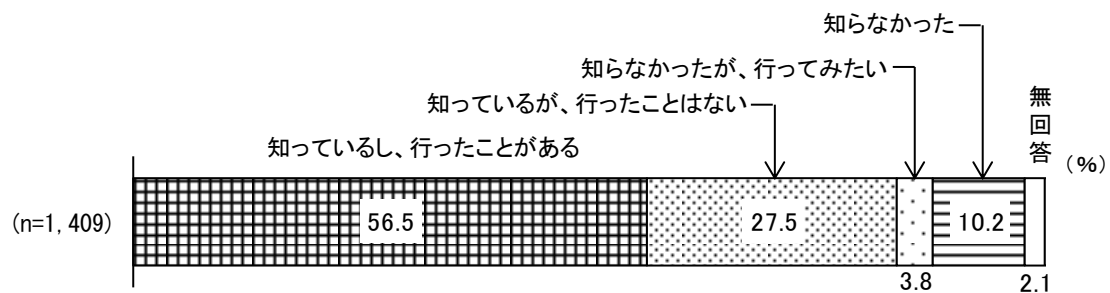
2 ダム湖が観光スポットになっていることの認知度【問25】

【全体の状況】

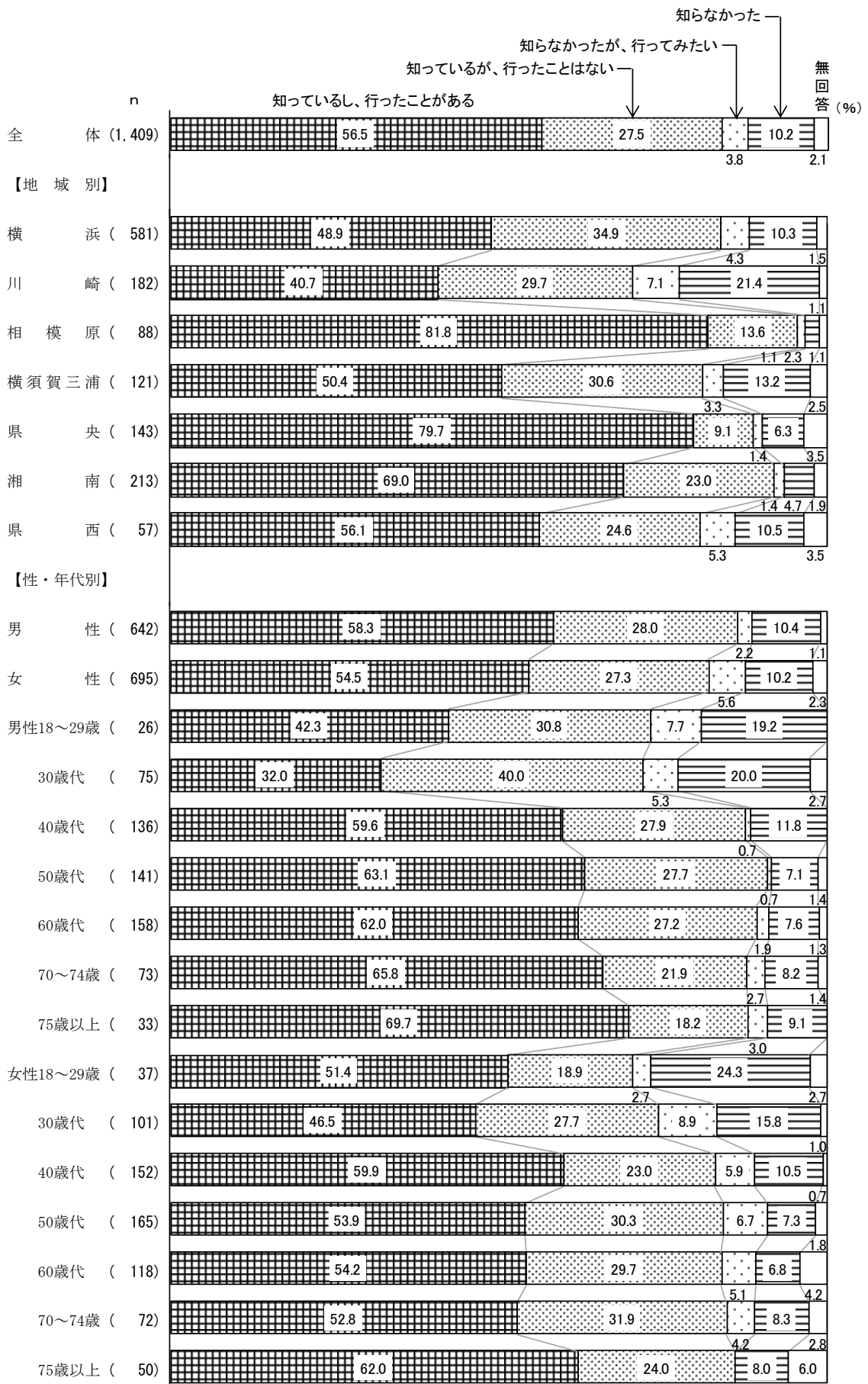
問24のダム湖が観光スポットになっていることの認知度について尋ねたところ、「知っているし、行ったことがある」が56.5%で最も多く、次いで「知っているが、行ったことはない」が27.5%であった。

(図表8-2-1)

図表8-2-1 ダム湖が観光スポットになっていることの認知度



図表8-2-2 ダム湖が観光スポットになっていることの認知度—地域別、性・年代別

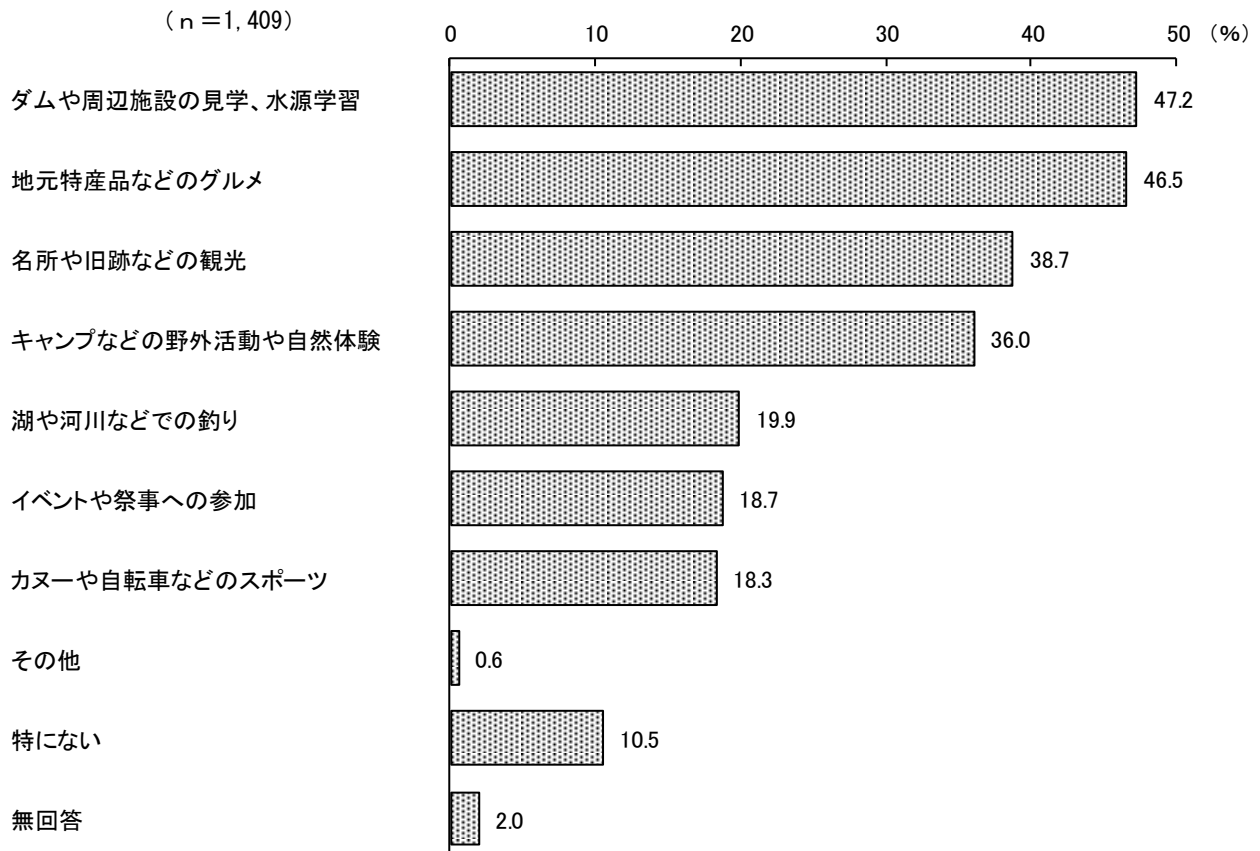


3 ダム湖で体験したいと思うもの【問26】

【全体の状況】

ダム湖で体験したいと思うものについて複数回答で尋ねたところ、「ダムや周辺施設の見学、水源学習」が47.2%で最も多く、次いで「地方特産品などのグルメ」が46.5%であった。（図表8-3-1）

図表8-3-1 ダム湖で体験したいと思うもの（複数回答）



図表8-3-2 ダム湖で体験したいと思うもの（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	ダムや周辺施設の見学、水源学習	地元特産品などのグルメ	名所や旧跡などの観光	キャンプなどの野外活動や自然体験	湖や河川などでの釣り	イベントや祭事への参加	カヌーや自転車などのスポーツ	その他	特にない	無回答
全体	1,409	47.2	46.5	38.7	36.0	19.9	18.7	18.3	0.6	10.5	2.0
【地域別】											
横浜	581	46.5	48.2	39.2	39.2	19.1	18.2	18.2	0.3	9.6	1.4
川崎	182	44.0	45.6	39.6	35.2	23.6	15.9	17.6	0.5	11.0	1.1
相模原	88	64.8	48.9	46.6	29.5	29.5	30.7	20.5	-	8.0	1.1
横須賀三浦	121	45.5	42.1	35.5	33.1	23.1	11.6	18.2	1.7	14.0	1.7
県央	143	47.6	42.7	32.9	37.1	16.1	22.4	21.0	1.4	11.2	4.2
湘南	213	50.2	45.5	39.0	36.6	17.4	21.6	18.8	0.5	8.0	1.9
県西	57	42.1	50.9	42.1	24.6	15.8	15.8	15.8	1.8	15.8	3.5
【性・年代別】											
男性	642	47.8	40.0	36.8	38.2	24.9	15.3	18.8	0.9	12.3	1.1
女性	695	46.5	53.4	40.6	36.0	15.5	22.4	19.4	0.4	9.1	2.0
男性18～29歳	26	38.5	38.5	46.2	50.0	46.2	23.1	38.5	-	-	-
30歳代	75	36.0	32.0	28.0	48.0	17.3	20.0	21.3	1.3	14.7	2.7
40歳代	136	54.4	48.5	33.8	53.7	36.8	25.0	27.9	1.5	6.6	-
50歳代	141	47.5	41.8	30.5	45.4	23.4	14.9	19.1	1.4	14.2	1.4
60歳代	158	47.5	41.8	38.6	23.4	19.0	8.9	12.7	0.6	14.6	1.3
70～74歳	73	49.3	37.0	53.4	23.3	20.5	9.6	11.0	-	12.3	1.4
75歳以上	33	54.5	15.2	42.4	15.2	21.2	3.0	6.1	-	21.2	-
女性18～29歳	37	40.5	59.5	21.6	62.2	32.4	27.0	35.1	-	2.7	-
30歳代	101	48.5	51.5	39.6	54.5	27.7	35.6	33.7	1.0	7.9	1.0
40歳代	152	46.1	58.6	33.6	51.3	23.7	29.6	23.0	0.7	6.6	0.7
50歳代	165	46.7	58.2	41.8	33.9	9.7	18.2	21.2	-	7.9	1.2
60歳代	118	46.6	56.8	51.7	25.4	9.3	19.5	9.3	-	9.3	4.2
70～74歳	72	43.1	36.1	38.9	4.2	4.2	13.9	9.7	-	19.4	1.4
75歳以上	50	52.0	38.0	50.0	10.0	4.0	4.0	-	2.0	12.0	8.0

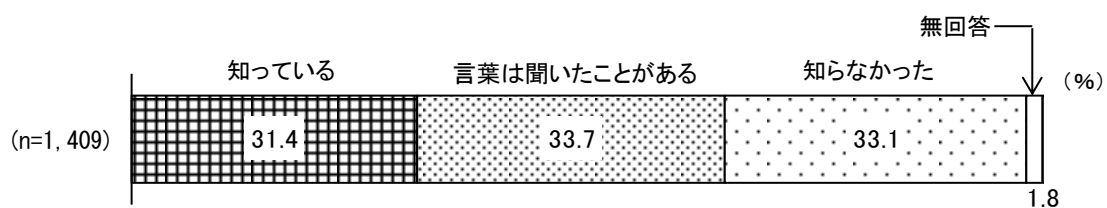
第9章 生物多様性【問27～問29】

1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度【問27】

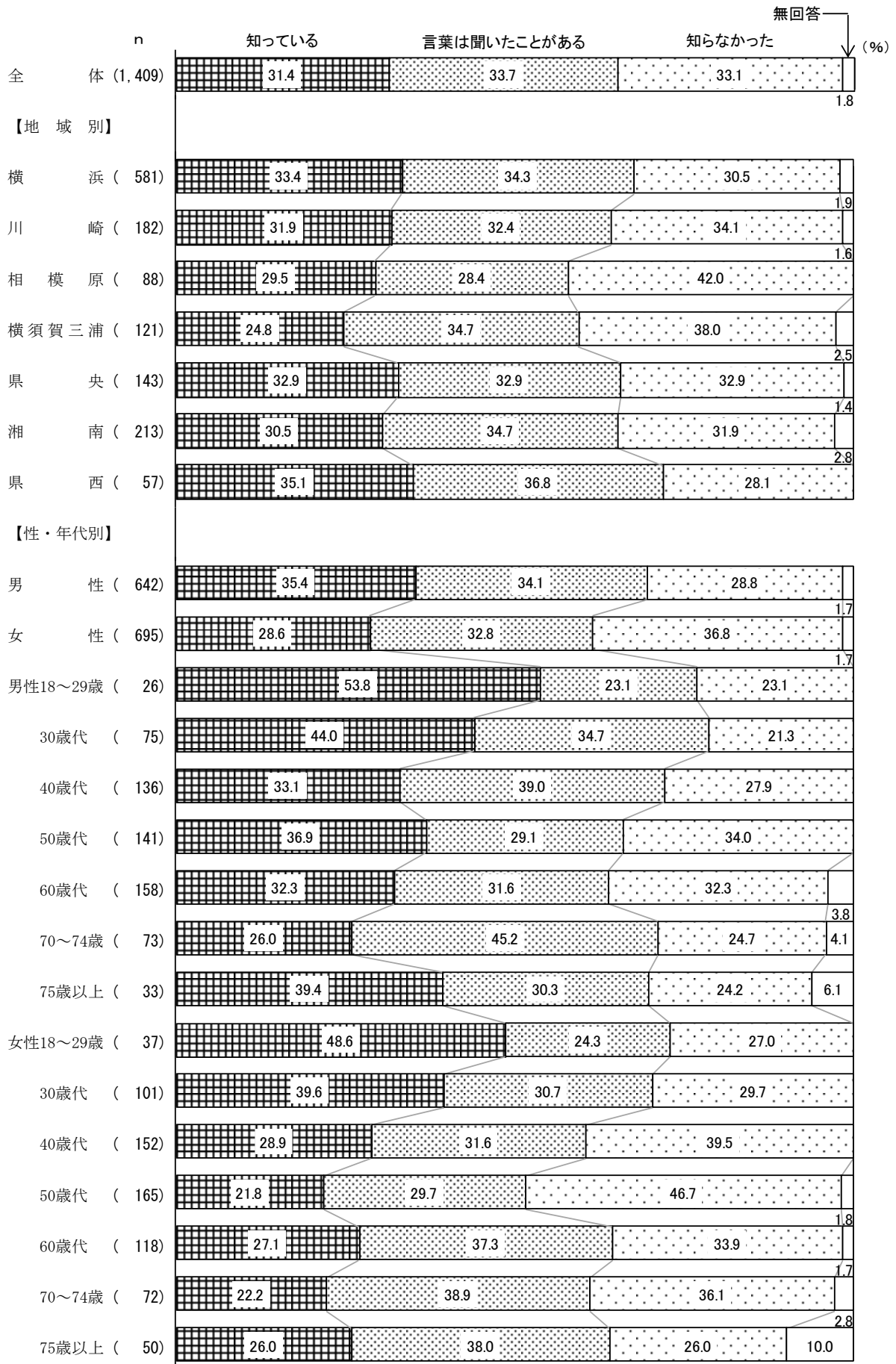
【全体の状況】

「生物多様性」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が31.4%であった。一方、「知らなかった」が33.1%であった。(図表9-1-1)

図表9-1-1 「生物多様性」の言葉の意味の認知度



図表9-1-2 「生物多様性」の言葉の意味の認知度—地域別、性・年代別

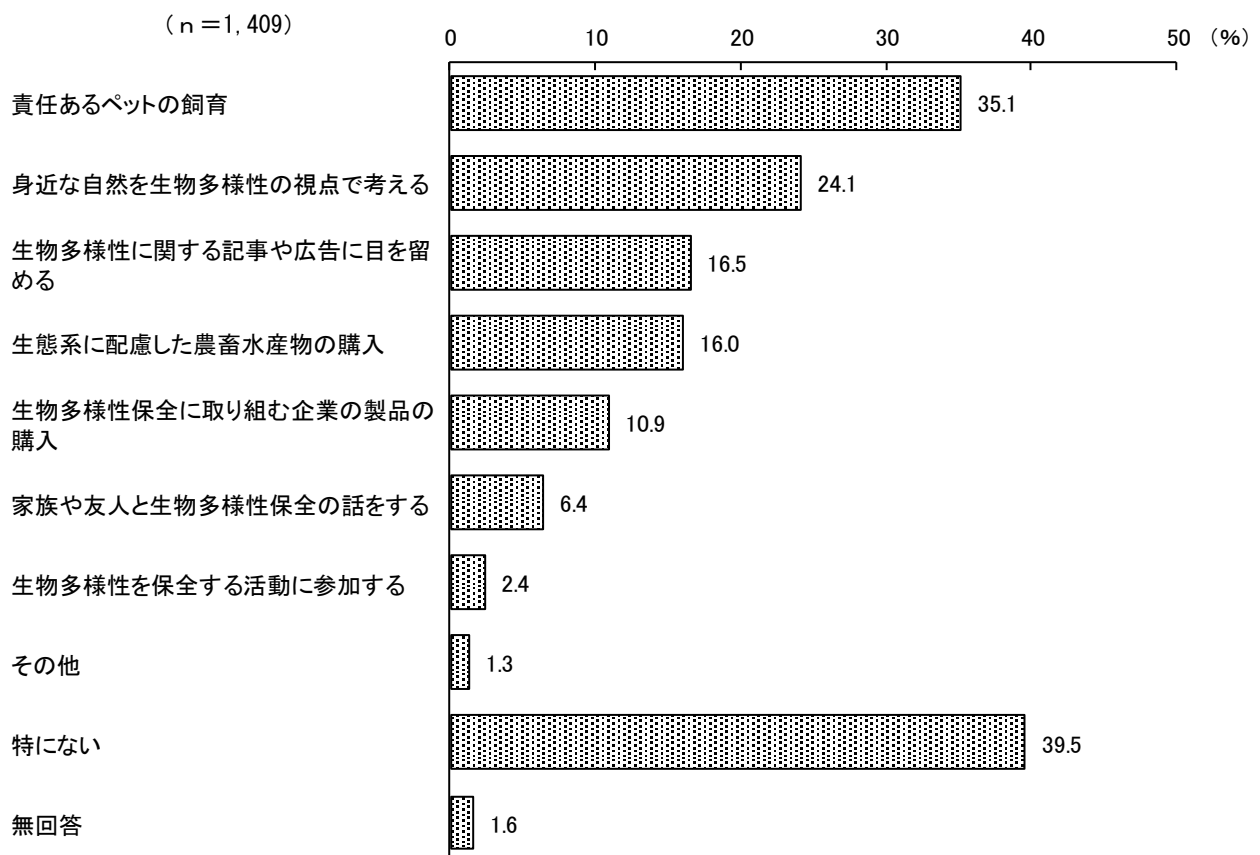


2 生物多様性の保全のために日頃から心がけていること、実践していること【問28】

【全体の状況】

生物多様性の保全のために日頃から心がけていること、実践していることについて複数回答で尋ねたところ、「責任あるペットの飼育」が35.1%で最も多く、次いで「身近な自然を生物多様性の視点で考える」が24.1%であった。（図表 9-2-1）

図表9-2-1 生物多様性の保全のために日頃から心がけていること、実践していること（複数回答）



図表9-2-2 生物多様性の保全のために日頃から心がけていること、実践していること（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

	n	責任あるペットの飼育	身近な自然を生物多様性の視点で考える	生物多様性に関する記事や広告に目を留める	生態系に配慮した農畜水産物の購入	生物多様性保全に取り組む企業の製品の購入	家族や友人と生物多様性保全の話をする	生物多様性を保全する活動に参加する	その他	特にない	無回答
全 体	1,409	35.1	24.1	16.5	16.0	10.9	6.4	2.4	1.3	39.5	1.6
【地 域 別】											
横 浜	581	35.8	24.4	16.9	17.6	12.9	5.3	2.6	1.4	39.2	1.4
川 崎	182	28.0	24.2	20.9	17.0	7.7	4.9	2.2	0.5	44.0	0.5
相 模 原	88	34.1	23.9	18.2	11.4	6.8	9.1	3.4	1.1	40.9	-
横 須 賀 三 浦	121	39.7	18.2	15.7	10.7	8.3	6.6	2.5	1.7	39.7	3.3
県 央	143	39.9	23.1	12.6	12.6	8.4	7.7	3.5	2.1	35.0	1.4
湘 南	213	35.7	26.8	15.5	18.3	13.6	7.0	0.9	1.4	39.0	2.3
県 西	57	28.1	24.6	12.3	17.5	12.3	10.5	1.8	-	40.4	1.8
【性・年代別】											
男 性	642	32.6	24.3	15.4	10.6	6.7	5.0	2.8	1.2	44.1	0.8
女 性	695	37.7	23.3	16.5	20.6	14.8	7.6	1.9	1.3	35.5	2.2
男性18～29歳	26	30.8	19.2	15.4	-	-	3.8	7.7	3.8	42.3	-
30歳代	75	25.3	20.0	8.0	12.0	6.7	4.0	2.7	-	52.0	1.3
40歳代	136	34.6	23.5	14.7	11.8	7.4	5.9	5.1	1.5	43.4	-
50歳代	141	35.5	22.0	13.5	8.5	4.3	3.5	0.7	0.7	46.1	-
60歳代	158	36.1	27.8	16.5	9.5	5.1	3.8	1.9	1.9	39.9	1.3
70～74歳	73	30.1	26.0	21.9	15.1	15.1	8.2	-	-	45.2	1.4
75歳以上	33	18.2	30.3	24.2	15.2	9.1	9.1	9.1	3.0	39.4	3.0
女性18～29歳	37	37.8	13.5	10.8	13.5	5.4	8.1	2.7	-	43.2	-
30歳代	101	38.6	23.8	15.8	17.8	8.9	13.9	5.9	4.0	39.6	-
40歳代	152	38.2	18.4	15.1	15.8	13.2	6.6	1.3	-	37.5	-
50歳代	165	40.0	19.4	9.7	18.2	13.3	5.5	1.2	2.4	44.2	0.6
60歳代	118	37.3	28.0	18.6	24.6	16.1	5.1	0.8	0.8	29.7	4.2
70～74歳	72	29.2	33.3	26.4	33.3	30.6	6.9	1.4	-	23.6	5.6
75歳以上	50	40.0	32.0	30.0	26.0	18.0	12.0	-	-	18.0	10.0

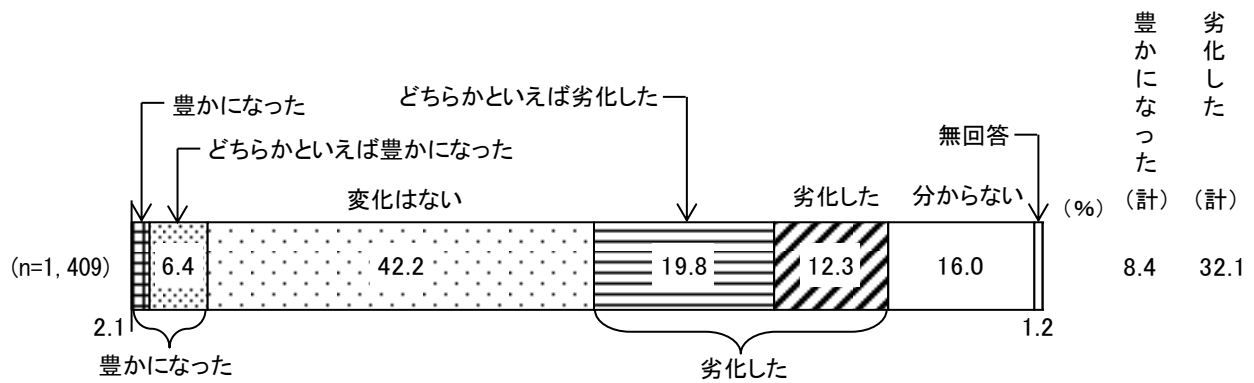
3 周辺地域の自然環境の変化【問29】

【全体の状況】

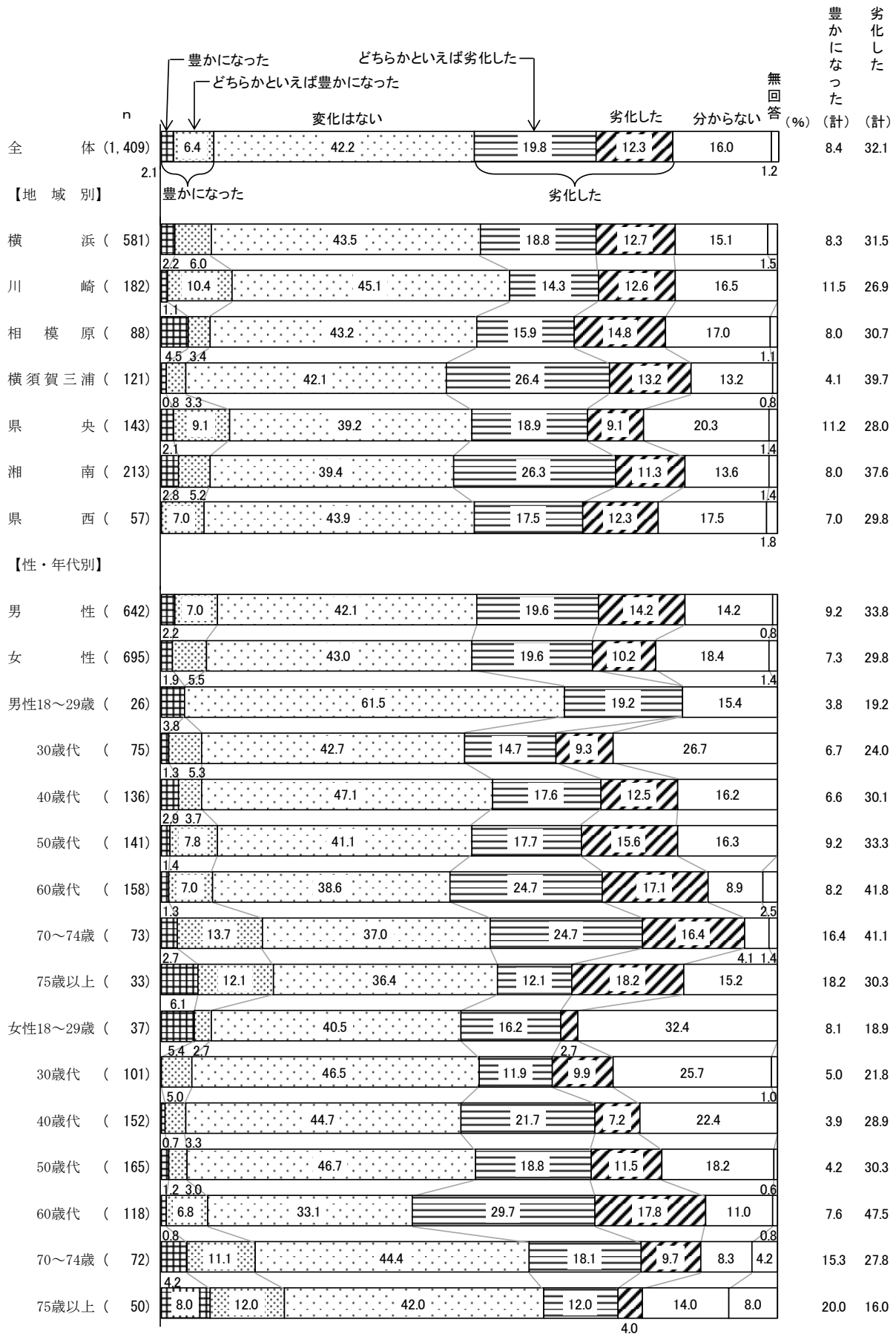
周辺地域の自然環境の変化について尋ねたところ、「豊かになった」(2.1%)と「どちらかといえば豊かになった」(6.4%)を合わせた《豊かになった》は8.4%であった。

一方、「劣化した」(12.3%)と「どちらかといえば劣化した」(19.8%)を合わせた《劣化した》は32.1%であった。(図表 9-3-1)

図表9-3-1 周辺地域の自然環境の変化



図表9-3-2 周辺地域の自然環境の変化—地域別、性・年代別



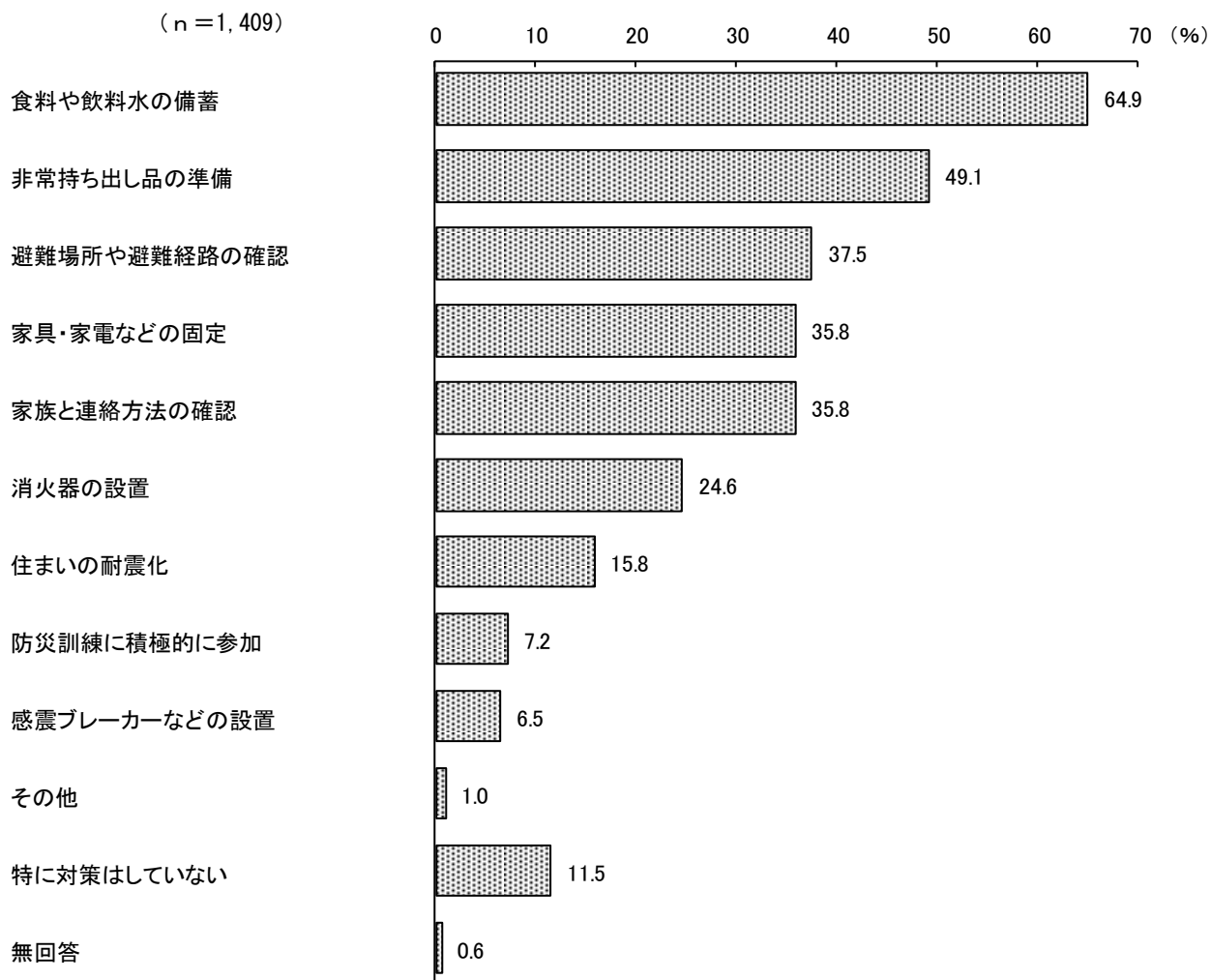
第10章 地震対策の取組み【問30～問33】

1 大きな地震に備えた対策【問30】

【全体の状況】

県では、首都直下地震や南海トラフ地震、県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題になっていることを説明した上で、家では、大きな地震に備えて、どのような対策をとっているか複数回答で尋ねたところ、「食料や飲料水の備蓄」が64.9%で最も多く、次いで「非常持ち出し品の準備」が49.1%であった。(図表10-1-1)

図表10-1-1 大きな地震に備えた対策（複数回答）



図表10-1-2 大きな地震に備えた対策（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

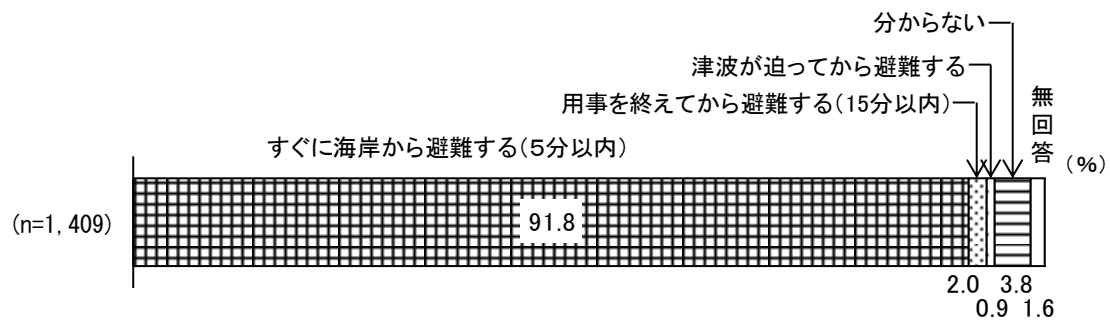
	n	食料や飲料水の備蓄	非常持ち出し品の準備	避難場所や避難経路の確認	家具・家電などの固定	家族と連絡方法の確認	消火器の設置	住まいの耐震化	防災訓練に積極的に参加	感震ブレイカーなどの設置	その他	特に対策はしていない	無回答
全 体	1,409	64.9	49.1	37.5	35.8	35.8	24.6	15.8	7.2	6.5	1.0	11.5	0.6
【地 域 別】													
横 浜	581	70.1	52.7	36.8	38.6	38.0	29.3	18.6	7.1	8.6	1.2	8.8	0.7
川 崎	182	61.0	45.6	36.3	34.1	35.7	14.3	17.6	3.8	2.2	1.1	14.8	-
相 模 原	88	51.1	42.0	38.6	30.7	36.4	25.0	14.8	12.5	3.4	1.1	13.6	-
横 須 賀 三 浦	121	65.3	50.4	39.7	33.9	33.9	22.3	7.4	7.4	2.5	0.8	10.7	0.8
県 央	143	57.3	50.3	36.4	30.1	35.7	18.9	15.4	4.2	2.8	0.7	15.4	-
湘 南	213	66.7	46.9	43.7	35.2	32.4	25.8	13.1	11.3	12.2	0.9	10.8	1.4
県 西	57	63.2	38.6	29.8	33.3	33.3	22.8	12.3	7.0	-	-	19.3	-
【性・年代別】													
男 性	642	60.9	48.0	34.3	33.8	34.7	22.6	16.7	7.3	6.4	0.9	15.3	0.6
女 性	695	69.5	51.4	41.6	37.6	38.3	26.0	16.0	6.8	6.5	1.2	7.5	0.6
男性18～29歳	26	50.0	38.5	42.3	26.9	34.6	7.7	15.4	3.8	-	-	23.1	-
30歳代	75	54.7	49.3	24.0	20.0	26.7	9.3	12.0	1.3	-	2.7	24.0	-
40歳代	136	69.1	52.9	33.1	27.9	39.7	17.6	16.9	3.7	5.1	-	14.7	-
50歳代	141	62.4	51.1	33.3	36.9	35.5	19.1	20.6	6.4	5.0	-	15.6	-
60歳代	158	57.6	42.4	36.7	40.5	33.5	33.5	18.4	8.2	8.9	1.9	11.4	1.3
70～74歳	73	64.4	45.2	42.5	37.0	35.6	28.8	13.7	17.8	13.7	1.4	9.6	1.4
75歳以上	33	51.5	51.5	30.3	42.4	33.3	33.3	9.1	15.2	9.1	-	21.2	3.0
女性18～29歳	37	48.6	37.8	35.1	18.9	29.7	10.8	18.9	2.7	2.7	-	18.9	-
30歳代	101	70.3	55.4	44.6	32.7	44.6	17.8	14.9	5.9	2.0	-	13.9	-
40歳代	152	70.4	53.3	36.8	39.5	32.9	22.4	15.8	4.6	3.3	2.6	7.2	-
50歳代	165	67.3	49.1	40.0	38.8	37.0	21.2	14.5	3.6	6.1	1.8	4.2	0.6
60歳代	118	73.7	57.6	43.2	42.4	48.3	34.7	14.4	5.1	4.2	0.8	3.4	1.7
70～74歳	72	75.0	44.4	51.4	40.3	36.1	36.1	22.2	16.7	19.4	-	6.9	-
75歳以上	50	70.0	50.0	42.0	36.0	32.0	46.0	16.0	18.0	16.0	-	8.0	2.0

2 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動【問31】

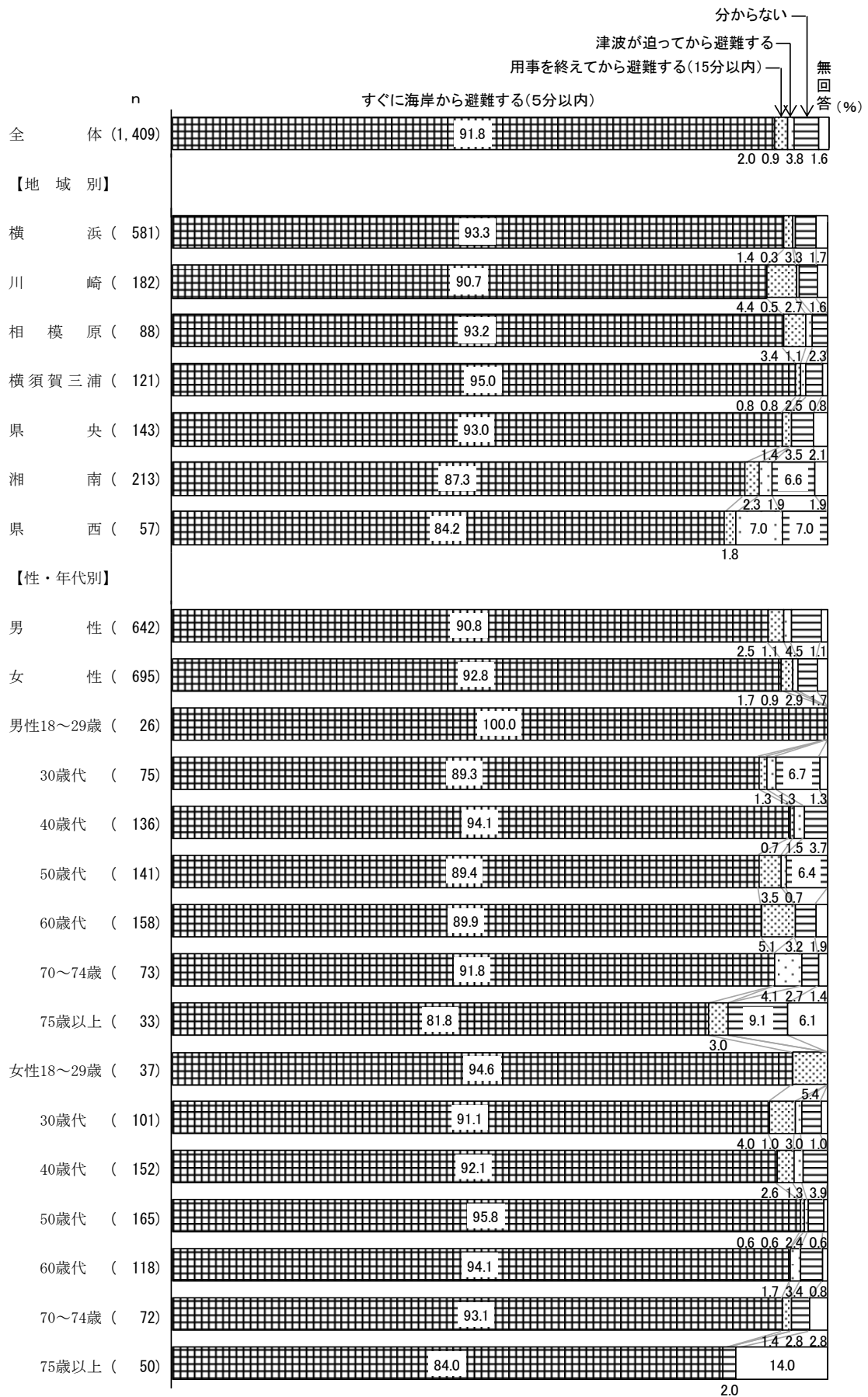
【全体の状況】

海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたら、どのように行動するか尋ねたところ、「すぐに海岸から避難する（5分以内）」が91.8%で最も多かった。（図表10-2-1）

図表10-2-1 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動



図表10-2-2 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動—地域別、性・年代別



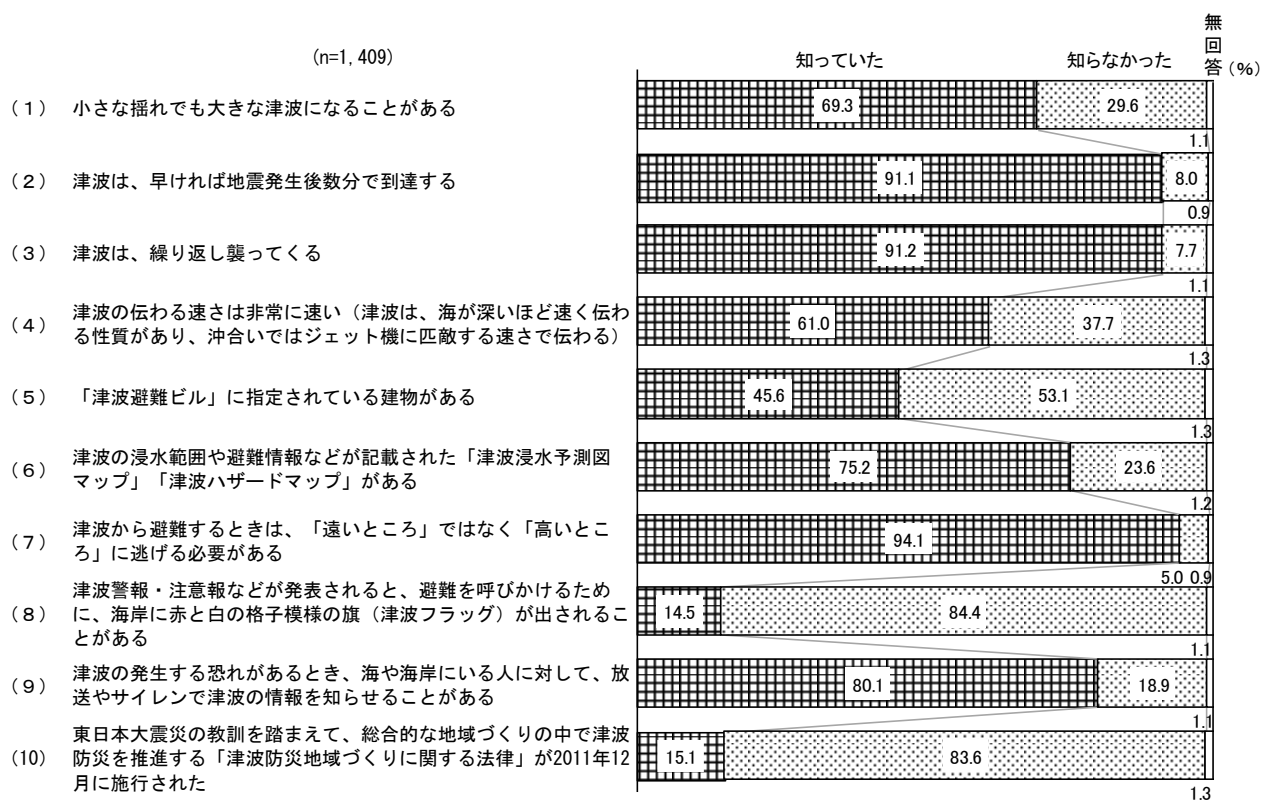
3 「津波」に対する知識【問32】

【全体の状況】

津波に関する10項目を提示して、それぞれ知っていたかどうか尋ねたところ、「知っていた」では、「(7) 津波から避難するときは、『遠いところ』ではなく『高いところ』に逃げる必要がある」が94.1%で最も多かった。

一方、「知らなかった」では、「(8) 津波警報・注意報などが発表されると、避難を呼びかけるために、海岸に赤と白の格子模様の旗（津波フラッグ）が出されることがある」が84.4%で最も多かった。（図表10-3-1）

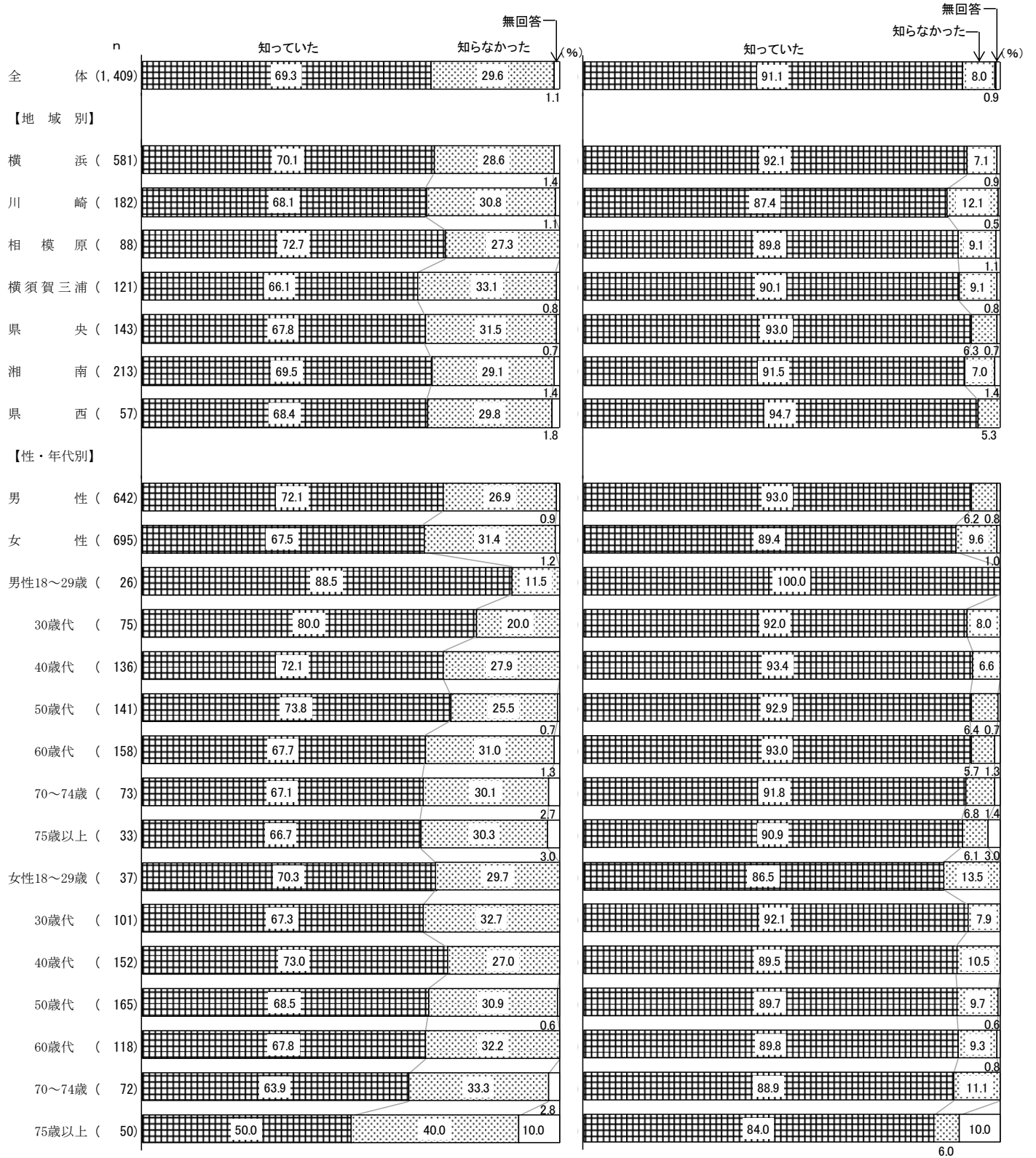
図表10-3-1 「津波」に対する知識



図表10-3-2 「津波」に対する知識—地域別、性・年代別

(1) 小さな揺れでも大きな津波になることがある

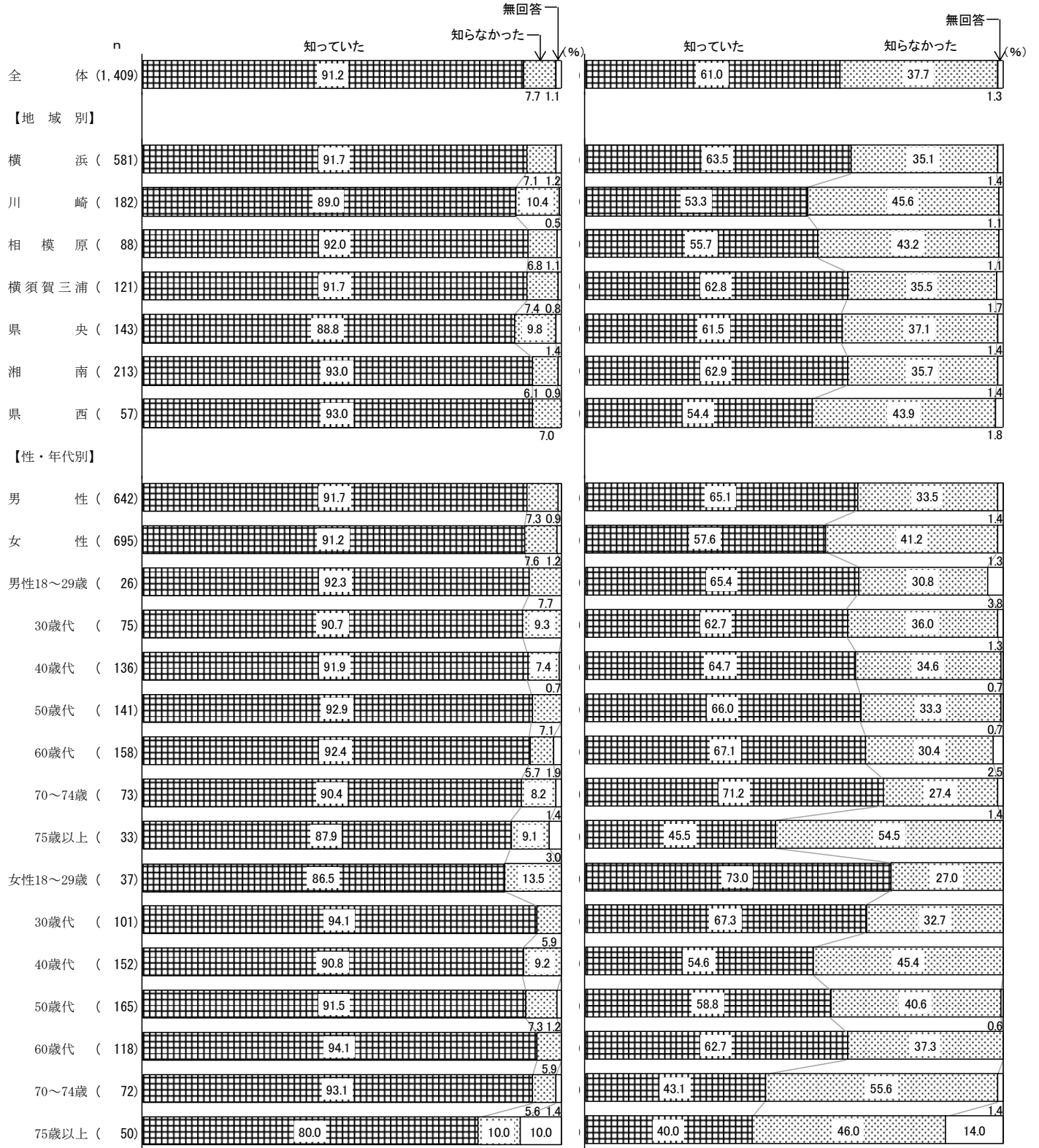
(2) 津波は、早ければ地震発生後数分で到達する



図表10-3-2 「津波」に対する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(3) 津波は、繰り返し襲ってくる

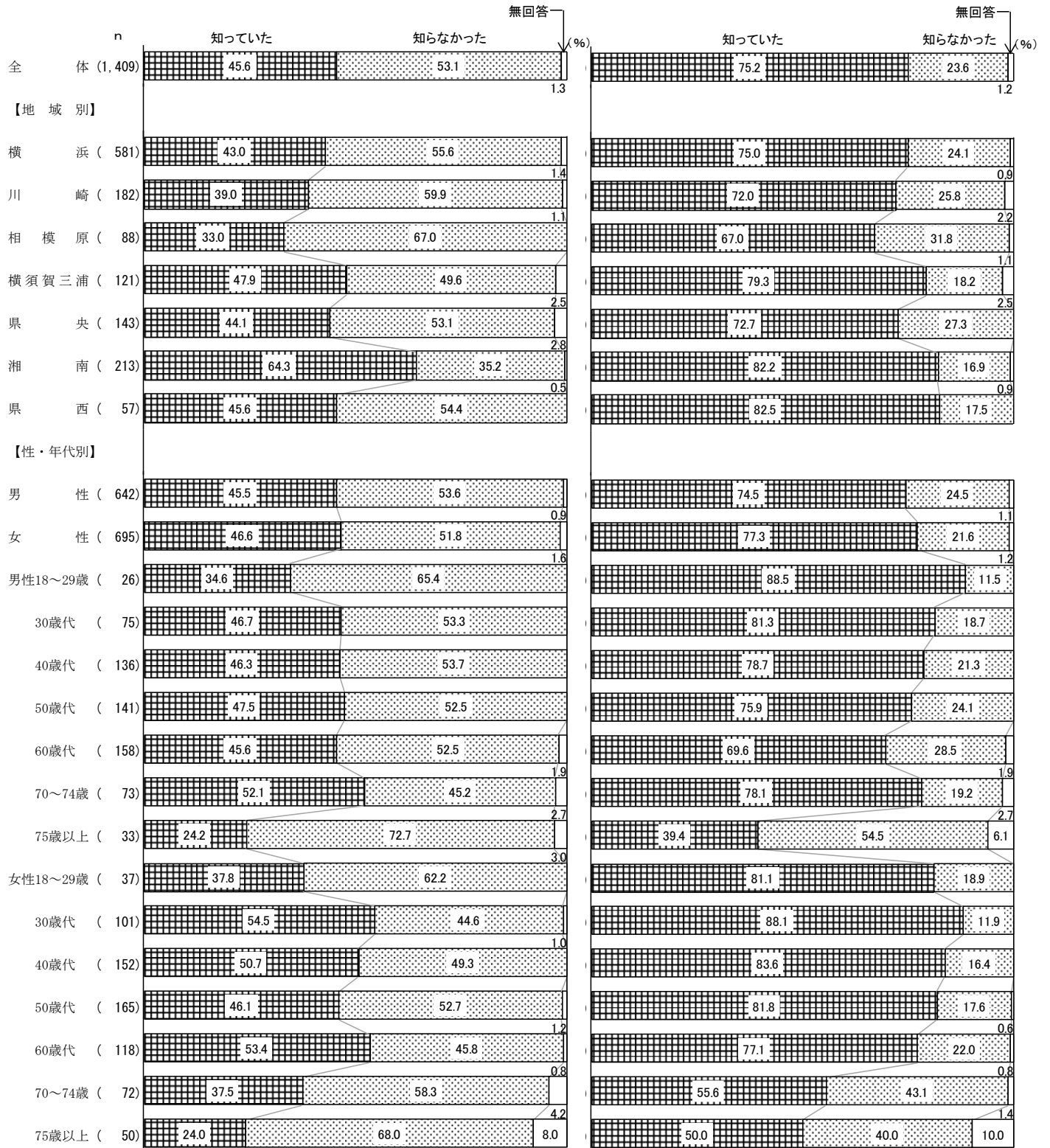
(4) 津波の伝わる速さは非常に速い
 (津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わる)



図表10-3-2 「津波」に対する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(5) 「津波避難ビル」に指定されている建物がある

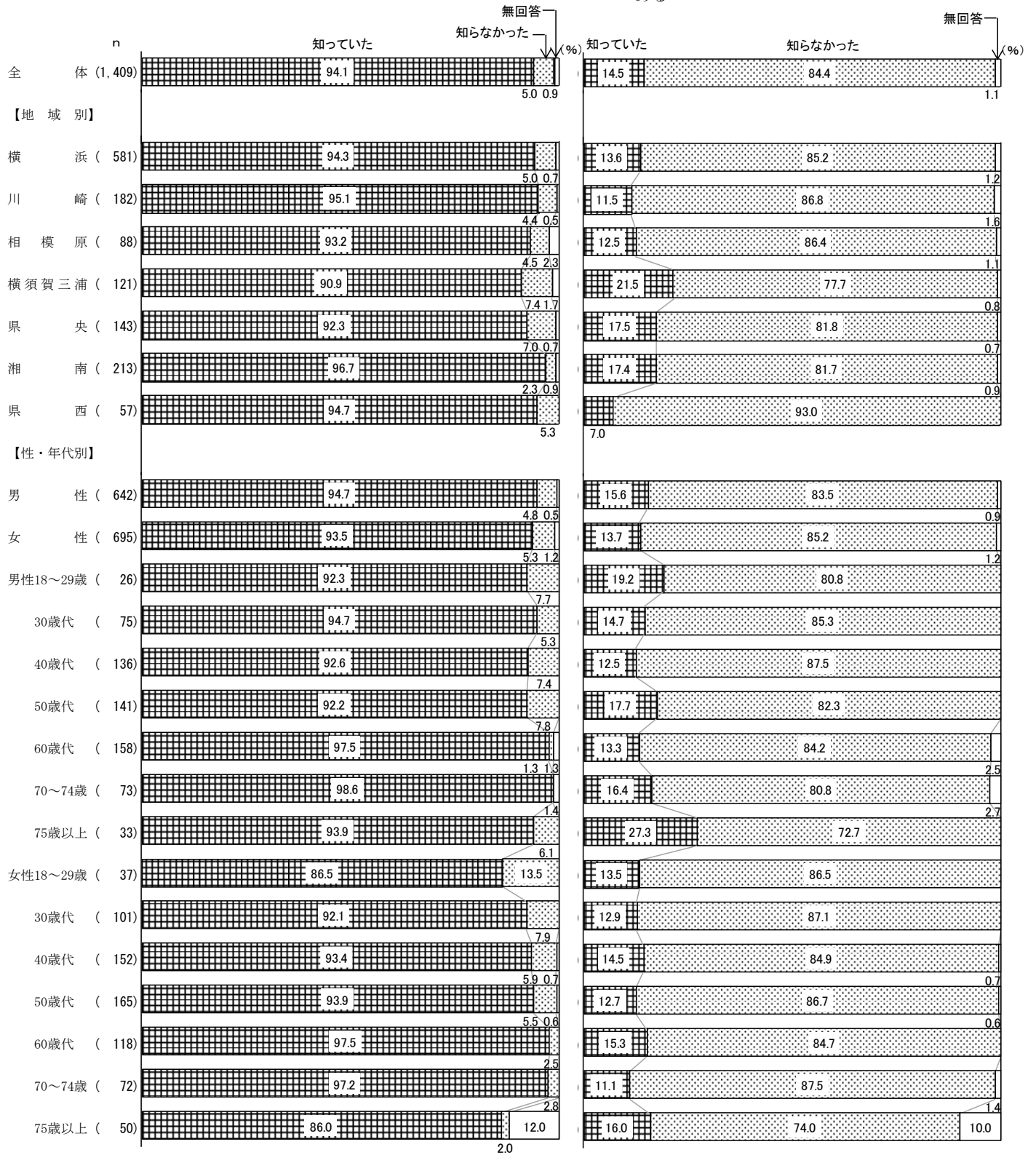
(6) 津波の浸水範囲や避難情報などが記載された「津波浸水予測図マップ」「津波ハザードマップ」がある



図表10-3-2 「津波」に対する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(7) 津波から避難するときは、「遠いところ」ではなく「高いところ」に逃げる必要がある

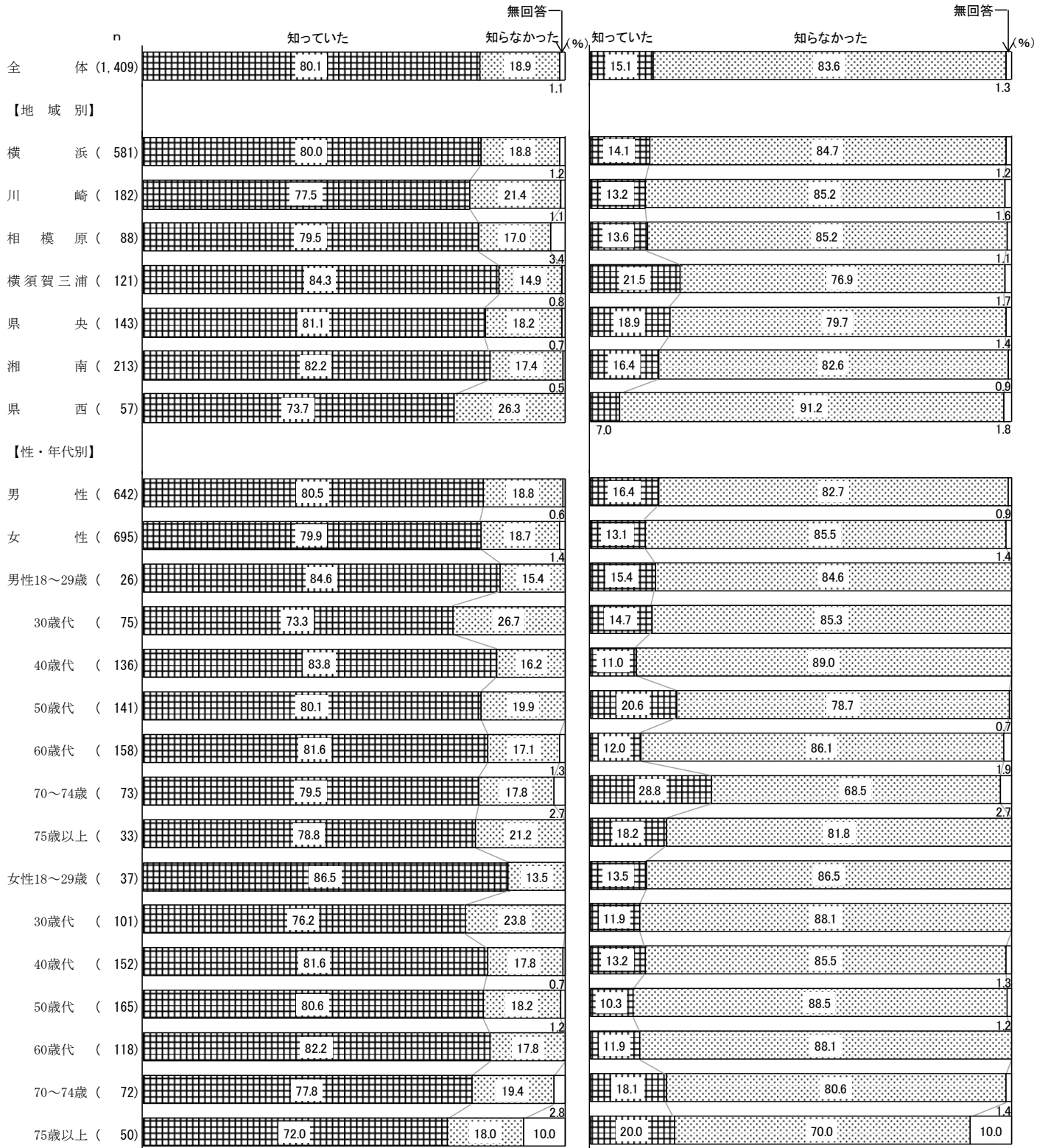
(8) 津波警報・注意報などが発表されると、避難を呼びかけるために、海岸に赤と白の格子模様の旗（津波フラッグ）が出されることがある



図表10-3-2 津波に対する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(9) 津波の発生する恐れがあるとき、海や海岸にいる人に対して、放送やサイレンで津波の情報を知らせることがある

(10) 東日本大震災の教訓を踏まえて、総合的な地域づくりの中で津波防災を推進する「津波防災地域づくりに関する法律」が2011年12月に施行された

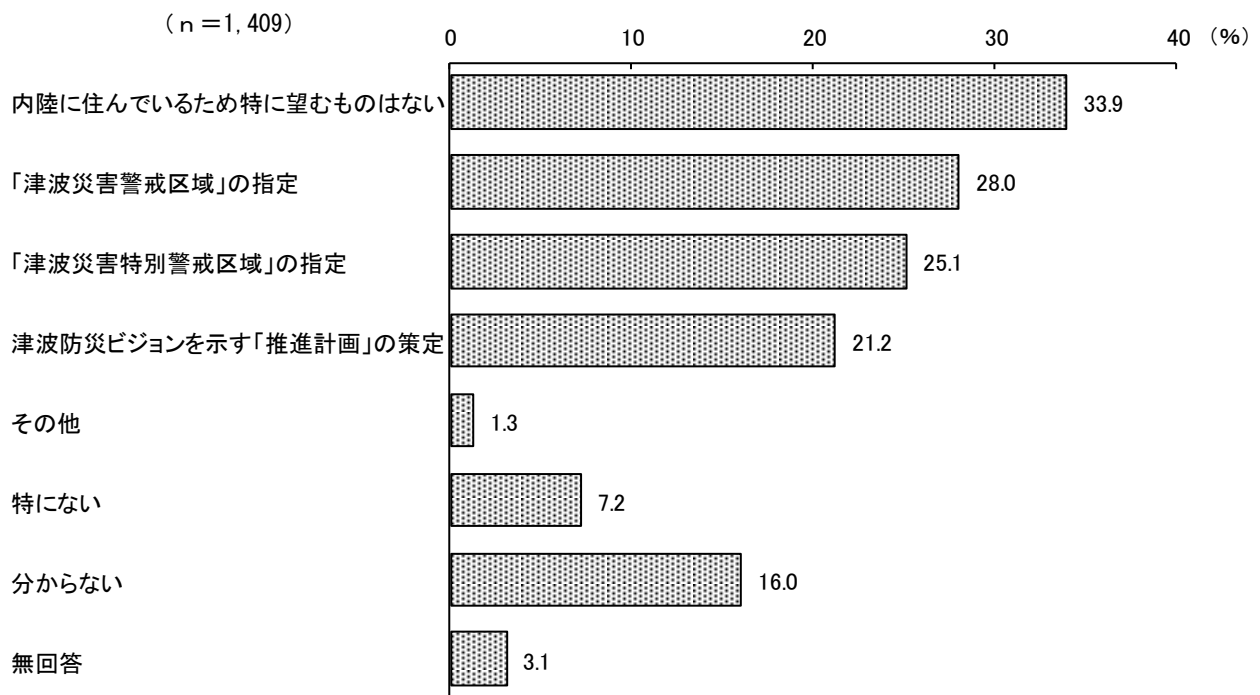


4 津波に対して実施が望まれる制度【問33】

【全体の状況】

津波に対する防災・減災の観点から住んでいる地域で実施が望まれる制度を複数回答で尋ねたところ、「内陸に住んでいるため特に望むものはない」が33.9%で最も多く、次いで「『津波災害警戒区域』の指定」が28.0%であった。（図表10-4-1）

図表10-4-1 津波に対して実施が望まれる制度（複数回答）



図表10-4-2 津波に対して実施が望まれる制度（複数回答）—地域別、性・年代別

		(%)							
	n	内陸に住んでいないため特に望むものはない	「津波災害警戒区域」の指定	「津波災害特別警戒区域」の指定	津波防災ビジョンを示す「推進計画」の策定	その他	特になし	分からない	無回答
全体	1,409	33.9	28.0	25.1	21.2	1.3	7.2	16.0	3.1
【地域別】									
横浜	581	36.5	24.4	21.2	18.9	1.4	6.4	18.6	3.1
川崎	182	34.6	34.1	26.4	23.6	1.6	7.7	10.4	2.7
相模原	88	61.4	14.8	12.5	14.8	-	10.2	3.4	2.3
横須賀三浦	121	12.4	39.7	38.8	34.7	-	8.3	16.5	2.5
県央	143	52.4	20.3	18.2	11.2	1.4	7.0	10.5	2.8
湘南	213	16.9	35.7	35.2	28.2	2.3	6.6	20.7	3.3
県西	57	22.8	36.8	35.1	22.8	1.8	10.5	21.1	1.8
【性・年代別】									
男性	642	34.7	28.0	23.8	21.0	1.7	9.5	14.0	2.0
女性	695	32.9	28.5	26.6	22.3	1.2	5.0	17.4	3.9
男性18～29歳	26	30.8	34.6	30.8	30.8	-	3.8	7.7	-
30歳代	75	30.7	30.7	28.0	22.7	1.3	13.3	16.0	1.3
40歳代	136	35.3	34.6	26.5	19.9	3.7	9.6	11.8	-
50歳代	141	31.9	27.0	20.6	25.5	0.7	8.5	15.6	0.7
60歳代	158	35.4	22.8	24.7	19.0	1.9	8.2	19.0	1.3
70～74歳	73	38.4	27.4	19.2	19.2	1.4	9.6	8.2	8.2
75歳以上	33	45.5	21.2	18.2	9.1	-	15.2	6.1	9.1
女性18～29歳	37	35.1	29.7	32.4	29.7	-	2.7	10.8	2.7
30歳代	101	36.6	33.7	31.7	25.7	-	3.0	13.9	-
40歳代	152	34.2	26.3	27.6	23.7	-	5.9	18.4	2.0
50歳代	165	24.8	32.7	27.9	22.4	1.2	5.5	23.6	1.8
60歳代	118	33.9	27.1	23.7	18.6	3.4	4.2	15.3	5.9
70～74歳	72	34.7	23.6	25.0	23.6	2.8	6.9	13.9	8.3
75歳以上	50	42.0	20.0	14.0	12.0	-	6.0	16.0	14.0

第11章 自転車損害賠償責任保険等の加入【問34～問35】

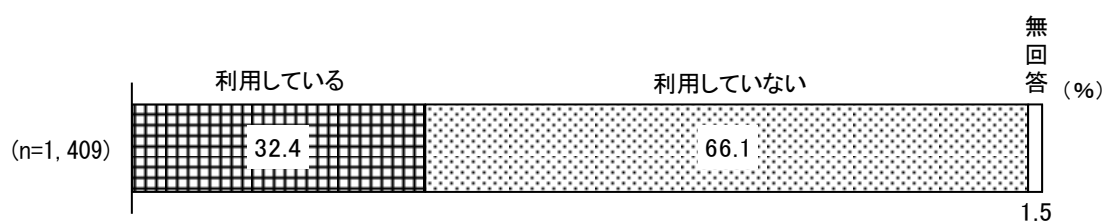
1 自転車の利用状況【問36】

【全体の状況】

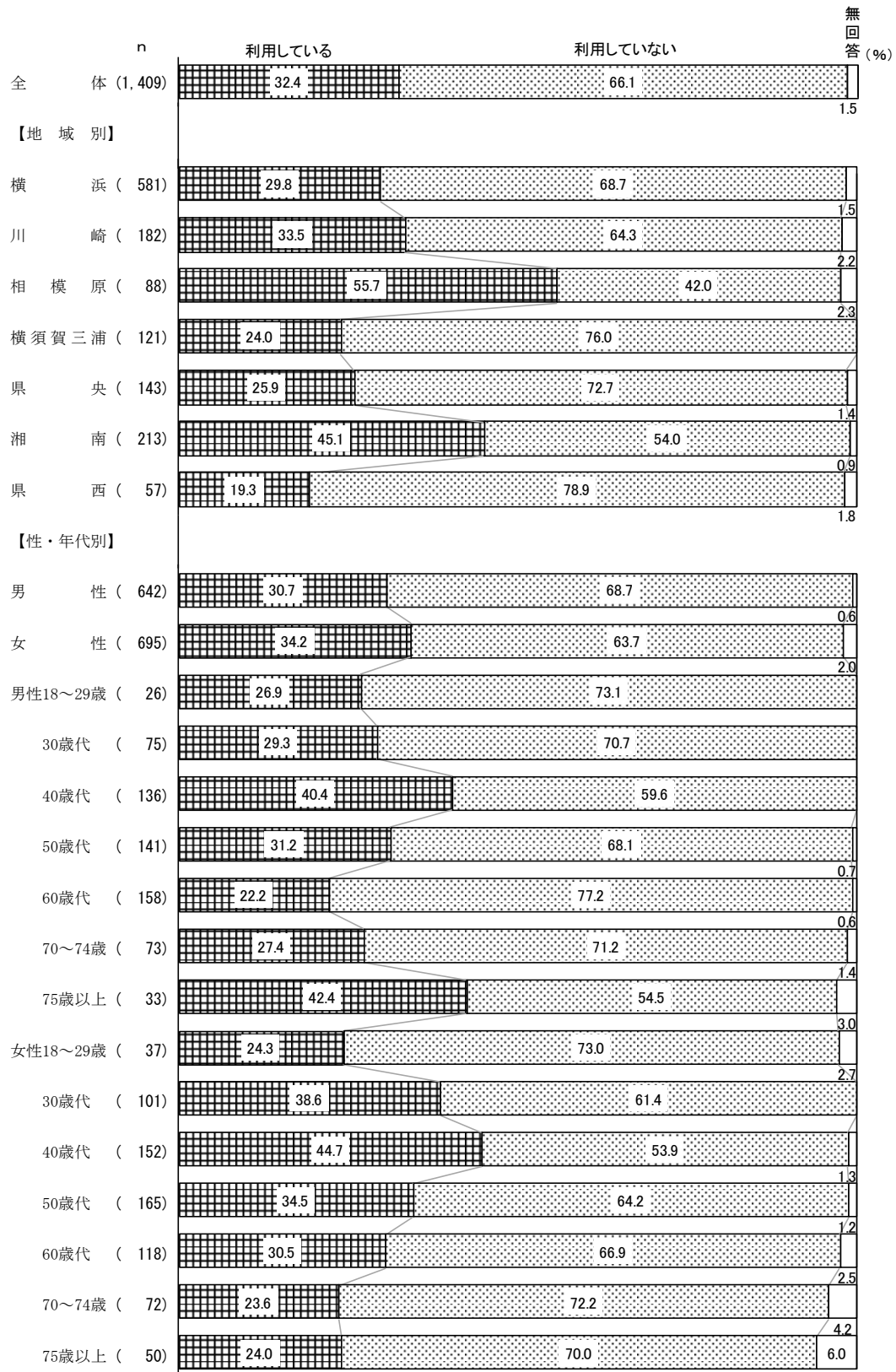
通勤や通学、その他日常生活で自転車を利用しているか尋ねたところ、「利用している」が32.4%であった。

一方、「利用していない」は、66.1%であった。(図表11-1-1)

図表11-1-1 自転車の利用状況



図表11-1-2 自転車の利用状況—地域別、性・年代別



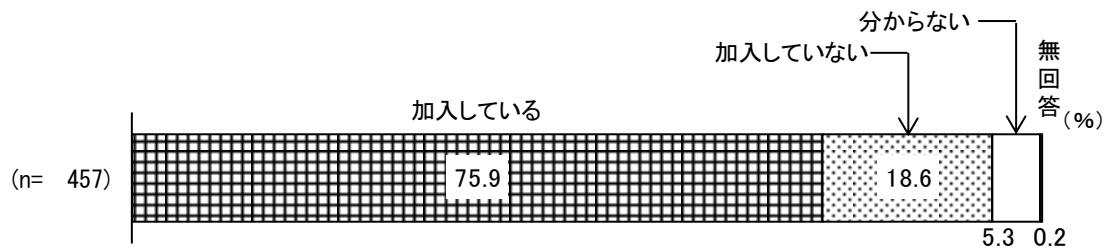
2 自転車損害賠償責任保険等への加入状況【問34-1】

【全体の状況】

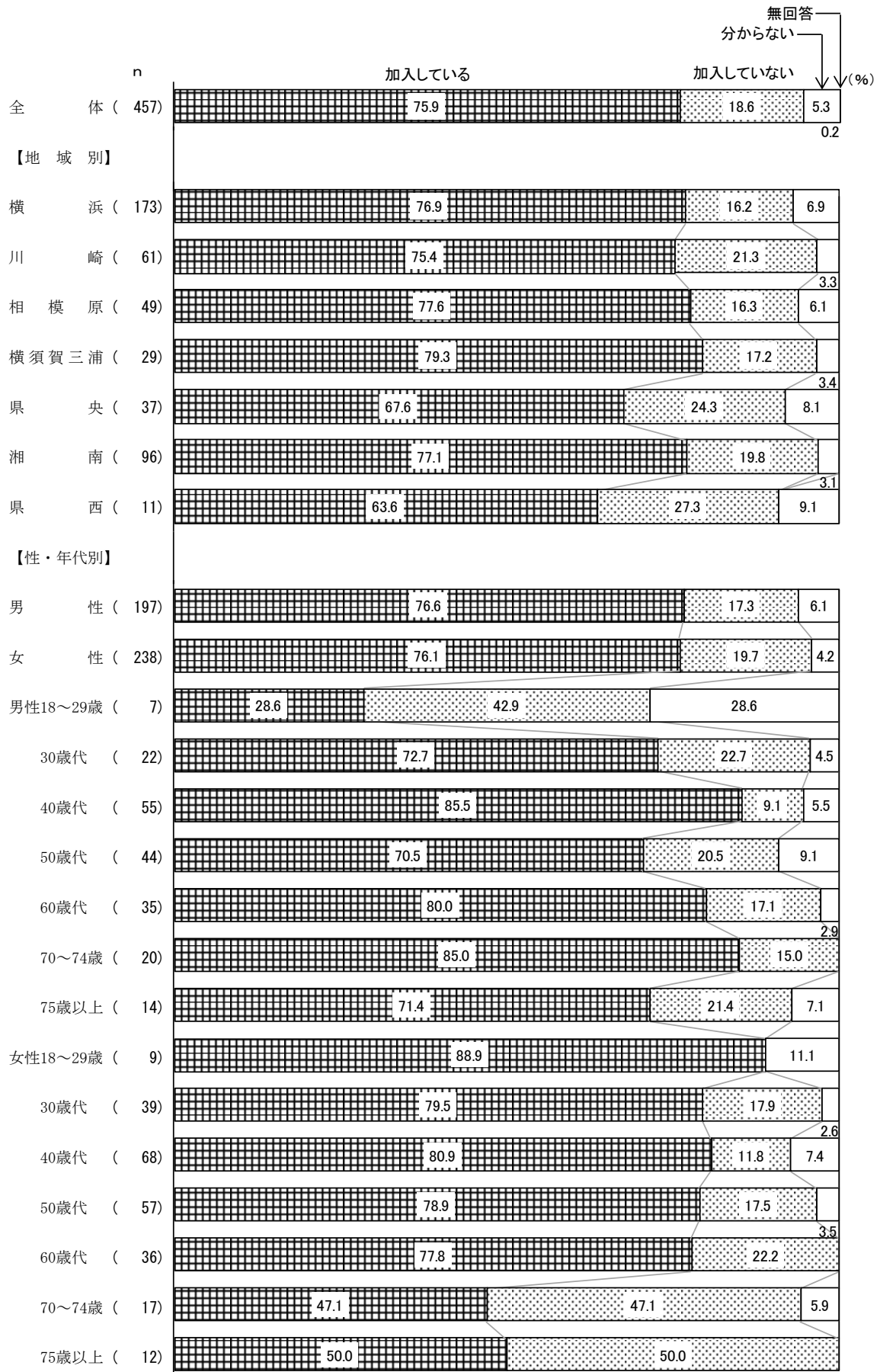
自転車の利用状況（問34）で、「利用している」と回答した457人に、自転車利用中に事故を起こした際に、相手方の損害を賠償することができる保険（自転車損害賠償責任保険等）に加入しているか尋ねたところ、「加入している」が75.9%であった。

一方、「加入していない」は、18.6%であった。（図表11-2-1）

図表11-2-1 自転車損害賠償責任保険等への加入状況



図表11-2-2 自転車損害賠償責任保険等への加入状況—地域別、性・年代別



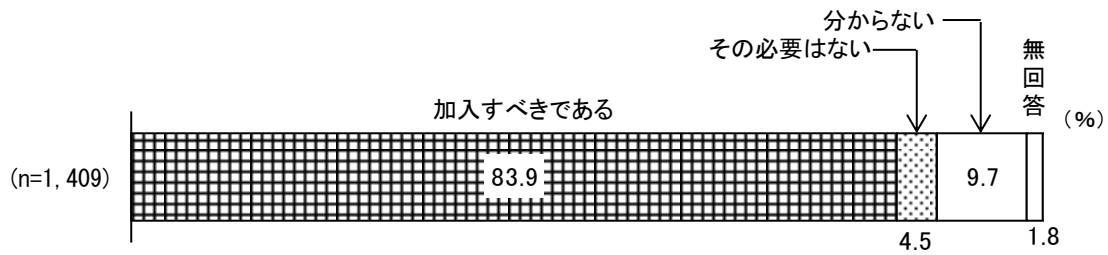
3 自転車損害賠償責任保険等に参加することについての考え【問35】

【全体の状況】

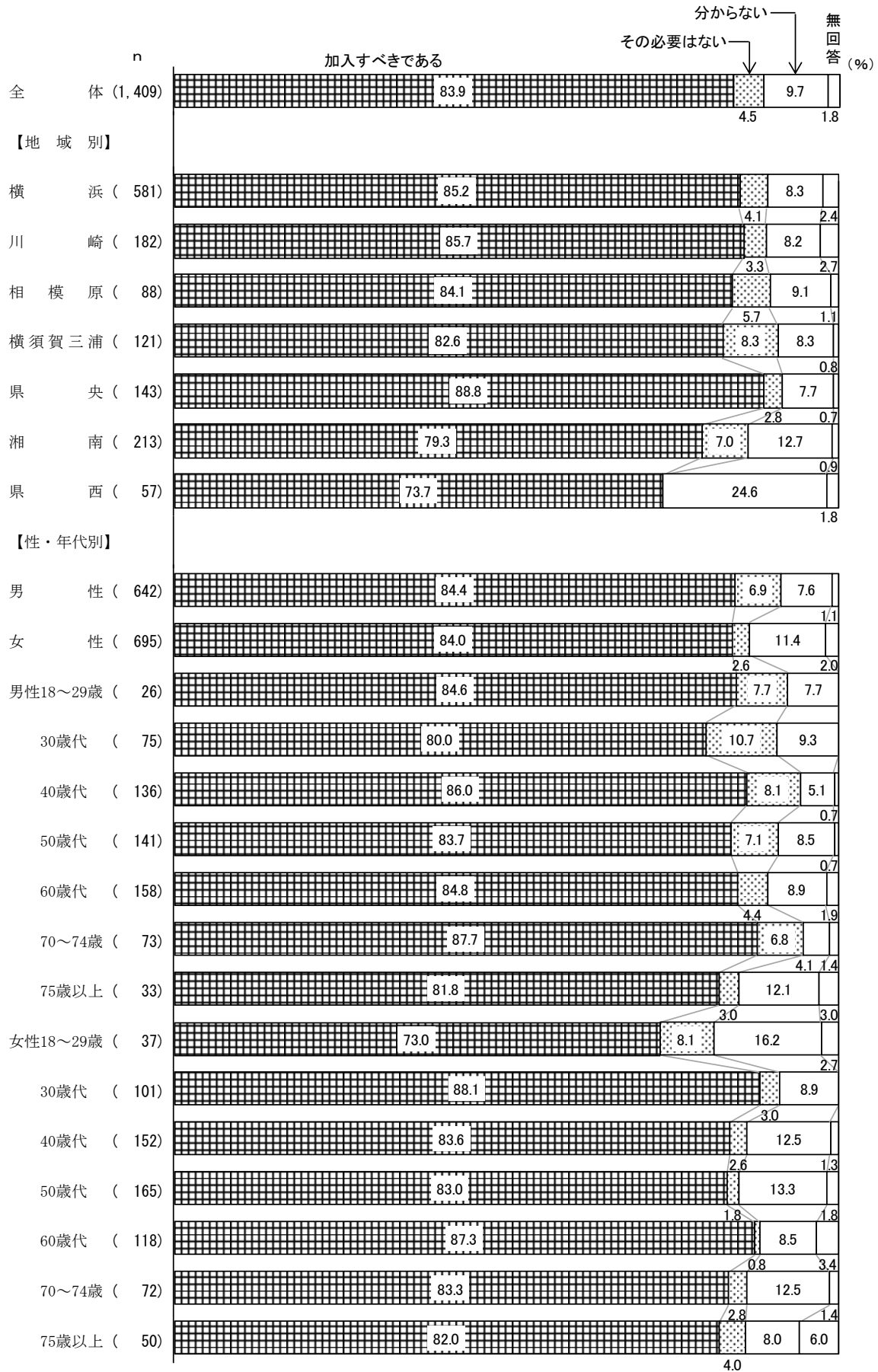
すべての自転車利用者が自転車損害賠償責任保険等に参加することについてどう思うか尋ねたところ、「加入すべきである」が83.9%であった。

一方、「その必要はない」は、4.5%であった。(図表11-3-1)

図表11-3-1 自転車損害賠償責任保険等に参加することについての考え



図表11-3-2 自転車損害賠償責任保険等に参加することについての考え—地域別、性・年代別



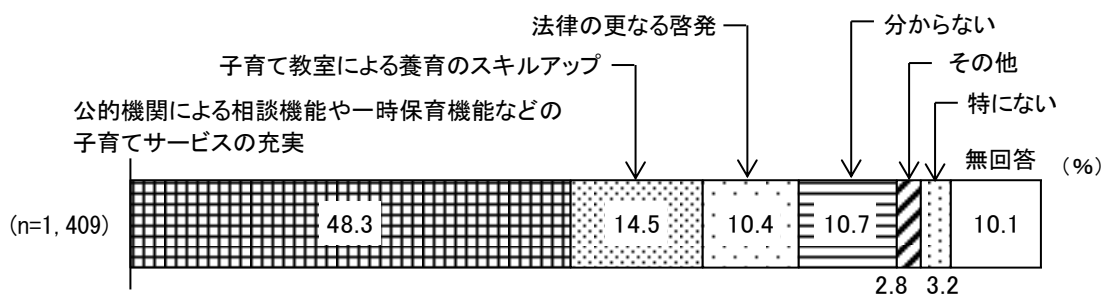
第12章 子育てにおける体罰の意識【問36～問38】

1 体罰によらない子育てをするために必要な取組み【問36】

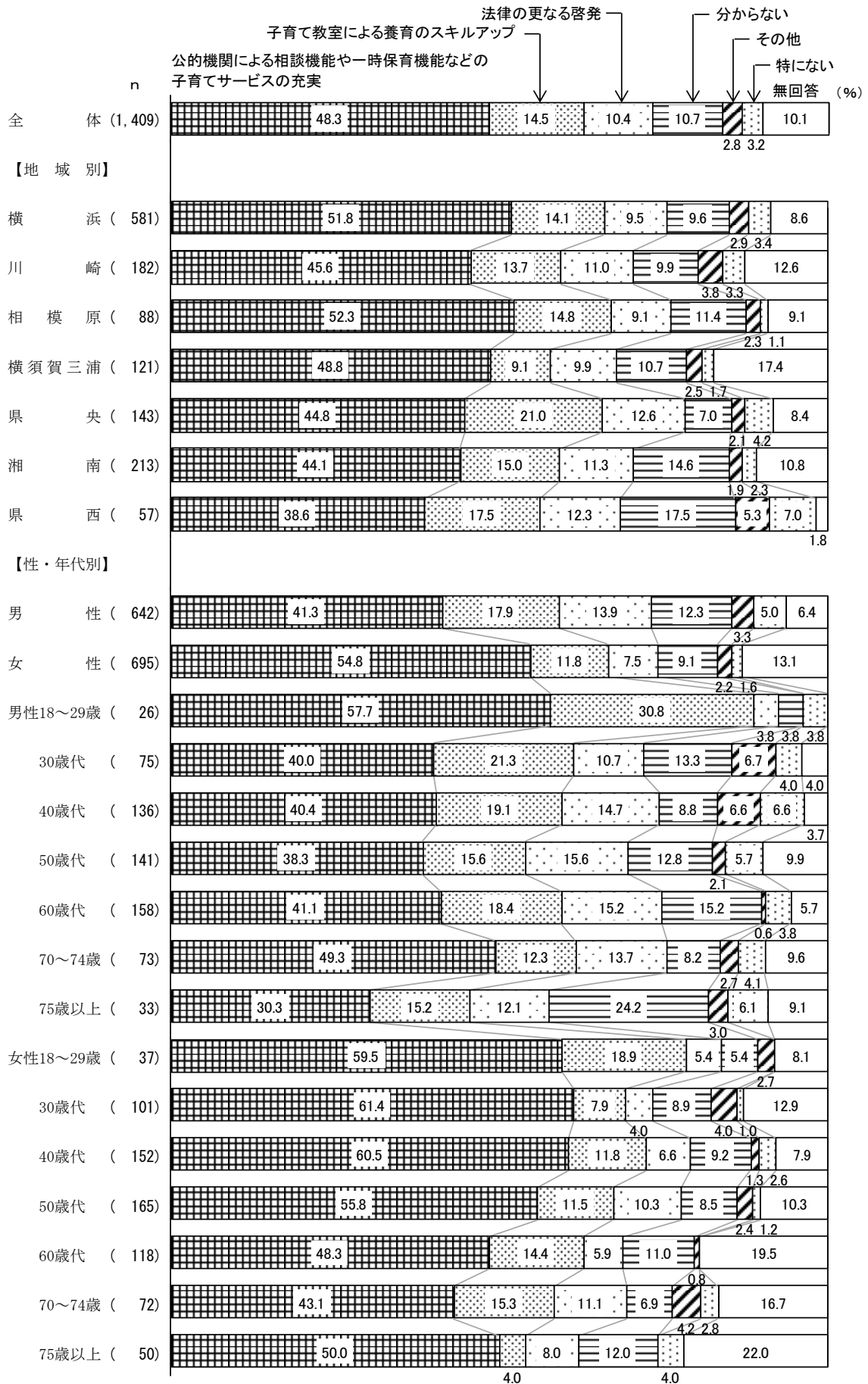
【全体の状況】

体罰によらない子育てをするために必要な取組みについて尋ねたところ、「公的機関による相談機能や一時保育機能などの子育てサービスの充実」が48.3%で最も多く、次いで「子育て教室による養育のスキルアップ」が14.5%であった。（図表12-1-1）

図表12-1-1 体罰によらない子育てをするために必要な取組み



図表12-1-2 体罰によらない子育てをするために必要な取組み—地域別、性・年代別



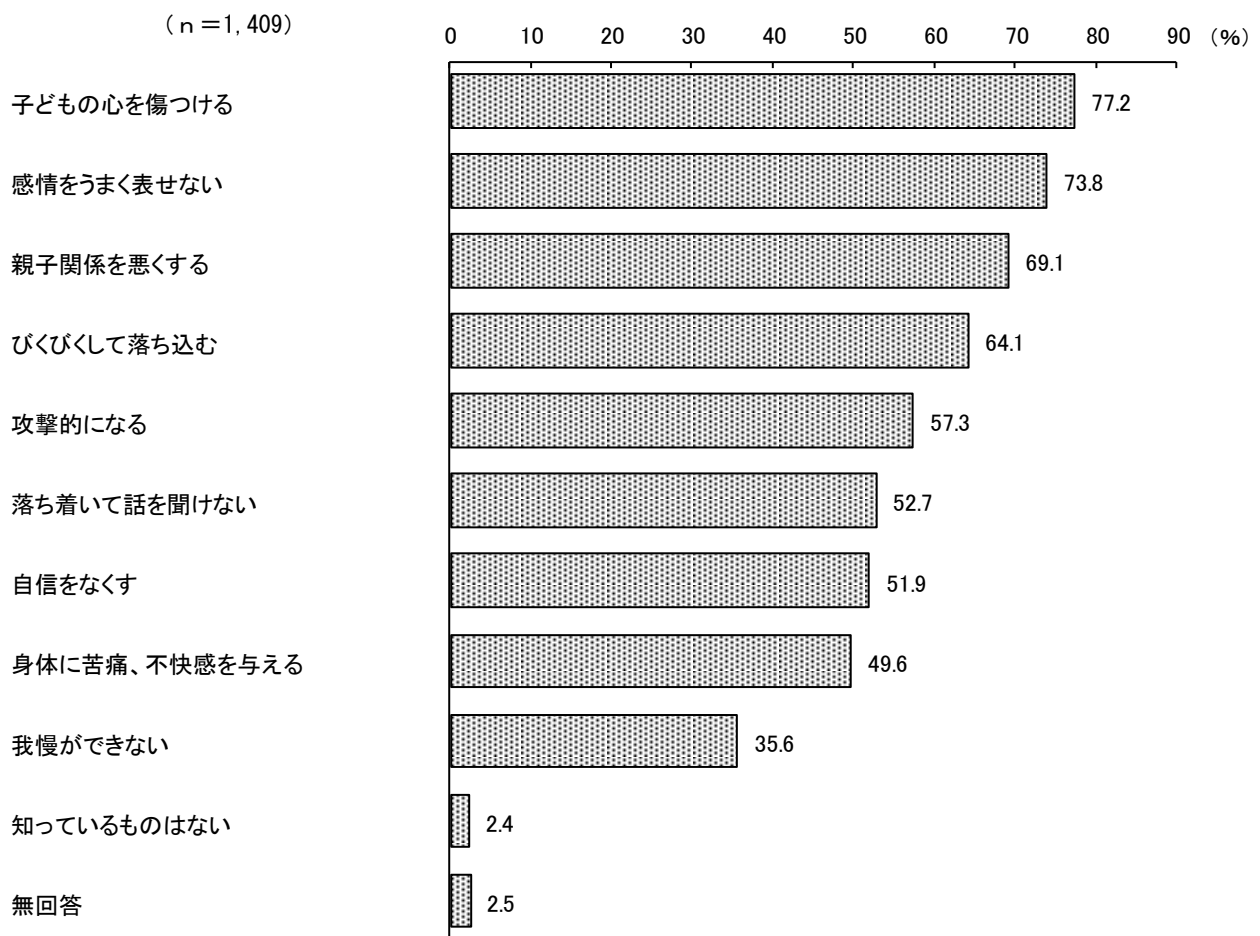
2 体罰などが子どもに与える影響【問37】

【全体の状況】

体罰などが子どもに与える影響について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「子どもの心を傷つける」が77.2%で最も多く、次いで「感情をうまく表せない」が73.8%であった。

(図表 12-2-1)

図表12-2-1 体罰などが子どもに与える影響（複数回答）



図表12-2-2 体罰などが子どもに与える影響（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

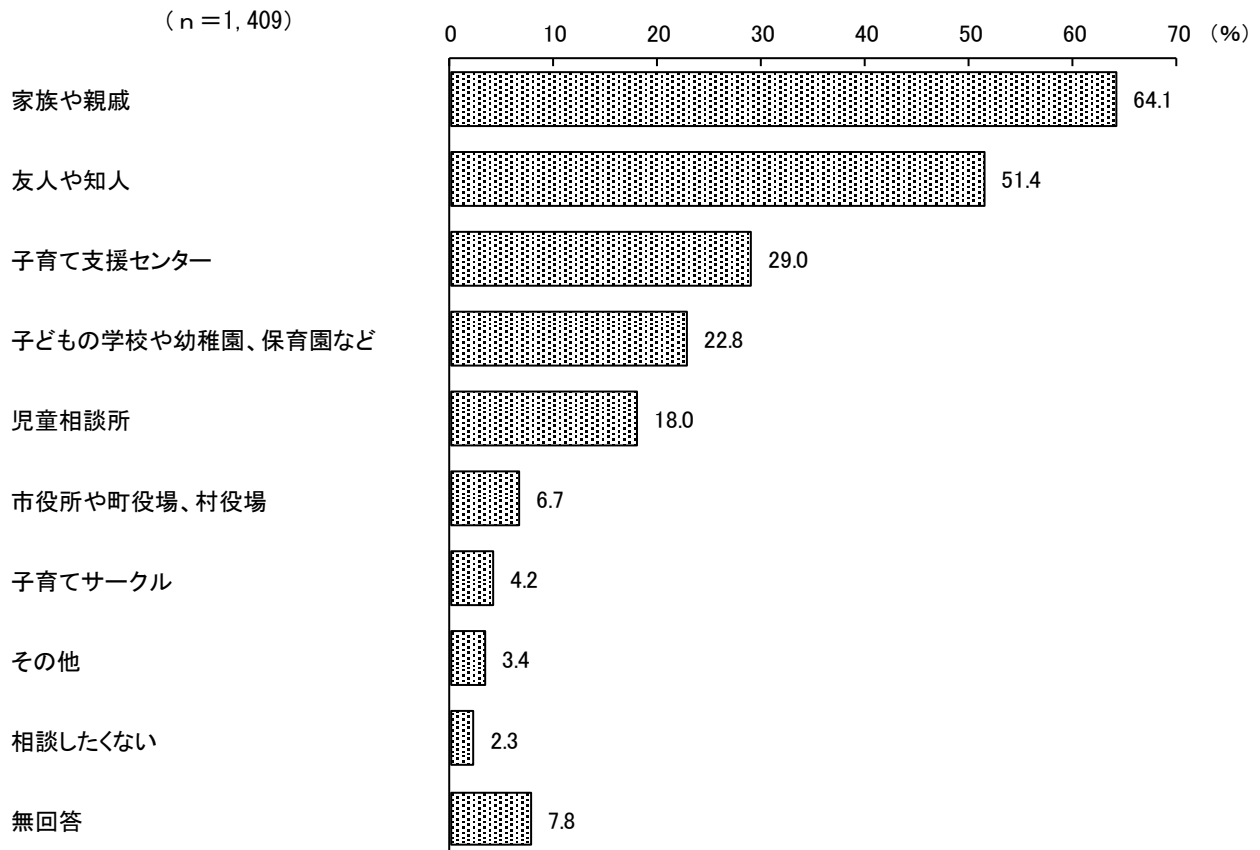
	n	子どもの心を傷つける	感情をうまく表せない	親子関係を悪くする	びくびくして落ち込む	攻撃的になる	落ち着いて話を聞けない	自信をなくす	身体に苦痛、不快感を与える	我慢ができない	知っているものはない	無回答
全 体	1,409	77.2	73.8	69.1	64.1	57.3	52.7	51.9	49.6	35.6	2.4	2.5
【地 域 別】												
横 浜	581	75.6	74.5	68.8	66.1	61.1	55.6	52.8	50.1	37.7	2.1	2.6
川 崎	182	77.5	70.9	66.5	63.2	58.8	47.3	48.9	40.1	29.1	3.8	2.7
相 模 原	88	79.5	73.9	67.0	68.2	55.7	48.9	58.0	55.7	37.5	2.3	2.3
横 須 賀 三 浦	121	79.3	77.7	77.7	62.8	57.9	52.9	53.7	51.2	36.4	2.5	1.7
県 央	143	77.6	74.1	72.0	65.0	53.1	53.8	51.0	45.5	32.9	1.4	0.7
湘 南	213	77.0	75.6	64.3	59.6	52.6	50.7	51.2	53.1	39.0	3.3	1.9
県 西	57	84.2	70.2	75.4	61.4	56.1	54.4	47.4	49.1	33.3	1.8	5.3
【性・年代別】												
男 性	642	69.0	69.0	66.7	59.8	55.1	51.1	43.9	41.3	34.9	4.4	1.4
女 性	695	83.6	79.6	73.1	68.2	61.3	56.1	59.1	55.1	37.7	0.7	3.2
男性18～29歳	26	73.1	84.6	73.1	69.2	84.6	57.7	53.8	26.9	42.3	-	-
30歳代	75	60.0	70.7	68.0	56.0	64.0	56.0	42.7	25.3	38.7	5.3	-
40歳代	136	69.1	78.7	75.0	61.0	58.8	64.0	39.7	25.7	39.7	5.1	-
50歳代	141	68.1	68.1	68.1	57.4	54.6	53.2	39.7	39.7	35.5	5.7	0.7
60歳代	158	74.1	72.2	63.9	63.9	54.4	46.2	50.6	51.3	36.1	1.9	1.3
70～74歳	73	67.1	54.8	53.4	56.2	42.5	31.5	45.2	58.9	21.9	5.5	4.1
75歳以上	33	69.7	33.3	60.6	54.5	30.3	39.4	39.4	72.7	21.2	6.1	9.1
女性18～29歳	37	73.0	89.2	89.2	70.3	67.6	64.9	48.6	35.1	43.2	-	2.7
30歳代	101	83.2	89.1	87.1	73.3	77.2	76.2	56.4	40.6	46.5	-	1.0
40歳代	152	80.3	82.9	76.3	66.4	62.5	61.8	56.6	40.8	42.1	0.7	2.0
50歳代	165	87.3	78.8	73.3	66.7	58.2	53.3	61.2	60.0	37.6	1.2	1.2
60歳代	118	86.4	79.7	68.6	77.1	61.0	45.8	65.3	70.3	33.9	1.7	4.2
70～74歳	72	87.5	76.4	65.3	61.1	51.4	44.4	65.3	73.6	30.6	-	5.6
75歳以上	50	78.0	50.0	44.0	56.0	46.0	42.0	50.0	64.0	22.0	-	12.0

3 子どものしつけで困った時の相談先【問38】

【全体の状況】

子どものしつけで困った時に、誰に（どこに）相談すべきだと思うか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「家族や親戚」が64.1%で最も多く、次いで「友人や知人」が51.4%であった。（図表 12-3-1）

図表12-3-1 子どものしつけで困った時の相談先（複数回答）



図表12-3-2 子どものしつけで困った時の相談先（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	家族や親戚	友人や知人	子育て支援センター	子どもの学校や幼稚園、保育園など	児童相談所	市役所や町役場、村役場	子育てサークル	その他	相談したくない	無回答
全体	1,409	64.1	51.4	29.0	22.8	18.0	6.7	4.2	3.4	2.3	7.8
【地域別】											
横浜	581	64.7	53.7	28.1	22.2	15.5	6.5	5.3	3.6	2.1	6.7
川崎	182	59.9	52.2	31.3	24.2	19.2	5.5	4.4	2.2	2.2	9.3
相模原	88	68.2	53.4	21.6	25.0	22.7	9.1	4.5	2.3	2.3	8.0
横須賀三浦	121	70.2	52.9	23.1	19.8	13.2	8.3	3.3	4.1	0.8	8.3
県央	143	58.7	49.7	33.6	26.6	19.6	8.4	2.1	2.1	3.5	8.4
湘南	213	66.2	46.9	31.5	21.6	23.5	6.1	2.8	5.6	2.8	7.0
県西	57	57.9	47.4	35.1	24.6	15.8	5.3	5.3	1.8	5.3	8.8
【性・年代別】											
男性	642	62.9	48.1	26.0	20.4	21.8	7.2	4.4	4.2	3.3	7.2
女性	695	65.3	55.5	32.1	25.9	14.4	6.8	3.6	3.0	1.2	7.9
男性18～29歳	26	80.8	80.8	26.9	15.4	19.2	7.7	3.8	-	3.8	-
30歳代	75	74.7	52.0	13.3	29.3	8.0	1.3	4.0	2.7	5.3	6.7
40歳代	136	61.0	49.3	27.2	22.8	17.6	7.4	5.1	2.9	2.9	9.6
50歳代	141	58.2	52.5	24.8	21.3	22.7	3.5	6.4	5.0	5.0	5.0
60歳代	158	65.8	50.0	29.1	20.3	22.2	11.4	1.9	5.7	0.6	5.7
70～74歳	73	57.5	28.8	32.9	12.3	32.9	9.6	5.5	4.1	4.1	9.6
75歳以上	33	48.5	24.2	24.2	9.1	42.4	9.1	3.0	6.1	3.0	15.2
女性18～29歳	37	83.8	48.6	35.1	29.7	8.1	8.1	5.4	2.7	2.7	5.4
30歳代	101	75.2	64.4	27.7	44.6	10.9	5.9	1.0	2.0	2.0	8.9
40歳代	152	70.4	69.1	24.3	30.3	11.2	3.3	2.6	2.6	1.3	3.9
50歳代	165	60.6	57.6	32.7	23.6	7.3	7.9	3.0	4.8	0.6	7.9
60歳代	118	60.2	50.0	33.1	19.5	12.7	7.6	5.1	4.2	0.8	10.2
70～74歳	72	63.9	36.1	41.7	16.7	30.6	13.9	8.3	1.4	1.4	6.9
75歳以上	50	46.0	36.0	44.0	8.0	40.0	2.0	2.0	-	-	16.0

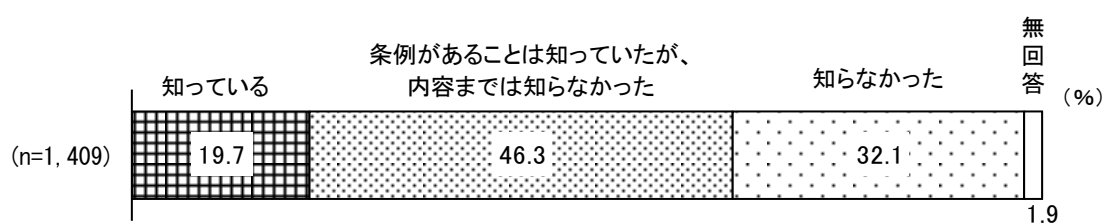
第13章 青少年を保護する条例の認知度【問39～問40】

1 青少年保護育成条例の内容の認知度【問39】

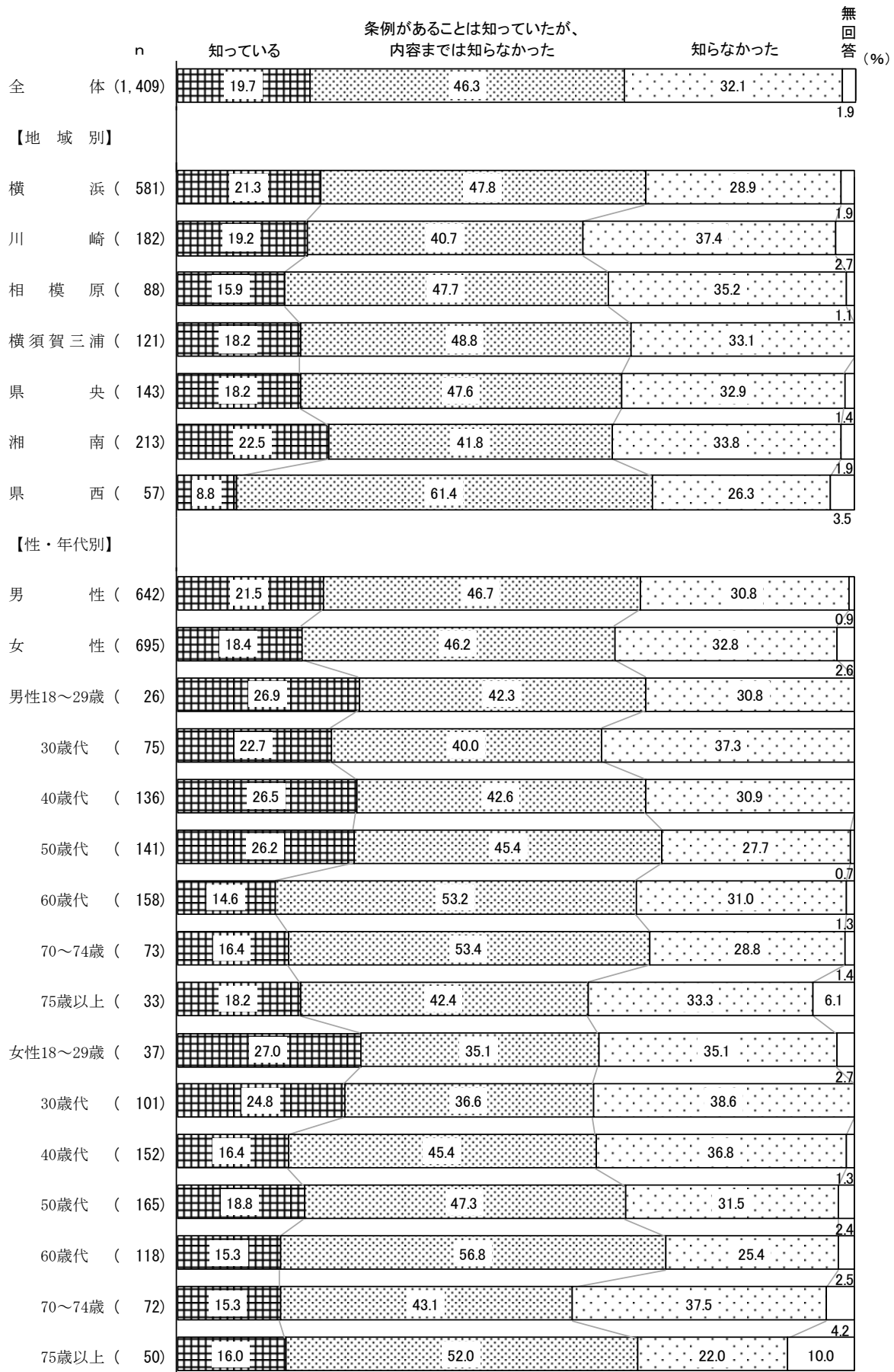
【全体の状況】

青少年保護育成条例の内容を知っているか尋ねたところ、「知っている」が19.7%であった。一方、「知らなかった」は、32.1%であった。(図表13-1-1)

図表13-1-1 青少年保護育成条例の内容の認知度



図表13-1-2 青少年保護育成条例の内容の認知度—地域別、性・年代別

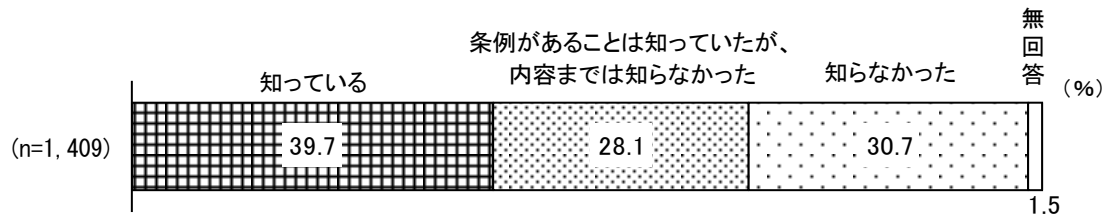


2 青少年喫煙飲酒防止条例の内容の認知度【問40】

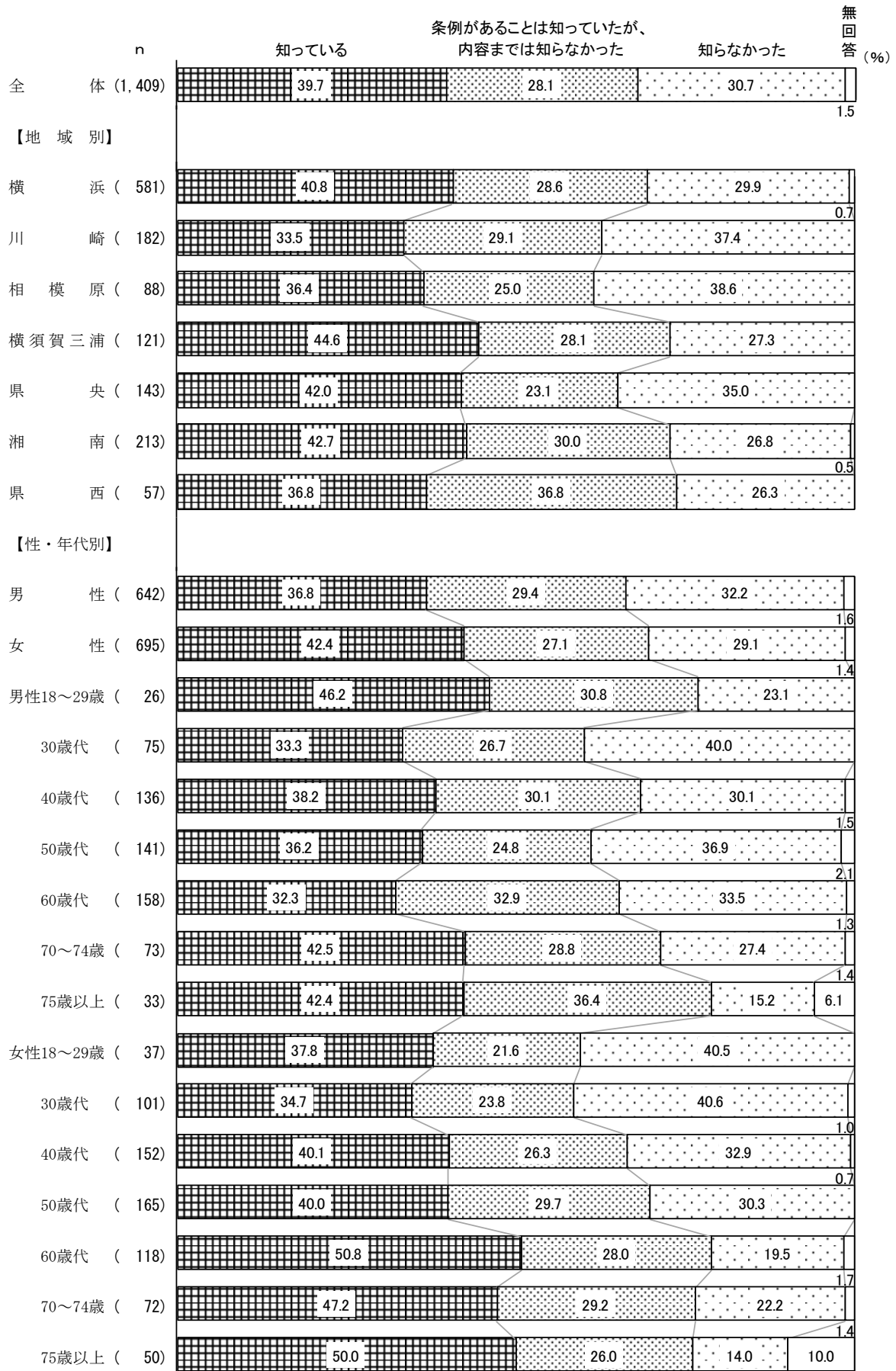
【全体の状況】

青少年喫煙飲酒防止条例の内容を知っているか尋ねたところ、「知っている」が39.7%であった。一方、「知らなかった」は、30.7%であった。(図表 13-2-1)

図表13-2-1 青少年喫煙飲酒防止条例の内容の認知度



図表13-2-2 青少年喫煙飲酒防止条例の内容の認知度—地域別、性・年代別



第14章 地域社会との関わり【問41】

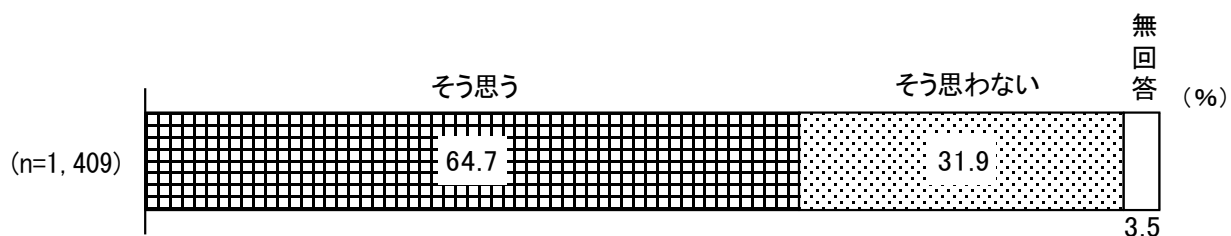
1 地域社会との関わり方に関する意識【問41】

【全体の状況】

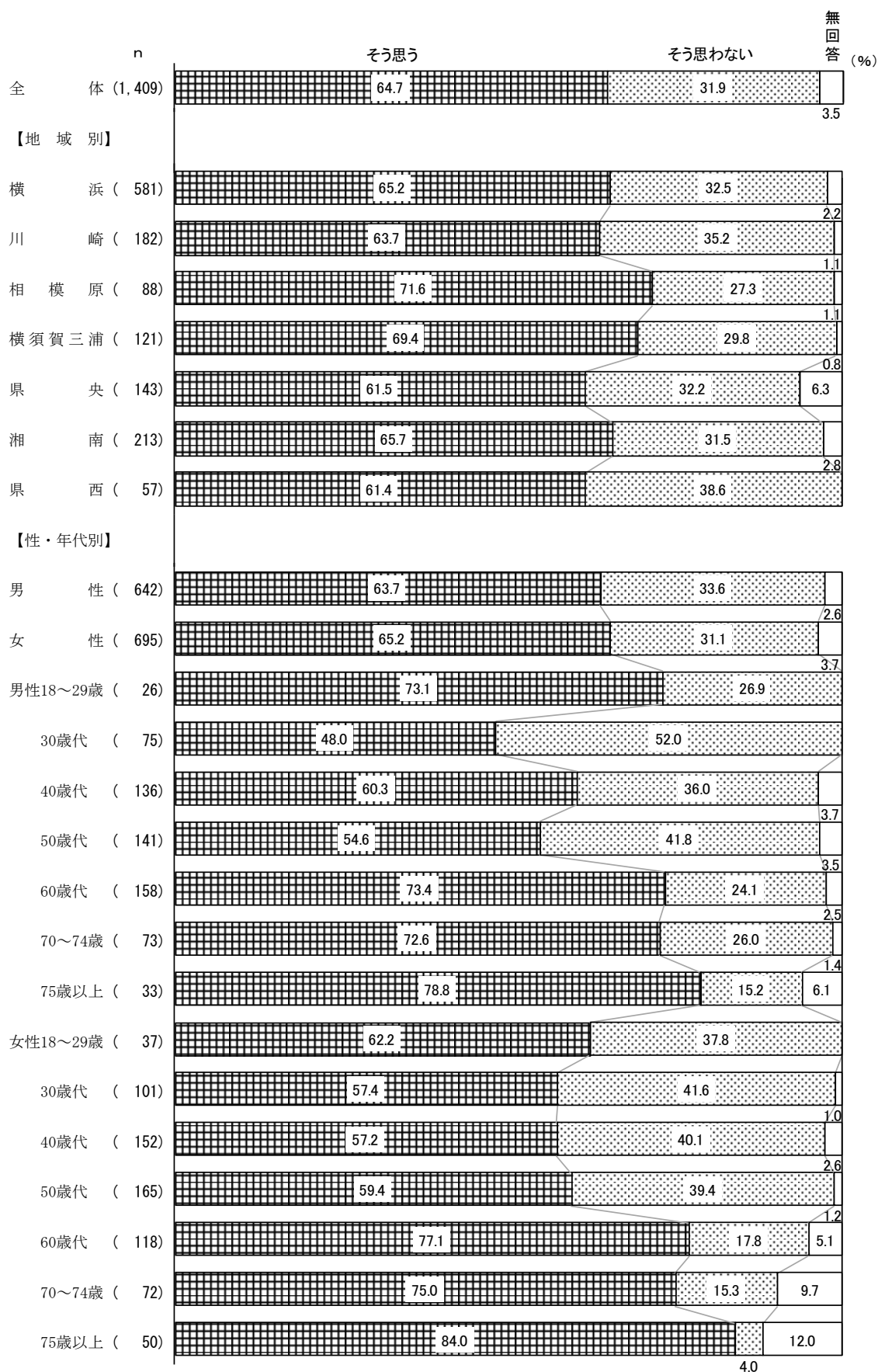
長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が64.7%であった。

一方、「そう思わない」が31.9%であった。(図表14-1-1)

図表14-1-1 地域社会との関わり方に関する意識



図表14-1-2 地域社会との関わり方に関する意識—地域別、性・年代別



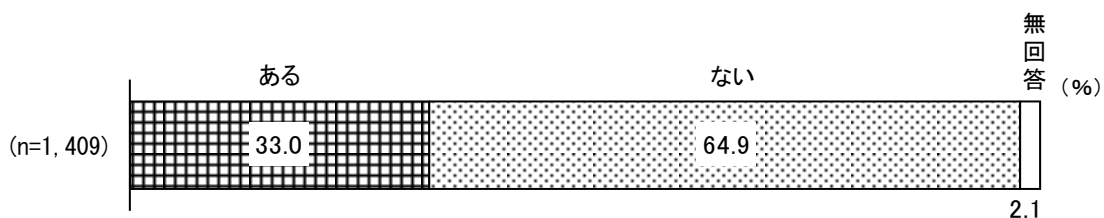
第15章 地域や地域の人々と多様に関わる人々（関係人口）【問42～問42-2】

1 継続的に関わりを持ちたいと思う特定の地域の有無【問42】

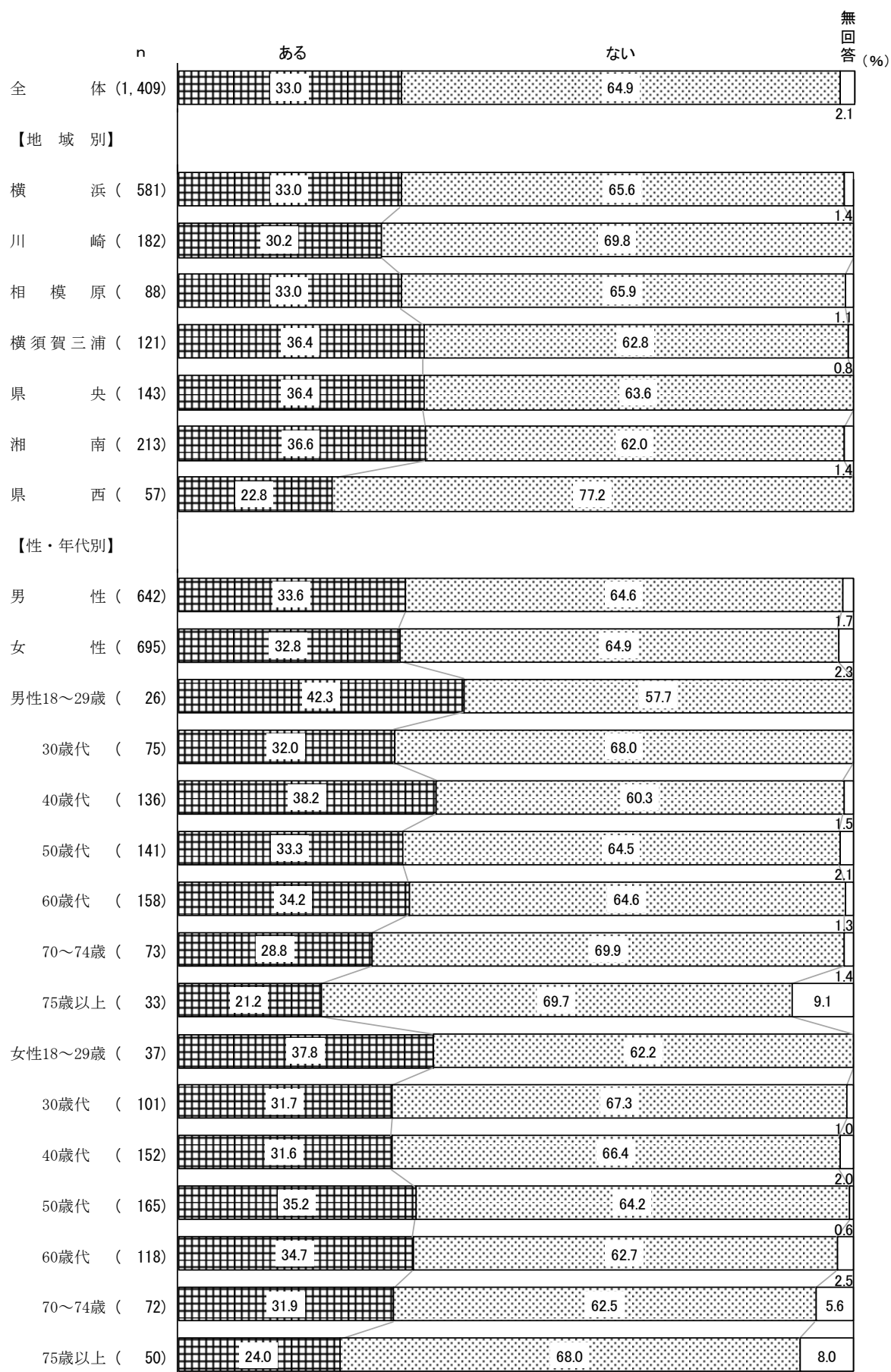
【全体の状況】

継続的に関わりを持ちたいと思う特定の地域の有無を尋ねたところ、「ある」が33.0%であった。一方、「ない」が64.9%であった。（図表15-1-1）

図表15-1-1 継続的に関わりを持ちたいと思う特定の地域の有無



図表15-1-2 継続的に関わりを持ちたいと思う特定の地域の有無—地域別、性・年代別

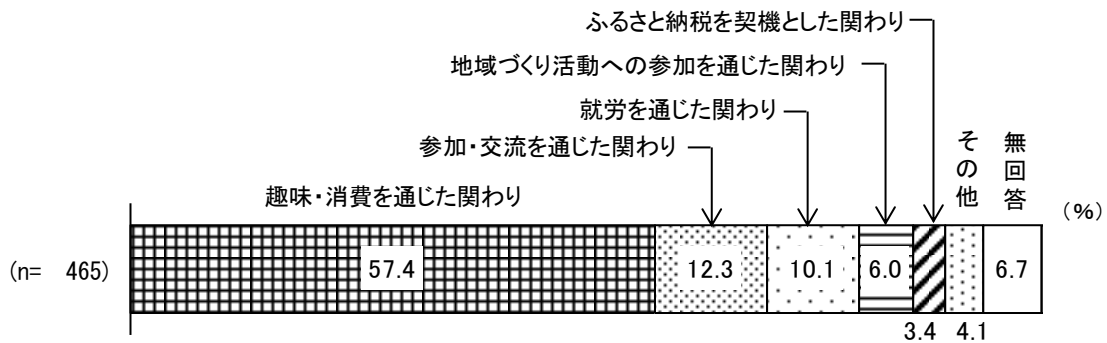


2 お住まいの地域以外で、関わりを持ちたいと思うもの【問42-1】

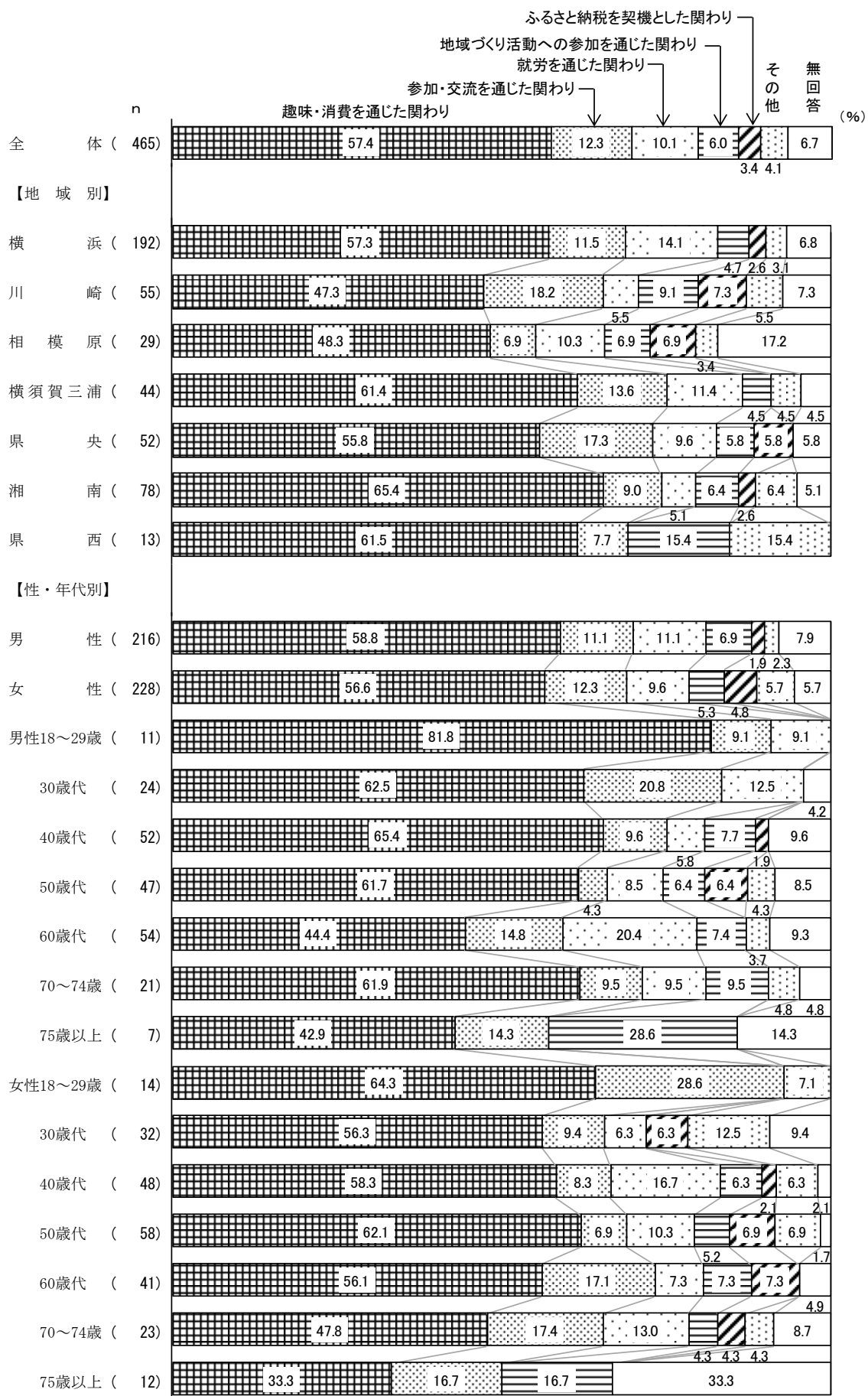
【全体の状況】

継続的に関わりを持ちたいと思う特定の地域の有無（問42）で「ある」と回答した465人に、関わりを持ちたいものを尋ねたところ、「趣味・消費を通じた関わり」が57.4%で最も多く、次いで「参加・交流を通じた関わり」が12.3%であった。（図表15-2-1）

図表15-2-1 お住まいの地域以外で、関わりを持ちたいと思うもの



図表15-2-2 お住まいの地域以外で、関わりを持ちたいと思うもの—地域別、性・年代別

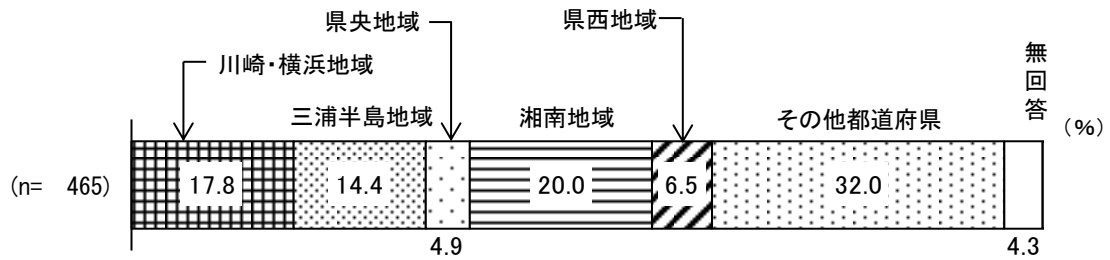


3 お住まいの地域以外で、関わりを持ちたい地域【問42-2】

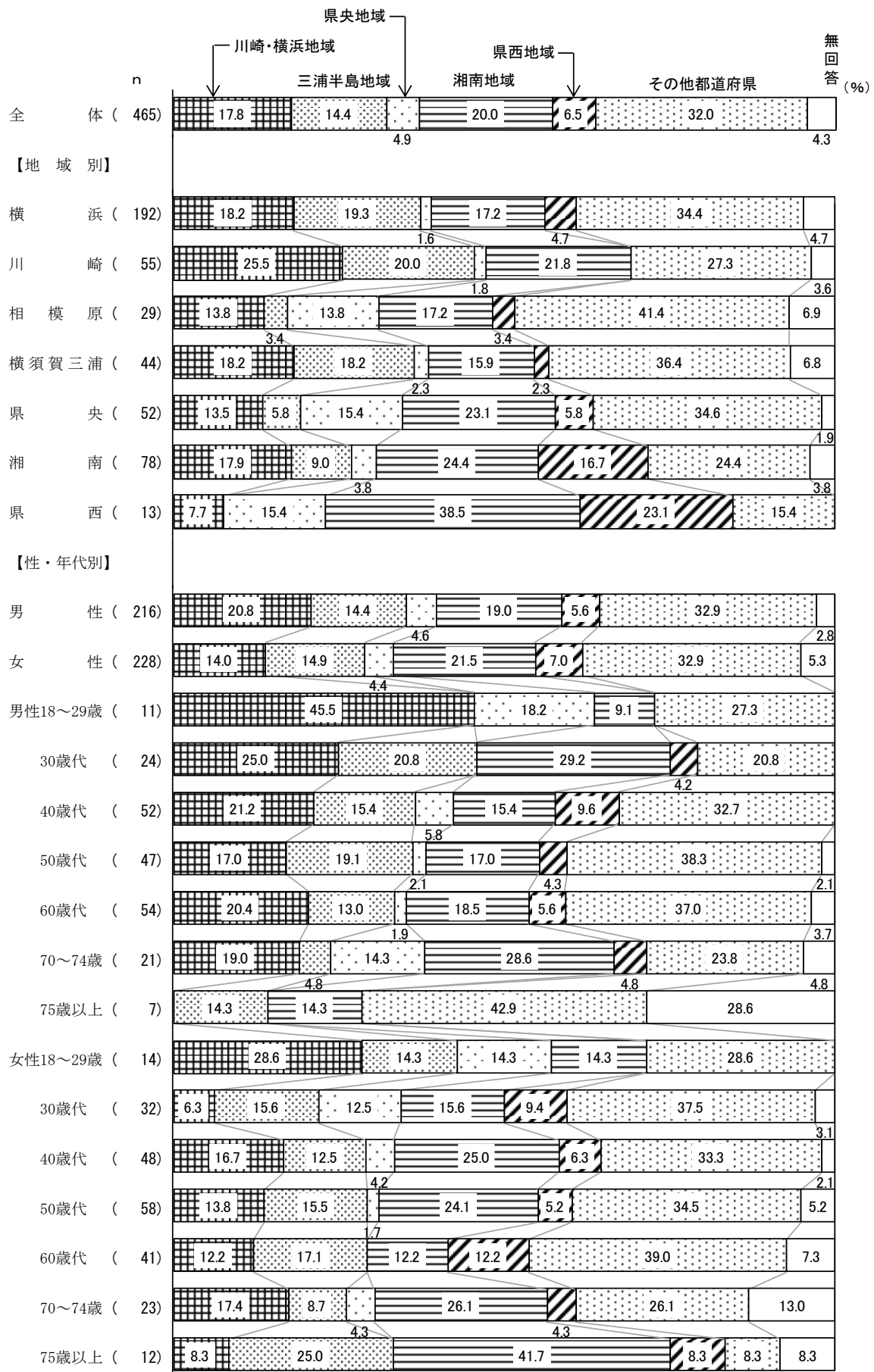
【全体の状況】

継続的に関わりを持ちたいと思う特定の地域の有無（問42）で「ある」と回答した465人に、お住まいの地域以外で関わりを持ちたいと思う地域を尋ねたところ、「湘南地域」が20.0%で最も多く、次いで「川崎・横浜地域」が17.8%であった。（図表15-3-1）

図表15-3-1 お住まいの地域以外で、関わりを持ちたい地域



図表15-3-2 お住まいの地域以外で、関わりを持ちたい地域—地域別、性・年代別



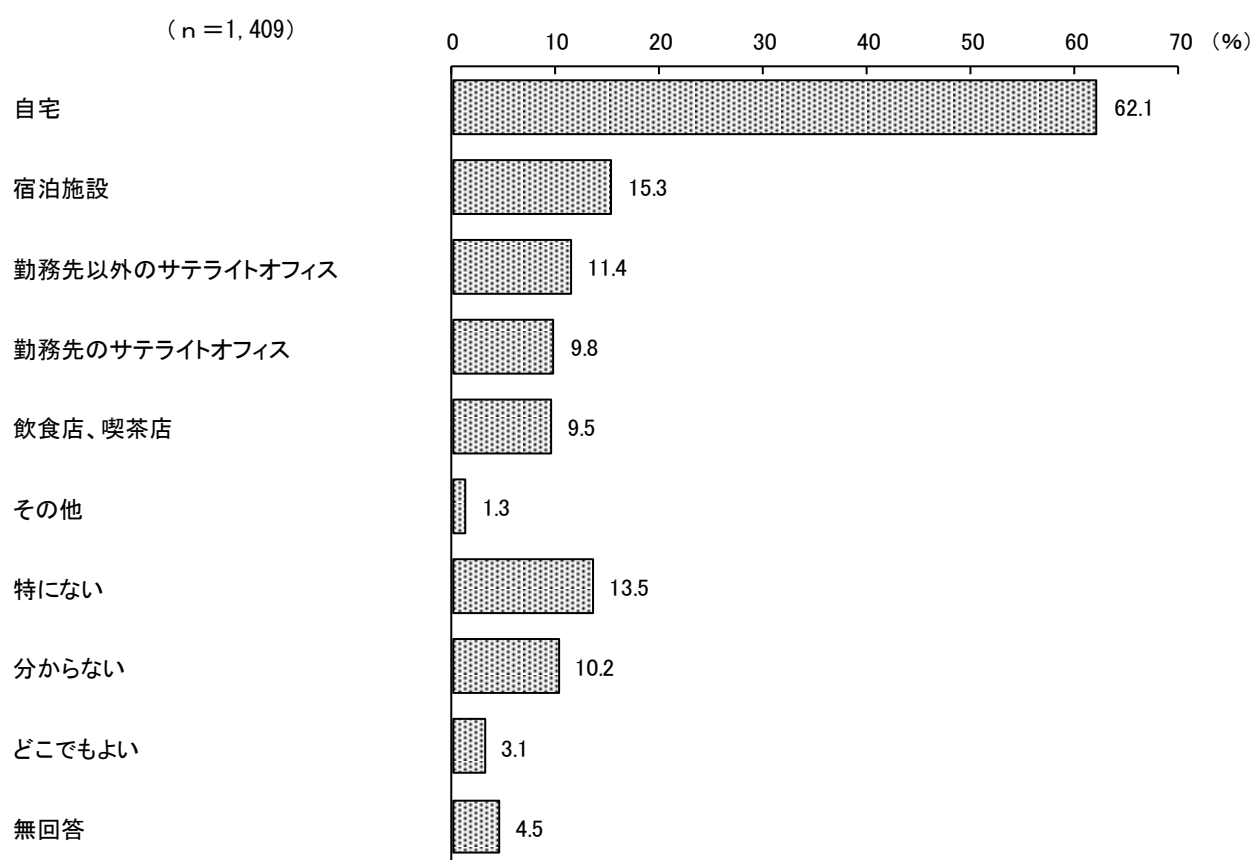
第16章 テレワーク（リモートワーク）のニーズ【問43～問45】

1 テレワーク（リモートワーク）をしたいと考える場所【問43】

【全体の状況】

テレワーク（リモートワーク）をしたいと考える場所について複数回答で尋ねたところ、「自宅」が62.1%で最も多く、次いで「宿泊施設」が15.3%であった。（図表16-1-1）

図表16-1-1 テレワーク（リモートワーク）をしたいと考える場所（複数回答）



図表16-1-2 テレワーク（リモートワーク）をしたいと考える場所（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

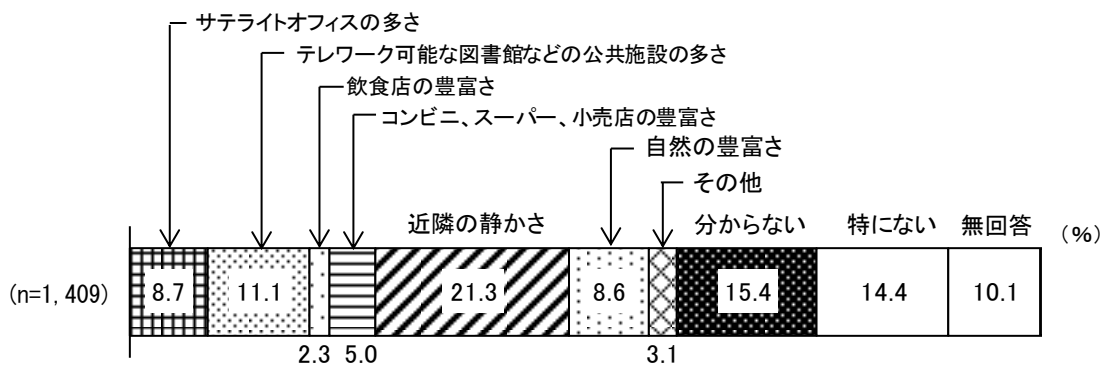
	n	自宅	宿泊施設	勤務先以外のサテライトオフィス	勤務先のサテライトオフィス	飲食店、喫茶店	その他	特にない	分からない	どこでもよい	無回答
全 体	1,409	62.1	15.3	11.4	9.8	9.5	1.3	13.5	10.2	3.1	4.5
【地 域 別】											
横 浜	581	62.7	16.7	14.6	10.3	10.0	1.0	13.8	9.5	2.1	3.1
川 崎	182	64.3	16.5	12.1	14.3	11.0	1.6	11.5	9.9	6.6	1.6
相 模 原	88	69.3	15.9	9.1	13.6	5.7	2.3	11.4	11.4	1.1	4.5
横 須 賀 三 浦	121	66.1	15.7	13.2	6.6	13.2	0.8	13.2	8.3	4.1	4.1
県 央	143	62.2	14.0	6.3	5.6	10.5	1.4	12.6	11.9	3.5	2.8
湘 南	213	58.2	12.2	7.5	7.5	8.5	2.3	16.4	12.7	3.8	3.8
県 西	57	63.2	15.8	7.0	14.0	3.5	-	15.8	8.8	1.8	5.3
【性・年代別】											
男 性	642	65.1	15.3	11.8	10.9	9.3	0.9	14.5	6.4	3.4	3.0
女 性	695	61.9	15.5	11.4	8.9	10.5	1.7	11.1	13.2	2.9	5.3
男性18～29歳	26	100.0	23.1	19.2	15.4	11.5	-	-	-	-	-
30歳代	75	80.0	20.0	13.3	17.3	17.3	1.3	4.0	1.3	5.3	-
40歳代	136	72.8	18.4	14.0	11.8	16.2	1.5	6.6	2.2	4.4	1.5
50歳代	141	68.8	19.1	14.2	11.3	7.8	1.4	12.1	5.7	3.5	2.8
60歳代	158	63.9	12.0	8.2	10.8	5.1	0.6	17.7	7.0	2.5	2.5
70～74歳	73	34.2	5.5	9.6	5.5	4.1	-	35.6	15.1	2.7	6.8
75歳以上	33	30.3	6.1	6.1	-	-	-	30.3	21.2	3.0	12.1
女性18～29歳	37	83.8	27.0	24.3	18.9	18.9	2.7	-	2.7	-	-
30歳代	101	79.2	20.8	13.9	9.9	22.8	3.0	5.9	4.0	4.0	1.0
40歳代	152	76.3	25.0	14.5	11.8	15.1	3.3	6.6	6.6	2.6	0.7
50歳代	165	64.2	15.8	10.3	8.5	9.1	1.8	10.9	12.7	3.6	2.4
60歳代	118	50.8	9.3	11.0	6.8	3.4	-	14.4	18.6	4.2	8.5
70～74歳	72	31.9	2.8	5.6	5.6	1.4	-	23.6	26.4	1.4	13.9
75歳以上	50	28.0	-	-	2.0	-	-	18.0	30.0	-	22.0

2 自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に望むもの【問44】

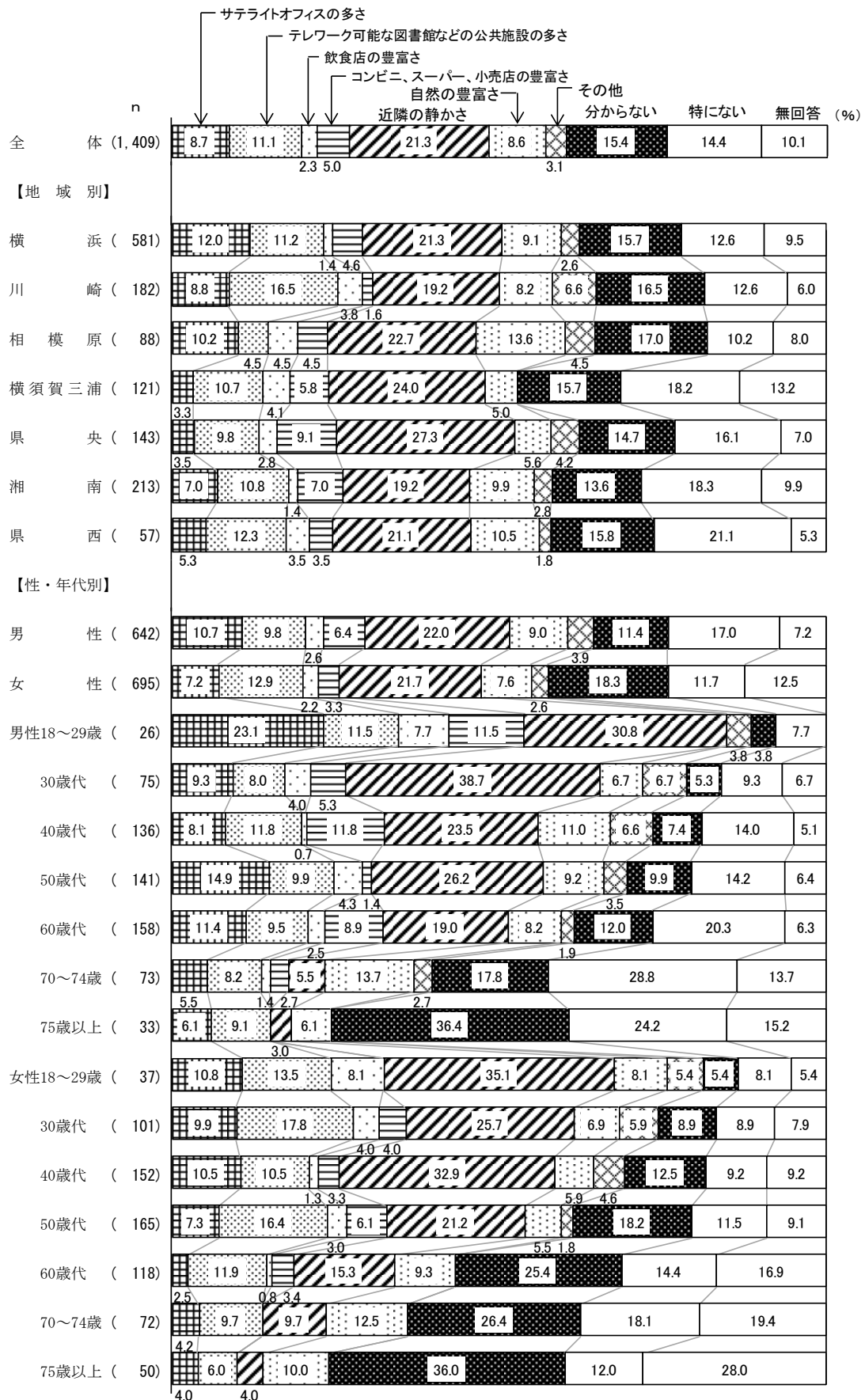
【全体の状況】

自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に望むものを尋ねたところ、「近隣の静かさ」が21.3%で最も多く、次いで「テレワーク可能な図書館などの公共施設の多さ」が11.1%であった。（図表16-2-1）

図表16-2-1 自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に望むもの



図表16-2-2 自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に望むもの
—地域別、性・年代別

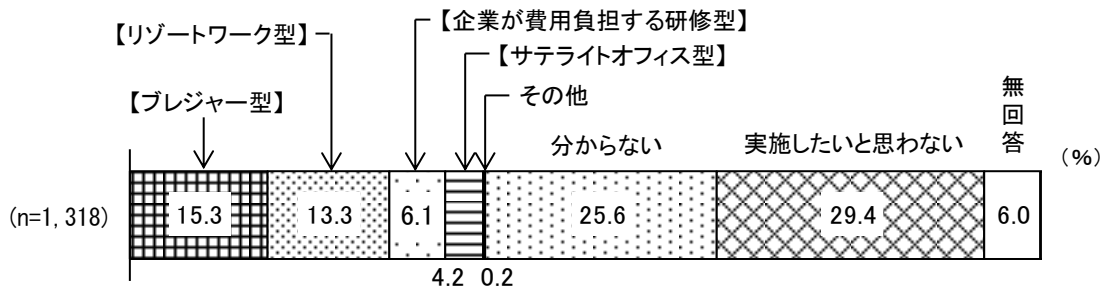


3 実施したいワーケーションの形態【問45】※

【全体の状況】

実施したいワーケーションの形態を尋ねたところ、「ブレジャー型」が15.3%で最も多く、次いで「リゾートワーク型」が13.3%であった。（図表16-3-1）

図表16-3-1 実施したいワーケーションの形態

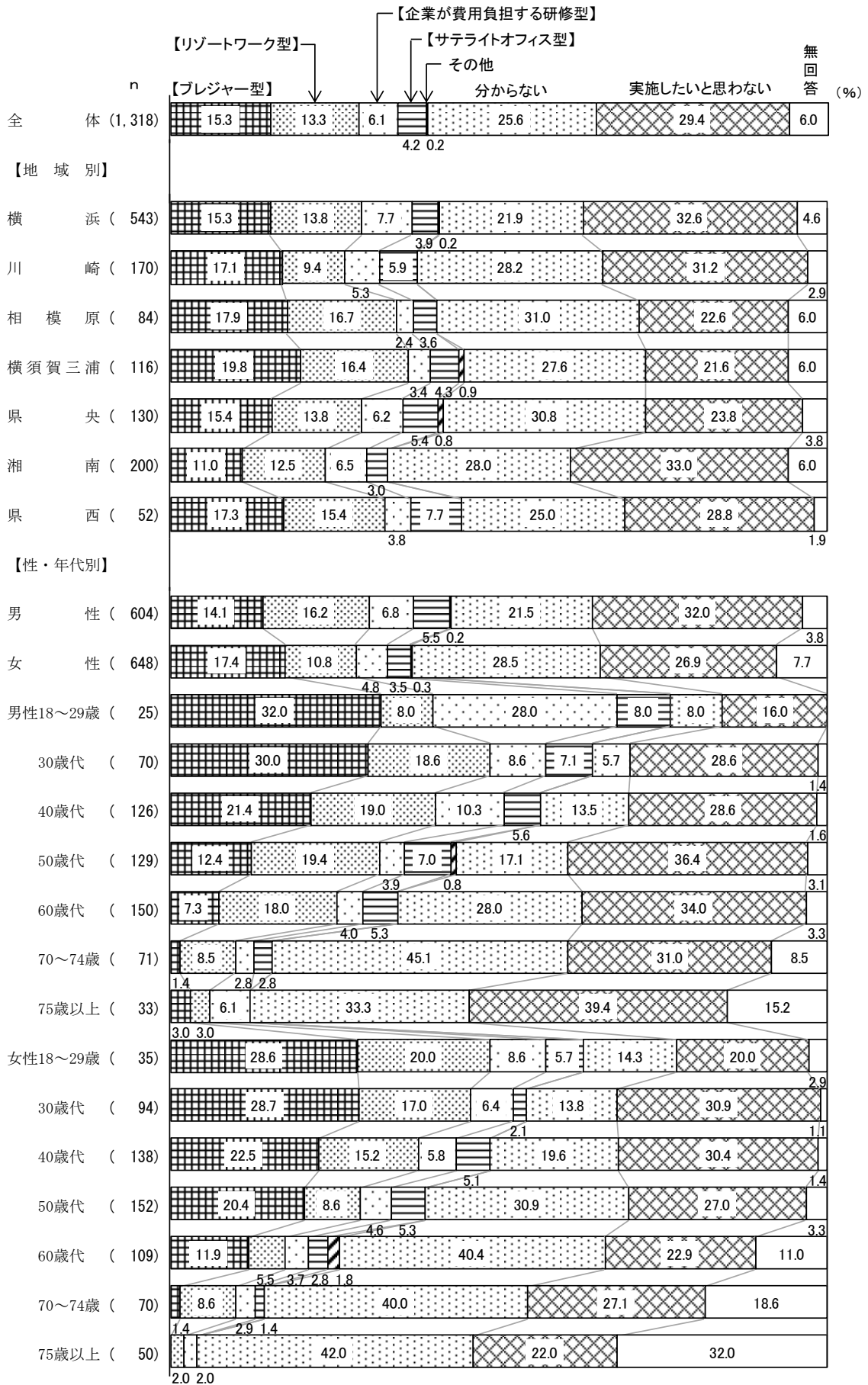


※問45は本来、複数選択の設問でしたが、インターネットによる回答において、複数選択ができない設定となっていました。このため、当該設問については、1つの選択肢のみ回答いただいた1,318名分（郵送分806名＋インターネット分512名）を集計し、調査結果とさせていただきます。併せて、複数選択の設問として回答していただいた897名分の調査結果を、次のとおり付記します。ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

（参考）複数回答の設問として回答した897名分の調査結果

1 【ブレジャー型】	15.9% (143件)	5 その他	0.2% (2件)
2 【リゾートワーク型】	14.9% (134件)	6 分からない	31.0% (278件)
3 【企業が費用負担する研修型】	9.4% (84件)	7 実施したいと思わない	28.3% (254件)
4 【サテライトオフィス型】	5.1% (46件)	無回答	8.5% (76件)

図表16-3-2 実施したいワーケーションの形態—地域別、性・年代別



第 V 部 調査票と単純集計結果

調査期間 令和3年10月29日～11月22日
 標本設計数 3,000 有効回収数(率) 1,409 (47.0%)
 * 「n」は、質問に対する回答者数の総数を表す。
 「-」は、回答者が皆無であることを示す。
 ※比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、
 合計が100%にならないことがある。

令和3年度(2021年) 神奈川県『県民ニーズ調査』(第2回課題調査)

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。

【アンケートのテーマ】

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1 スポーツ | 10 地震対策の取組み |
| 2 セーリングの普及 | 11 自転車損害賠償責任保険等の加入 |
| 3 ねんりんピックかながわ2022 | 12 子育てにおける体罰の意識 |
| 4 「未病改善」の取組み | 13 青少年を保護する条例の認知度 |
| 5 肝炎対策 | 14 地域社会との関わり |
| 6 依存症に対する意識 | 15 地域や地域の人々と多様に関わる人々(関係人口) |
| 7 がん対策 | 16 テレワーク(リモートワーク)のニーズ |
| 8 かながわの水源地域 | |
| 9 生物多様性 | |

◆ 記入上の留意事項

- この調査のご回答は、**封筒のあて名のご本人様**にお願いいたします。
- この調査は無記名式です。お名前、ご住所の**記入は不要**です。
- お答えは、直接、この調査票の**あてはまる番号を○**で囲んでください。
- ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

▼ **ご記入いただいた調査票は、同封の返送用封筒**に入れ、**11月22日(月)まで**にご投函ください。(切手は不要です。お名前やご住所の記入も必要ありません。)

▼ **インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。**

【お問合せ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

- **問合せフォーム** (11月22日までの期間限定)

県民ニーズ調査HP (<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)
 に掲載している「令和3年度調査対象者」向けお問い合わせフォーム
 から送信してください。

- **電話 (045)210-1111 (内線3672~3676)**

※ 受付時間：月～金 8:30～17:15(土日祝日は閉庁)

1 スポーツ

問1 体力に自信はありますか。 (○は1つ) (n=1,409) (%)

1 ある	8.4	3 どちらかといえばない	32.2	5 分からない	6.2
2 どちらかといえばある	36.8	4 ない	15.3	(無回答)	1.0

問2 この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツ※をした日数はどのくらいになりますか。

(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 週に5日以上	12.6	5 月に1～3日程度	15.3	
2 週に3日程度	17.3	6 3か月に1～2日程度	6.3	
3 週に2日程度	13.3	7 年に1～3日程度	12.7	
4 週に1日程度	11.9	8 分からない	9.8	(無回答 0.9)

※1回10分程度の運動やスポーツを合計して30分でも構いません。また、レクリエーションとして行う身体活動やウォーキングなどの軽度の運動も含まれます。

問3 「3033 (サンマルサンサン) 運動※」について知っていますか。 (○は1つ) (n=1,409) (%)

1 知っている	3.1	2 言葉は聞いたことがある	10.9	3 知らなかった	85.5
(無回答 0.6)					

※3033 (サンマルサンサン) 運動とは、運動やスポーツを1日30分、週3回、3か月間継続して行い、暮らしの一部として習慣化する取組みのことです。

問4 東京2020オリンピックの県内開催競技のうち、何が印象に残りましたか。

(○はいくつでも) (n=1,409) (%)

1 セーリング	4.8	3 ソフトボール	35.9	5 自転車競技 (ロード)	6.3
2 野球	32.3	4 サッカー	21.7	6 いずれも見えていない	35.5
(無回答 1.2)					

問5 東京2020オリンピック・パラリンピックをご覧になって、スポーツに関する行動に変化がありましたか。 (○は1つ) (n=1,409) (%)

1 スポーツをよく見るようになった	9.1	3 特に変わらない	86.9	
2 スポーツをよくするようになった	0.7	4 その他	2.1	(無回答 1.2)

問6 「かながわパラスポーツ※」について知っていますか。 (○は1つ) (n=1,409) (%)

1 知っている	3.5	2 言葉は聞いたことがある	13.1	3 知らなかった	82.6
(無回答 0.9)					

※かながわパラスポーツとは、すべての人が自分の運動機能を活かして同じように楽しみながらスポーツをする、観る、支えることです。

2 セーリングの普及

問7 今夏、東京2020オリンピックのセーリング※競技が神奈川県江の島で開催されました。セーリング競技に興味・関心がありますか。(〇は1つ) (n=1,409) (%)

1 興味・関心があり、定期的に競技を行っている	0.2	4 どちらかといえば興味・関心はない	42.6
2 興味・関心があり、セーリングの体験や見学、競技観戦をしたことがある	1.5	5 興味・関心はない	41.0
3 どちらかといえば興味・関心がある	14.2		(無回答 0.6)

※セーリングとは、セール(帆)に受ける風のパワーで働く小型の船を使用したヨットやウィンドサーフィンなどのスポーツのことです。

【問7で1～3を選んだ方へ】

問7-1 興味・関心を持ったきっかけは何ですか。(〇は1つ) (n=224) (%)

1 1964年の東京オリンピック	1.8	6 部活動や地域のクラブ活動	1.3
2 2021年の東京オリンピック	21.4	7 テレビやラジオ、新聞などのメディア	20.5
3 1、2を除いたセーリングの大会	7.1	8 セーリングの乗船体験やその他 セーリングに関するイベントへの参加	4.9
4 ヨットやウィンドサーフィンなどをしてる様子を偶然見かけて	23.7	9 その他	4.0
5 家族・友達の影響	11.2		(無回答 4.0)

【全員の方がお答えください】

問8 今後セーリング関係でやってみたい取り組みはありますか。(〇はいくつでも) (n=1,409) (%)

1 セーリング選手との交流	0.9	5 大会会場や周辺の見学・観光	9.9
2 セーリングの乗船体験	9.4	6 セーリングについて学べる講座	3.1
3 セーリングスクール・クラブの参加	1.3	7 その他	0.6
4 セーリングのレース観戦	13.0	8 特になし	70.3
			(無回答 1.6)

3 ねんりんピックかながわ2022

問9 第34回全国健康福祉祭(ねんりんピックかながわ2022)は神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市などの主催で、2022年に神奈川県内で初めて開催しますが、このことを知っていますか。

(〇は1つ) (n=1,409) (%)

1 知っている	4.4	2 知らなかった	94.8	(無回答 0.8)
---------	-----	----------	------	-----------

※全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、主に60歳以上の高齢者を中心とする国民の健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚などを図り、ふれあいと活力ある長寿社会の形成に寄与するため、1988年から毎年各都道府県持ち回りで開催されています。

問 10 「ねんりんピックかながわ 2022」では、大会参加者以外の方でも、競技観戦やイベント参加、ボランティア活動をすることができます。次の中で参加してみたいものを選んでください。
(○はいくつでも) (n=1,409) (%)

1 競技観戦	12.1	4 その他	0.1
2 イベント	9.9	5 分からない	13.9
3 ボランティア活動	9.6	6 特にない	62.2 (無回答 0.8)

※ねんりんピックかながわは、県内 26 市町で 32 種目を開催します。また、どなたでも楽しめる各種イベントも実施します。詳細は、右記HPを御覧ください。 <https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/0805/nenrin/>

問 11 「ねんりんピックかながわ 2022」を盛り上げるためには、どのような取組みが有効だと思いますか。
(○は2つまで) (n=1,409) (%)

1 競技体験会の開催	17.9	5 LINEによるスタンプ無料配布	8.9
2 イベントでのグッズ配布	13.7	6 その他	3.6
3 街中をフラッグやバナーなどで装飾	27.5	7 分からない	19.1
4 動画を活用したPR	27.5	8 特にない	15.6 (無回答 2.2)

4 「未病改善」の取組み

問 12 「未病 (ME-BYO) ※」という言葉聞いたことがありますか。(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 聞いたことがある	50.8	2 聞いたことがない	48.3 (無回答 0.9)
------------	------	------------	----------------

※未病とは、健康と病気を「二分論」の概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものと捉え、すべての変化の過程を表す概念です。

問 13 「未病 (ME-BYO)」の言葉の意味を知っていますか。(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 知っている	31.4	2 知らなかった	67.1 (無回答 1.5)
---------	------	----------	----------------

問 14 過去1年間で「未病改善※」の取組み(バランスの良い食事、運動、人との交流など)を以前と比べて行うようになったと思いますか。(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 もともと行っており、今も行っている	21.0
2 以前ほどではないが、少しずつ行っている	18.0
3 以前は行っていたが、まったく行わなくなった	3.3
4 以前は行っていなかったが、行うようになった	3.3
5 以前は行っていなかったが、少しずつ行うようになった	13.7
6 以前から行っておらず、今も行っていない	39.1 (無回答 1.6)

※未病改善とは、心身の状態の変化の中で、特定の疾患の予防にとどまらず、心身をより健康な状態に近づけていくことです。県では「食」「運動」「社会参加」を基本に、「未病改善」の取組みを進めています。

「食」: 健康的な食生活へ改善すること。オーラルフレイル(心身の機能の低下につながる口腔機能の虚弱な状態)対策も重要です。

「運動」: 日常生活にスポーツや運動を取り入れること。質の良い睡眠も重要です。

「社会参加」: ボランティアや趣味の活動などで他者と交流し、社会とのつながりを持つこと。

問 15 「未病改善」の取組み(バランスの良い食事、運動、人との交流など)をするにあたって必要だと思うものは何ですか。 (〇は3つまで) (n=1,409) (%)

1 医師など、専門家からの専門的知見に基づく現在の健康状態に関するアドバイス	34.6
2 健康に良い食材や調理方法など、食に関する情報	37.7
3 ボランティア募集など社会参加できる情報や相談窓口	5.7
4 スポーツセンターなど、気軽に運動ができる施設	39.2
5 家族、友人など、一緒に健康に良い行動ができる仲間	34.4
6 自分の健康状態を気軽に知ることができる施設やイベントなど	35.8
7 民間企業が提供する健康関連の商品サービス	2.8
8 将来(10~20年後)の自分に起こりうる健康リスク(生活習慣病や認知症など)を知ること	33.0
9 その他	2.5
10 特になし	6.9
(無回答 2.3)	

5 肝炎対策

問 16 「ウイルス性肝炎」という病気を知っていますか。 (〇は1つ) (n=1,409) (%)

1 知っている	50.0	2 言葉は聞いたことがある	39.4	3 知らなかった	9.9
(無回答 0.7)					

肝炎は、肝臓の細胞が破壊され炎症が起きる病気で、日本では特にB型、C型肝炎にかかる人が多くなっています。ウイルス性肝炎は、肝硬変や肝がんなどの命に関わる病気に進行することもあります。

問 17 これまでに「肝炎ウイルス検査※」を受けたことがありますか。 (〇は1つ) (n=1,409) (%)

1 ある	17.2	3 ない	63.8
2 受けた可能性がある	7.9	4 分からない	10.1
(無回答 1.0)			

※肝炎ウイルス検査は、本人が自覚的に受検する場合と、大きな外科手術(全身麻酔での手術で1993年以降に経験)、妊娠・出産(1993年以降に経験)及び献血時(1990年以降に経験)に無自覚に受けた可能性があります。

【問 17 で 1、2 を選んだ方へ】

問 17-1 検査の結果を知っていますか。 (〇は1つ) (n=353) (%)

1 知っている	79.0	3 分からない、覚えていない	15.9
2 知らない(結果待ちを含む)	4.5	(無回答 0.6)	

6 依存症に対する意識

問 18 依存症※について、あてはまると思うことを選んでください。(〇はいくつでも) (n=1,409) (%)

1 誰でもなる可能性がある	82.7	6 依存対象が生活の最優先事項になる	30.2
2 意志が弱いことが原因でなるわけではない	31.3	7 その他	1.1
3 やめたくても、やめられなくなる病気である	68.3	8 分からない	3.2
4 回復することはできるが時間がかかる	51.7	9 当てはまるものはない	2.2
5 自分が依存症であることを認めない	32.1	(無回答 0.6)	

※依存症とは、アルコールや薬物など、特定の物質を摂取することや、ギャンブルやゲーム、インターネットなど、特定の行動にのめり込み、心身への問題や社会生活への支障が生じることをいいます。

問 19 依存症について、相談できる場所として知っているものを選んでください。

(○はいくつでも) (n=1,409) (%)

1	依存症専門医療機関・専門クリニック	61.1
2	かかりつけ医（内科医など）	29.4
3	行政機関（精神保健福祉センター、保健所など）	28.0
4	回復支援施設（依存症の回復のための通所・入所施設）	35.1
5	当事者や家族などの自助グループ	20.4
6	弁護士・司法書士	1.8
7	その他	0.6
8	分からない	16.3
9	知っているものはない	7.7

（無回答 2.4）

【問 19 で 1～7 を選んだ方へ】

問 19-1 相談できる場所を知ったきっかけを選んでください。(○はいくつでも) (n=1,036) (%)

1	ポスター・チラシなど	26.4	5	家族・知人から	15.3
2	県・市町村の広報誌（県のためなど）	23.8	6	職場・学校	13.6
3	医療機関・行政機関などのホームページ	26.4	7	その他	24.0
4	SNS	11.7			

（無回答 5.0）

【全員の方がお答えください】

問 20 あなたやあなたの身近な人が依存症になった場合や疑われる場合、最初にどこで相談したいと思いますか。
(○はいくつでも) (n=1,409) (%)

1	依存症専門医療機関・専門クリニック	60.3	6	弁護士・司法書士	0.5
2	かかりつけ医（内科医など）	36.8	7	その他	0.9
3	行政機関（精神保健福祉センター、保健所など）	23.3	8	分からない	7.9
4	回復支援施設（依存症の回復のための通所・入所施設）	10.3	9	相談したくない	0.9
5	当事者や家族などの自助グループ	12.5			

（無回答 2.6）

問 21 依存症の回復に必要と思うものは何ですか。
(○はいくつでも) (n=1,409) (%)

1	医療機関などの治療	68.1	6	家族の説得	12.4
2	専門相談機関への相談	57.6	7	家族の肩代わり	2.1
3	家族や職場など周囲の人の理解	58.5	8	その他	1.9
4	自助グループのミーティング （当事者など自身の体験などを話し合う）	24.8	9	分からない	3.5
5	本人の強い意志	47.6	10	特になし	0.8

（無回答 2.5）

7 がん対策

問 22 コロナ禍における「がん検診」の受診について、どのように考えていますか。

(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 コロナ禍であっても、受診するべきである	73.1	3 そもそも受診する必要性を感じない	4.2
2 コロナ禍では、受診は控えるべきである	9.2	4 分からない	11.2

(無回答 2.3)

主ながん検診の種類は、胃がん（問診、胃のX線検査又は胃内視鏡検査）、大腸がん（問診、便潜血検査）、肺がん（問診、肺のX線検査及び喀痰細胞診）、乳がん（問診及びマンモグラフィ）、子宮頸がん（問診、視診、細胞診及び内診）です。

【問 22 で 1 を選んだ方へ】

問 22-1 これからがん検診を受ける場合、どこで受診しようと思いますか。

(○は1つ) (n=1,030) (%)

1 お住まいの市町村が行っているがん検診	48.8	4 人間ドック	21.8
2 職場で行っているがん検診	18.7	5 その他	2.5
3 家族が勤務する職場で行っているがん検診	3.5	6 分からない	2.2

(無回答 2.3)

問 23 県民のがん検診受診率は、目標としている 50%をなかなか超えられていない状況です。がん検診を受ける人が少ない理由は何だと思えますか。

(○は3つまで) (n=1,409) (%)

1 がん検診の重要性が理解されていないから	32.5	6 検査が痛そうだから	10.7
2 申込方法や日程がわからないから	21.8	7 費用がかかるから	37.7
3 申込みが面倒だから	40.0	8 検査の結果を聞くのが怖いから	13.2
4 検診会場が不便な場所にあるから	12.6	9 検診会場でコロナに感染するのが怖いから	10.0
5 夜間や休日に受けられないから	33.9	10 分からない	4.7

(無回答 4.3)

8 かながわの水源地域

問 24 県にあるダム湖（ダム）のうち、知っているものはありますか。

(○はいくつでも) (n=1,409) (%)

1 相模湖（相模ダム）	82.0	4 丹沢湖（三保ダム）	57.0
2 奥相模湖（道志ダム）	22.4	5 宮ヶ瀬湖（宮ヶ瀬ダム）	72.5
3 津久井湖（城山ダム）	64.6	6 いずれも知らない	6.2

(無回答 1.9)

問 25 問 24 のダム湖（ダム）が観光スポットとなっていることを知っていますか。

(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 知っているし、行ったことがある	56.5	3 知らなかったが、行ってみたい	3.8
2 知っているが、行ったことはない	27.5	4 知らなかった	10.2

(無回答 2.1)

問 26 もし、県にあるダム湖（ダム）に行く場合、体験したいと思うものは何ですか。

(○はいくつでも) (n=1,409) (%)

1 キャンプなどの野外活動や自然体験	36.0	6 湖や河川などでの釣り	19.9
2 ダムや周辺施設の見学、水源学習	47.2	7 地元特産品などのグルメ	46.5
3 名所や旧跡などの観光	38.7	8 その他	0.6
4 イベントや祭事への参加	18.7	9 特にない	10.5
5 カヌーや自転車などのスポーツ	18.3		(無回答 2.0)

9 生物多様性

問 27 「生物多様性※」の言葉の意味を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,409) (%)

1 知っている	31.4	2 言葉は聞いたことがある	33.7	3 知らなかった	33.1
(無回答 1.8)					

※**生物多様性**とは、様々な自然が存在し、そこに住む様々な生きものたちに個性があり、お互いに関わりを持って
いることをいいます。こうした自然や生きものたちが育む水や空気、食べ物などの恵みにより、私たちの暮らしは
支えられています。

問 28 生物多様性を保全するために日頃から心がけていること、実践していることはありますか。

(○はいくつでも) (n=1,409) (%)

1 責任あるペットの飼育	35.1	5 生物多様性に関する記事や広告に目を留める	16.5
2 生態系に配慮した農畜水産物※の購入	16.0	6 生物多様性を保全する活動に参加する	2.4
3 生物多様性保全に取り組む企業※の 製品の購入	10.9	7 家族や友人と生物多様性保全の話をする	6.4
4 身近な自然を生物多様性の視点で考える	24.1	8 その他	1.3
		9 特にない	39.5
(無回答 1.6)			

※**生態系に配慮した農畜水産物**とは、環境保全型農業や有機畜産により生産された農畜産物、持続可能な漁業に
よる水産物であり、例えば有機JAS認証やエコファーマーマーク、海のエコラベルがついた製品が挙げられま
す。

※**生物多様性保全に取り組む企業**とは、製品製造時に環境負荷軽減に配慮したり、清掃や植林などの保全活動を
継続して実施したりしている企業です。今や75%の企業が経営方針に生物多様性保全の概念を盛り込んでおり、
自社ホームページなどで活動を公開しています。

問 29 お住いの周辺地域の自然環境は以前と比べてどのような変化があったと感じますか。

(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 豊かになった	2.1	4 どちらかといえば劣化した	19.8
2 どちらかといえば豊かになった	6.4	5 劣化した	12.3
3 変化はない	42.2	6 分からない	16.0
(無回答 1.2)			

10 地震対策の取組み

問 30 家では、大きな地震に備えて、どのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも) (n=1,409) (%)

1 非常持ち出し品の準備	49.1	7 防災訓練に積極的に参加	7.2
2 食料や飲料水の備蓄	64.9	8 感震ブレーカー※などの設置	6.5
3 住まいの耐震化	15.8	9 消火器の設置	24.6
4 家具・家電などの固定	35.8	10 その他	1.0
5 避難場所や避難経路の確認	37.5	11 特に対策はしていない	11.5
6 家族と連絡方法の確認	35.8		(無回答 0.6)

県では、首都直下地震や南海トラフ地震、県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題となっています。

※感震ブレーカーとは、揺れを感知して電気を止める器具のことをいいます。

問 31 海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたら、どのように行動しますか。(〇は1つ) (n=1,409) (%)

1 すぐに海岸から避難する(5分以内)	91.8	3 津波が迫ってから避難する	0.9
2 用事を終えてから避難する(15分以内)	2.0	4 分からない	3.8
			(無回答 1.6)

問 32 次のことを知っていましたか。「知っていた」、「知らなかった」のどちらかに〇をつけてください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	(n=1,409) (%)		
	知っていた	知らなかった	(無回答)
(1) 小さな揺れでも大きな津波になることがある	69.3	29.6	1.1
(2) 津波は、早ければ地震発生後数分で到達する	91.1	8.0	0.9
(3) 津波は、繰り返し襲ってくる	91.2	7.7	1.1
(4) 津波の伝わる速さは非常に速い(津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わる)	61.0	37.7	1.3
(5) 「津波避難ビル」に指定されている建物がある	45.6	53.1	1.3
(6) 津波の浸水範囲や避難情報などが記載された「津波浸水予測図マップ」「津波ハザードマップ」がある	75.2	23.6	1.2
(7) 津波から避難するときは、「遠いところ」ではなく「高いところ」に逃げる必要がある	94.1	5.0	0.9
(8) 津波警報・注意報などが発表されると、避難を呼びかけるために、海岸に赤と白の格子模様の旗(津波フラッグ)が出されることがある	14.5	84.4	1.1
(9) 津波の発生する恐れがあるとき、海や海岸にいる人に対して、放送やサイレンで津波の情報を知らせることがある	80.1	18.9	1.1
(10) 東日本大震災の教訓を踏まえて、総合的な地域づくりの中で津波防災を推進する「津波防災地域づくりに関する法律」が2011年12月に施行された	15.1	83.6	1.3

問 33 津波に対する防災・減災の観点から、住んでいる地域で実施が望まれるものはありますか。
(○はいくつでも) (n=1,409) (%)

「津波災害警戒区域」の指定

津波が発生した場合に、住民などの生命・身体に危害が生ずるおそれがある区域です。津波から「逃げる」ために、避難訓練の実施、津波ハザードマップの作成、避難施設の確保など、警戒避難体制を特に整備すべき区域です。建物の建築や開発行為は制限されません。

「津波災害特別警戒区域」の指定

津波災害警戒区域のうち、津波が発生した場合、建物が損壊・浸水し、住民などの生命・身体に著しい危害が生じるおそれがある区域です。身体的な理由などにより、津波から逃げるのが難しい住民などが、建物の中にも津波を「避ける」ことができるよう、社会福祉施設、医療施設、学校などを建築する場合などに、一定の規制があります。

「推進計画」の策定

津波防災地域づくりを推進するために市町村が作成する計画で、市町村が実施する施策だけでなく、国・都道府県・地域住民など多様な主体によるハード（津波防護施設の整備）・ソフト（避難訓練の実施など）のあらゆる施策を計画に位置付けることができます。

1 「津波災害警戒区域」の指定	28.0	5 その他	1.3
2 「津波災害特別警戒区域」の指定	25.1	6 特になし	7.2
3 津波防災ビジョンを示す「推進計画」の策定	21.2	7 分からない	16.0
4 内陸に住んでいるため特に望むものはない	33.9		(無回答 3.1)

11 自転車損害賠償責任保険等の加入

問 34 通勤や通学、その他日常生活で自転車を利用していますか。(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 利用している	32.4	2 利用していない	66.1	(無回答 1.5)
----------	------	-----------	------	-----------

【問 34 で 1 を選んだ方へ】

問 34-1 自転車損害賠償責任保険等※に加入していますか。(○は1つ) (n=457) (%)

1 加入している	75.9	3 分からない	5.3
2 加入していない	18.6		(無回答 0.2)

※自転車損害賠償責任保険等とは、自転車を利用中の交通事故で、相手の怪我などの被害に係る損害を補償する保険等のことです。保険等には、自転車専用の保険のほか、自動車保険などの特約(個人賠償責任保険)、自転車に付帯するTSマーク保険などがあります。

【全員の方がお答えください】

問 35 すべての自転車利用者が自転車損害賠償責任保険等に加入することについてどう思いますか。
(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 加入すべきである	83.9	3 分からない	9.7
2 その必要はない	4.5		(無回答 1.8)

12 子育てにおける体罰の意識

問 36 令和2年4月から体罰禁止が法定化されました※。保護者が体罰※によらない子育てをするために、必要な取組みは何だと思えますか。(〇は1つ) (n=1,409) (%)

1 公的機関による相談機能や一時保育機能などの 子育てサービスの充実	48.3	4 分からない	10.7
2 子育て教室による養育のスキルアップ	14.5	5 その他	2.8
3 法律の更なる啓発	10.4	6 特になし	3.2
		(無回答 10.1)	

※ 令和元年6月に成立した児童福祉法等の改正法において、体罰禁止が法定化され、令和2年4月1日から施行されました。この法律施行の背景には、保護者が「しつけ」と称して暴力・虐待を行い、子どもの命が失われる痛ましい事件が続いたことがあります。

※ **体罰**とは、「注意しても聞かないので頬を叩く」など、身体に苦痛、不快感を与える行為を言います。また、子どもに対して、冗談のつもりでも「生まれてこなければよかった」と存在を否定するなどの発言は、子どもの心を傷つける行為であり、虐待や人権侵害に当たります。

問 37 体罰などが繰り返されると、心身にさまざまな悪影響が生じる可能性があることが、科学的にも証明されています。次の中から体罰などが子どもに与える影響について知っているものを選んでください。(〇はいくつでも) (n=1,409) (%)

1 身体に苦痛、不快感を与える	49.6	6 感情をうまく表せない	73.8
2 親子関係を悪くする	69.1	7 落ち着いて話を聞けない	52.7
3 攻撃的になる	57.3	8 我慢ができない	35.6
4 びくびくして落ち込む	64.1	9 自信をなくす	51.9
5 子どもの心を傷つける	77.2	10 知っているものはない	2.4
		(無回答 2.5)	

問 38 子どものしつけで困った時に、誰に(どこに)相談したいと思いますか。(〇は3つまで) (n=1,409) (%)

1 家族や親戚	64.1	6 市役所や町役場、村役場	6.7
2 友人や知人	51.4	7 児童相談所	18.0
3 子どもの学校や幼稚園、保育園など	22.8	8 その他	3.4
4 子育てサークル	4.2	9 相談したくない	2.3
5 子育て支援センター	29.0	(無回答 7.8)	

13 青少年を保護する条例の認知度

問 39 県で「青少年保護育成条例※」を定めていますか、その内容を知っていますか。

(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 知っている	19.7	3 知らなかった	32.1
2 条例があることは知っていたが、内容までは知らなかった	46.3	(無回答)	1.9

※青少年保護育成条例とは、青少年の健全な育成を図ることを目的にするとともに、保護者、県民などの責務を明らかにし、有害図書類の指定及び販売などの禁止や深夜外出の制限、個室など営業施設に係る制限などを規定する条例のことです。

問 40 県で「青少年喫煙飲酒防止条例※」を定めていますか、その内容を知っていますか。

(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 知っている	39.7	3 知らなかった	30.7
2 条例があることは知っていたが、内容までは知らなかった	28.1	(無回答)	1.5

※青少年喫煙飲酒防止条例とは、広く県・保護者・事業者・県民に対して、20歳未満の者の喫煙・飲酒の防止に努めることを定めるほか、購入者が20歳未満の者と疑われる場合に販売者が証明書により年齢確認をする義務を定める条例のことです。

14 地域社会との関わり

問 41 長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしていますか。

(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 そう思う	64.7	2 そう思わない	31.9	(無回答)	3.5
--------	------	----------	------	-------	-----

15 地域や地域の人々と多様に関わる人々 (関係人口)

「関係人口」とは、その地域に住んでいる方でも、また単に観光に来る方でもない、その中間に該当する方のことです。例えば、継続的に地場産品の購入をする方や地域のイベントに参加する方、就労(仕事)を通じてその地域と関わる方のことをいいます。

問 42 お住まいの地域以外に、継続的に関わりを持ちたいと思う特定の地域はありますか。

(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 ある	33.0	2 ない	64.9	(無回答)	2.1
------	------	------	------	-------	-----

【問 42 で 1 を選んだ方へ】

問 42-1 それはどのような関わりですか。最も関わりを持ちたいと思うものを選んでください。

(○は1つ) (n=465) (%)

1 趣味・消費を通じた関わり※1	57.4	4 地域づくり活動への参加を通じた関わり	6.0	
2 参加・交流を通じた関わり※2	12.3	5 ふるさと納税を契機とした関わり	3.4	
3 就労を通じた関わり※3	10.1	6 その他	4.1	
			(無回答)	6.7

※1 地域での趣味活動や飲食、地場産品の購入

※2 地域イベントへの参加や地域の人との交流

※3 テレワークや地元企業、農林水産業などでの労働

問 42-2 お住まいの地域以外に、関わりを持ちたい地域はどの地域ですか。

(○は1つ) (n=465) (%)

1 川崎・横浜地域	17.8	4 湘南地域	20.0
2 三浦半島地域	14.4	5 県西地域	6.5
3 県央地域	4.9	6 その他都道府県	32.0
		(無回答 4.3)	

16 テレワーク（リモートワーク）のニーズ

問 43 テレワーク（リモートワーク）をしたいと考える場所はどこですか。

(○はいくつでも) (n=1,409) (%)

1 自宅	62.1	6 その他	1.3
2 勤務先のサテライトオフィス	9.8	7 特にない	13.5
3 勤務先以外のサテライトオフィス	11.4	8 分からない	10.2
4 飲食店、喫茶店	9.5	9 どこでもよい	3.1
5 宿泊施設	15.3	(無回答 4.5)	

問 44 自宅以外でテレワーク（リモートワーク）をする場合、その場所に何を望みますか。

(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 サテライトオフィスの多さ	8.7	6 自然の豊富さ	8.6
2 テレワーク可能な図書館などの公共施設の多さ	11.1	7 その他	3.1
3 飲食店の豊富さ	2.3	8 分からない	15.4
4 コンビニ、スーパー、小売店の豊富さ	5.0	9 特にない	14.4
5 近隣の静かさ	21.3	(無回答 10.1)	

問 45 リゾート地や観光地などでの滞在中に、余暇を楽しみながら仕事（テレワーク）を行う、ワーケーションをどの形態で実施したいと思いますか。

(○は1つ※) (n=1,318) (%)

1 【ブレッジャー型※】	15.3	5 その他	0.2
2 【リゾートワーク型※】	13.3	6 分からない	25.6
3 【企業が費用負担する研修型※】	6.1	7 実施したいと思わない	29.4
4 【サテライトオフィス型】	4.2	(無回答 6.0)	

※ブレッジャー型とは、出張先などで、滞在期間を延長して余暇を楽しむ形態をいいます。

※リゾートワーク型とは、自費で休暇中にテレワークをする形態をいいます。

※企業が費用負担する研修型とは、グループワークなどを行い、空き時間に余暇を楽しむ形態をいいます。

※問 45 は本来、複数選択の設問でしたが、インターネットによる回答において、複数選択ができない設定となっていました。このため、当該設問については、1つの選択肢のみ回答していただいた1,318名分(郵送分806名+インターネット分512名)を集計し、調査結果とさせていただきます。併せて、複数選択の設問として回答していただいた897名分の調査結果を、次のとおり付記します。ご迷惑をおかけいたしましたことを、深くお詫び申し上げます。

(参考) 複数回答の設問として回答した897名分の調査結果

1 【ブレジャー型】	15.9% (143件)	5 その他	0.2% (2件)
2 【リゾートワーク型】	14.9% (134件)	6 分からない	31.0% (278件)
3 【企業が費用負担する研修型】	9.4% (84件)	7 実施したいと思わない	28.3% (254件)
4 【サテライトオフィス型】	5.1% (46件)	無回答	8.5% (76件)

…*…*…*
集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。(個人を特定するものではありません。)

F 1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1,409) (%)

1 横浜(横浜市)	41.2
2 川崎(川崎市)	12.9
3 相模原(相模原市)	6.2
4 横須賀三浦(横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町)	8.6
5 県央(厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村)	10.1
6 湘南(平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町)	15.1
7 県西(小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町)	4.0
(無回答 1.7)	

F 2 あなたの性別をお聞かせください。 (n=1,409) (%)

1 男性	45.6	2 女性	49.3	(無回答 5.1)
------	------	------	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2021年11月1日現在) (n=1,409) (%)

1 18~19歳	0.2	5 35~39歳	7.2	9 55~59歳	10.4	13 75~79歳	3.7
2 20~24歳	1.3	6 40~44歳	9.0	10 60~64歳	9.7	14 80歳以上	2.6
3 25~29歳	2.9	7 45~49歳	11.7	11 65~69歳	10.3		
4 30~34歳	5.5	8 50~54歳	11.6	12 70~74歳	10.8	(無回答 3.0)	

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(同居、別居は問いません。)

(○はあてはまるものすべて) (n=1,409) (%)

1 小学校入学前	8.8	5 短大、専門学校等在学中	1.3	9 その他	3.1
2 小学校在学中	11.4	6 大学、大学院等在学中	6.2	10 子どもはいない	30.7
3 中学校在学中	6.7	7 学校教育終了[未婚]	20.9		
4 高校在学中	6.3	8 学校教育終了[既婚]	23.9		(無回答 4.0)

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。

(○は1つ) (n=1,409) (%)

1 一人暮らし(単身世帯)	15.8	4 祖父母と親と子の世帯(3世代世帯)	5.0
2 夫婦のみ(1世代世帯)	24.9	5 その他の世帯	4.1
3 親と子の世帯(2世代世帯)	46.9		(無回答 3.3)

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。

また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。

(n=1,409) (%)

(n=922) (%)

1 自営業主	6.0	ア 農林水産業	1.1
2 家族従業者 (家業手伝い)	1.1	イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営)	5.0
3 勤め (フルタイム)	42.8	ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など)	3.8
4 勤め (パートタイム)	15.4	エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上)	6.8
5 内職	0.1	オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など)	20.2
6 主婦・主夫 (勤めていない)	14.1	カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など)	23.5
7 学生	0.6	キ 教育職(教諭、保育士など)	3.6
8 無職	14.9	ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など)	11.1
9 その他(具体的に：)	0.4	ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員)	21.0
	(無回答 4.6)		(無回答 3.9)

質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、11月22日(月)までにご投函ください。(切手は不要です。)

なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、お書きください。

【テーマ名： 】

117人 (8.3%) から自由意見が寄せられました。